

No 9003



明治二十一年二月刊行

# 回取調書

瑞奧匈蘭陸  
伊英北米合六  
衆國之部全



農商務省藏版

緒言

瑞西、奧地利、匈牙利、荷蘭、陸參堡、伊太利、英吉利、北米合衆國ノ國々巡回ノ時日ハ僅少ナリシヲ以テ只其巡回中見聞上著シキモノニ就キ粗取調ヲナシタルニ過キス但陸參堡ノ土地改良即チ土地ノ區畫耕作路排水灌溉星散地ノ分合交換ニ於ル(此取調ハ我國ノ參考上必要ノ件トシテ計畫上且右ニ關ス書類圖面ヲモ請求具備セシモ不幸ニシテメソングレノ沈没ニ會シ海中ニ没却セシハ實ニ遺憾ナレハ歸朝ノ後再ヒ該國ヘ請求シ置ケリ)荷蘭陀ノ牧牛製乳(牧牛製乳ニ係ル許多)又ハ煙草及米ノ販路ニ於ル伊太利ノ養蠶製糸又ハ近年製造業ノ興隆ニ於ル瑞西ノ牧畜及工藝ニ於ル匈牙利ノ牧畜又ハ近年開墾植林ノ實效ニ於ル英吉利ノ牧畜及製造業ニ於ル米國ノ農業牧畜開墾又ハ製造ニ於ル最モ著目スル處ノモノナリ然レド憾ムラシハ之ヲ精密ニ取調フルノ時日ヲ得サリキ故ニ其巡回中特ニ報道セシモノ及追加セルモノヲ(反調書第一號)トス其目如左

- 特報第七號 瑞西國運輸ノ便及農學校百藝學校 一 丁
- 全 第八號 瑞西國ヘノ生糸新販路 七 丁

全	第九號	匈牙利國農工業ノ概況	九	丁
全	第十號	埃國農學校及貴族ノ所有地	十五	丁
全	第十九號	輸出品ニ關スル管見總論	五百七十五	丁
全	第二十號	輸出ニ關スル景況ノ管見其一米ノ事	二十一	丁
全	第二十四號	全上其四煙草ノ事	三十五	丁
全	第三十一號	商法會議所交際上ノ利益	五百八十五	丁
全	第三十二號	製造業ヲ發芽セシムルノ方便	五百七十九	丁
全	第三十四號	輸出ニ關スル景況ノ管見其二生糸ノ事	四十三	丁
全	第三十五號	陸參堡幼馬放育所	四十七	丁
全	第三十六號	輸出ニ關スル景況ノ管見其五銅ノ事	四十九	丁
全	追加特報第七號	陸參堡農業有形組合	五十三	丁
全	第八號	全國土地改良ノ概況	五十七	丁
全	第九號	伊國蠶卵製造家ノ概況	六十一	丁
全	第十號	全國生糸檢査所	六十五	丁

全	第十一號	全國製糸所	六十九	丁
其他左目ノ書類ヲ添ヘテ取調ノ屆ヲ結フ				
全	取調書第二號	伊國養蠶興復書	七十一	丁
全	第三號	伊國未蘭府貯金銀行組織法	九十五	丁
全	第四號	伊國土地抵當銀行條例	百三十一	丁
全	第五號	伊國專門實地農業學校	百九十五	丁
全	第六號	伊國農商工務省職制	二百十九	丁
全	第七號	埃國農務省(千八百八十七年)豫算表	二百三十	丁
全	第八號	埃國同業組合規程準則	二百三十三	丁
全	第九號	埃國同業組合職工會規程準則	二百五十五	丁
全	第十號	埃國病工救助金庫規程準則	二百六十三	丁
全	第十一號	埃國同業組合仲裁々判委員會準則	二百七十九	丁
全	第十二號	埃國工業監督法律	二百九十	丁
全	第十三號	埃國山間牧牛獎勵意見	二百九十九	丁

全 第十四號 馬匹博覽會匈牙利出品記事 四百八十一丁  
 全 第十五號 米國植物及全種子物無稅遞送 五百六十九丁  
 通計十五號

凡例

- 一本篇ハ農商工務上本省ノ參考ニ供スル爲メ瑞西、埃地利、匈牙利、荷蘭、陀陸、參堡、伊太利、英吉利、北米合衆國ニ就キ若目スル事項ヲ載セタリ
- 故ニ全篇ヲ通シテ敘事ヲ定メタルニアラス
- 一本篇ニ水産、山林、特許、地質等ノ事項ヲ載セサルハ各當局者ヲ派遣シテ取調ヲ了シタレハナリ
- 一特報ノ本篇ニ載セタルモノ必シモ本篇ノ列國ニノミ關スルトニハ非ラス要スルニ佛、獨、白ノ如キ純然該國々ノ調ヘニ屬セサルモノヲ本篇ニ載セタルニ過キス
- 一本篇中地名ハ雙柱(國名中ニモ世ニ普ク識ラレサルト想フモノニハ雙柱ヲ加フ)人名ハ單柱、物名、數量、貨幣名ニハ「」ヲ加フ然レモ已ニ譯名ノ世ニ普ク識ラレタルト想フモノニハ之ヲ加ヘサルハ其繁ク省クニアリ又適右傍ニ假名ヲ附シタルハ原語ニシテ左傍ナルハ邦語ナリ

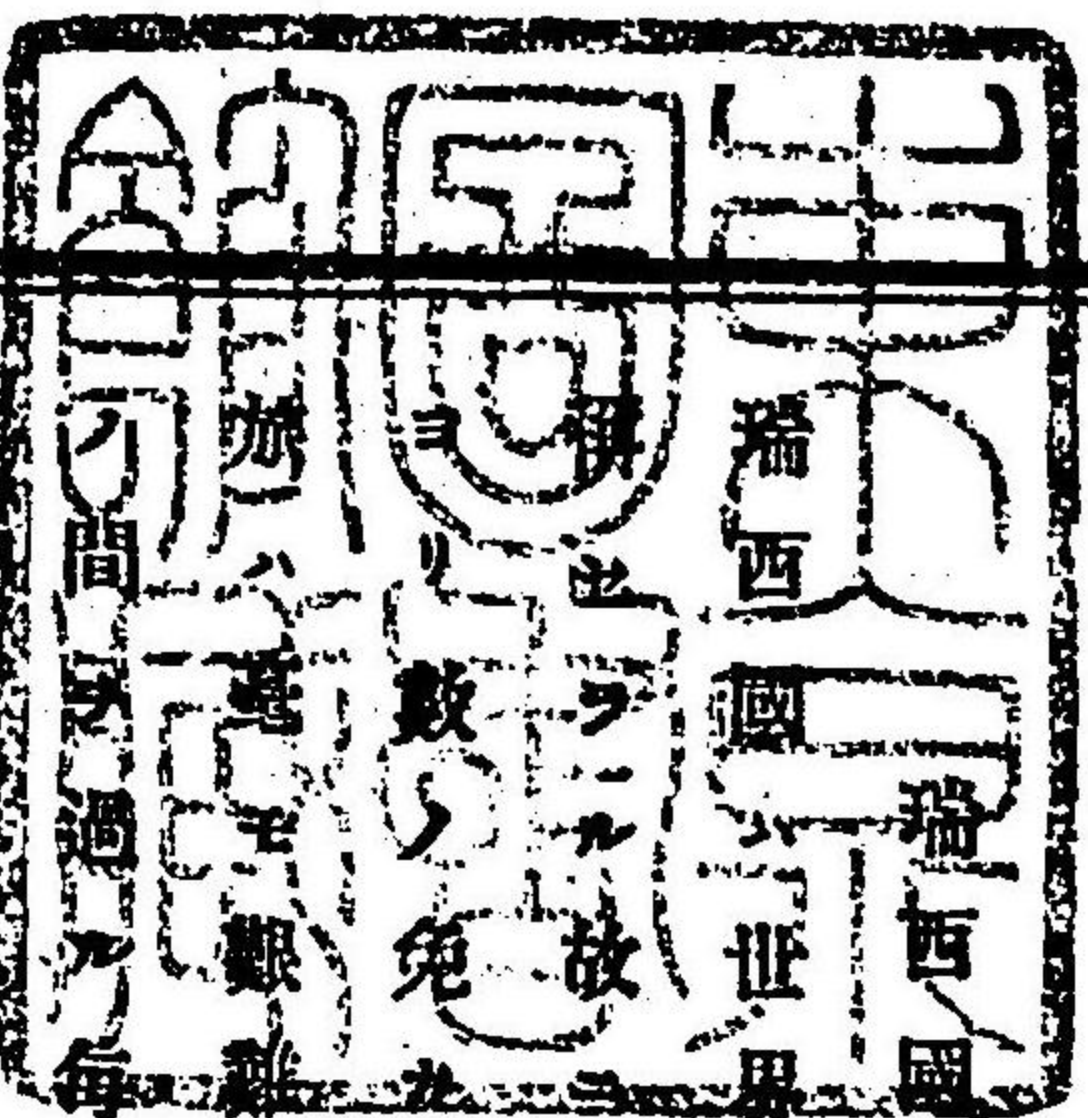
凡例

一本篇特ニ目次ヲ附セス緒言ノ書目ニ就キ丁數ヲ示シテ索引ニ便ス  
ルハ簡ニ從フニ過キス  
一尺度量衡及貨幣ノ名稱ハ其國ノ制ニ隨ヒ割註ヲ以テ本邦トノ比例  
ヲ示ス但最初ニ之ヲ示シタルモノハ後ニ省クテ例トス

歐洲巡回特報第七號 (白耳義國比律悉府發)

明治十九年七月三十日

繩田書記官



瑞西國 運輸ノ便及農學校百藝學校  
瑞西國 有名ノアルプス山脈國中ニ連亘シ歐洲中ノ山國ヲ以テ  
天然ノ地勢上ヨリスレハ運輸ノ不便ト行旅ノ艱難ハ素  
ルヘカヲサルモノナリ然ルニ實際ハ運輸甚便ニシテ行  
旅ハ甚モ艱難ニ感セサルノミナラス却テ鬼工神作トモ稱スヘキ工事  
ニ人ヲシテ愉快ト呼ハシムルモノハ何ソヤ彼國人ノ奮  
勉以テ鐵道及道路ニ力ヲ盡シ天然ノ險惡ニ勝テタルモノト謂ハサル  
ヘカラス彼國峻嶮ノ難場ヲモ不厭ノ鐵道ヲ設ケタルノ便ハ申迄モナ  
ク道路ノ修築至レリ盡セルハ凡他國ニ其比ヲ見サルカ如シ蓋シ地勢  
ニ基キ國ノ經濟ヲ深ク鑒察ノ計畫セシニ非ラスンハ得テ如斯ノ地位  
ニ達センヤ想フニ瑞西國山林原野ニ富ムト雖ヒ斯ノ運輸ノ便ナシ

ハ其生産物ヲ如何セシテ瑞西國天賦ノ風景ニ富ムト雖モ斯ク人功ヲ加ヘテ風致ヲ贊クルニ非サルヨリハ如何シテ歐洲各國人ヲシテ此地ニ戀々セシムルヲ得ンヤ元來瑞西國ノ風景ハ山水ノ自然ニアリトスルモ其要ハ大小數十ヶ所ノ湖水ニ存ス就中シユネーグナユリツクツーン等ノ湖水ヲ以テ最トス然リ而シテ是等天然ノ風景ハ固ヨリ我琵琶湖ニ如カス箱根湖諏訪湖ト雖モ彼は一短一長ノ間ニ居ルカ如シ只人功ヲ加ヘテ天然ヲ贊ケタルハ遠シ我カ及ハサル處ナリ鐵道ノ架設道路ノ修築橋梁ノ壯觀湖邊層々ノ石室巍々皎々タリ涼船乗上リノ便理其他諸般ノ用意周到完備ニシテ猶且行旅人ヲ待遇スル頗ル懇到ナルハ他國人ノ最モ好スル處トナレリ於愛平歐洲人ハ避暑ノ樂土トシテ一年一年ヨリ來賓多キヲ加ヘ西ヨリ東ヨリ南ヨリ北ヨリ雲集來遊スルモノ陸續踵ヲ接スルニ至レリ爲メニ得ル處ノ金額毎年幾千万ナルヲ識ラスト聞ク畢竟國民ノ奮勉注意ニ依ラサルヨリハ焉ソノ如斯ノ大富源ナリ此國ニ注流セシムルヲ得ンヤ

道路修築橋梁架設ノ方法ヲ聞クニ悉ク其舉ノ初メニ既シテ萬全ノ計畫ヲナシテ後建築法ニ熟練ナル土工受負者ニ命ジテ之カ工事ヲ掌ラシムト云故ニ一步ヲ修築スレハ即チ一步ハ完全ノ道路トナリ橋梁トナリ如斯ナルモノ凡百年間其功績積ミ積ンテ今日ニ至リ遂ニ全國ノ道路橋梁概シテ修築シ得テ目下ハ殆ント修築ノ急要ナク只修繕ヲ怠ラサルニ勉ムルノミト其修繕ノ如キハ各村ニ置ク處ノ道路掛リ員三日乃至五日毎ニ其受持場ヲ巡視シ些細ノ破損アルモ直チニ之カ修繕ニ着手シテ決シテ大破ニ至ラシメス故ニ方今毎年ノ道路費ハ實ニ僅少ニシテ地方税中ノ十分ノ一ニ過キサルナリト云フ

斯ク評シ來レハ或ハ彼國人民ハ徒ニ他國人ノ來遊ノミヲ待チ我國神社佛閣門前町ノ如キ人情ナリヤニ聞ユヘキヤモ難計ト雖モ其實決シテ然ラス彼國ノ富源ハ農事上ニテハ第一山林ノ繁殖及葡萄ノ産出ニ名アリ牧羊牛羊ハ瑞西牛ヲ以テ著名ニシテ他國ニ多ク販賣ス工業ノ如キハ袖時計及雙眼鏡ノ製作ヲ以テ宇内ニ著ハレ他國ニ輸出スル處ノ

金頓年々無慮佛貨七八千方法ニ降ラスト云各カントン(我カモ郡)ハ自治農業ヲ勵ミ小農家皆富ミ且富家ノ如キハシユチーブ湖邊ノ綠樹中ニ巍然タル石室ノ「ニヤトウ」ヲ構ヘ出沒散見スルモノスラ其數幾干ソヤ是皆數百千萬己上ノ金傑家ニシテ設爲セシモノト云就中佛人ロチユルドノ別邸ヲ以テ最トス其人ノ如キハ世界第一ノ金傑家ヲ以テ目サレタル人ナリト聞ク

瑞西全國ニ農學校五ヶ所ヲ設ケ其内貳ヶ所ハ學理及現業ヲ講習スル所ニシテ其三ヶ所ハ專ラ實地農業ノ講習所ナリ實地講習所ノ生徒ハ日々現業ニ從事セシメ傍ラ學理ヲ教授スルモノニシテ實用ニ甚適切ナリ其經費ハ所轄地ノ収穫物及牛馬羊ノ繁息利益ヲ以テ之ニ充ツルノ外儘ニカントン費ヨリ補助金アルノミ或ル學校ニ至リ見ルニ五千「ニクノール」ノ地ヲ耕耘シ校長モ自カラ勞ヲ執リテ奔走セリ生徒ノ學期ハ二ケ年トス生徒一ケ年食料授業料一切ヲ三百法ナリ他カントンヨリ來學ノモノハ六百法ナリト聞ク但獨乙語ヲ學フモノハ猶一ケ

年ヲ加フルナリ

而シテ漸ク高尙ノ學術技藝ヲ學ハシムヘキニハ著大ノ百藝學校アリ本校ハチユリツク府ニアリ國費ヲ以テ建設スル處ノ盛大ナル學校ニシテ現在ノ生徒七百餘名各専門ノ藝術ヲ學フ其生徒ハ歐米各國ヨリ來リ學フモノ、半數己上ナリト云我宮城縣令ノ令息松平忠太郎氏ハ本校ニアリテ化學専門ノ修業中ナリ本學校建物ノ廣大ナル驚クベクシテ器械ノ整頓ハ蓋シ歐米各國ノ百藝學校ニ秀逸ナルモノト聞ク方今モ亦化學舍ノ建築中ナリ其建築費一千二百萬法ナリト聞ク

依之觀之ハ運輸ノ便ト謂ヒ學藝教育ノ方法ト謂ヒ一モ實用ニ適切ナラサルモノナシ其事業ノ廣大ナル(兵備ノ充實等見聞シタル)願テ僅々三百萬人ニ滿タサルノ人口ニシテ成シ得ヘカラサルカ如クシテ能ク成シ得タルハ眞ニ敬賛セサルヲ得ス要之ニ瑞西國人民ハ勤勉ナリ儉素ナリ忍耐ナリ温和ナリ斯ノ四德ヲ能ク保チ一途ニ實益ヲ貴フノ風ナリト聞ク豈虛譽ナランヤ

歐洲巡回特報第八號 (自耳義國比律悉府發)

明治十九年八月十一日

瑞西國へノ生糸新販路

瑞西國ハ所謂山國ナレハ工業輸出品ノ如キモ成ルヘク荷嵩ナラサルモノヲ目途トスルカ如キハ從來時計雙眼鏡等ノ工業者夥多ナルヲ以テモ織ルヘキナリ然リ而シテ近年絹織物ノ織高漸次多キヲ加ヘ歐洲大陸ニモ販出スト雖モ主トシテ米利堅へ輸出セリ其品位ノ如キハ佛國里昂製ニ及ハスト雖モ近年チユリツク府ニ於テ市中用水ノ爲メ大ナル揚水場ヲ設ケ其仕掛ケハ水力ニ依リテ水ヲ揚クルノ盛大ナル器械ニシテ餘力ノ動力ハ夥多ノ織物場器械運轉ノ原動力トナリ織出ノ費用大ニ減スルヲ以テ遂ニ中等品ノ如キハ幾分カ里昂ノ販路ヲ奪フニ至レリト聞ユ爲メニ生糸ノ需用モ頗ル多ク我國ノ生糸モ亦輸入スルモノ年々夥多ナリト云然レモ從來直接ノ貿易ナク多クハ龍動ヲ經



テ(或ハ里昂ヨリ輸入スルモノナレハ將來ハ直取引ヲナサンコト企  
望スル旨ニテナユリツシ府ニ財產家ト稱セラレタル商人ボートノル  
ミユラル氏今般其事ヲ我外務省ニ建議スルコトナレリ時宛モ谷大臣  
ノ巡回ニ會シタルヲ以テ事情具陳ノ爲メ面謁ヲ乞出即チ許容セラレ  
テ縷々意見ヲモ聞カレタリ如斯ハ將來一ノ新販路トモナルヘキ端緒  
タラハ幸甚即チ同人ヨリ差出シタル日本生糸統計并説明書相添(此ニ  
ハ本人ノ身元器豫シメ御參考ニ供セントス

歐洲巡回特報第九號 (白耳義國比律悉府發)

明治十九年八月三日

匈牙利國農工業ノ概况

匈牙利國ハ歐洲中ニテハ文明ノ後進者ヲ以テ目セラレタル國柄ニシ  
テ歐洲中央部ノ文明ニ步ヲ讓ル勿論ナルヘシト雖也近ク二十年來ノ  
進歩ハ注目セズンハ非ラス就中從來原野ニ富ムノ國ナルヲ以テ曩年  
原野局ヲ置キ開墾及山林ノ植樹ニ熱心以テ保護獎勵ニ力ヲ盡シ目下  
ノ現況ニテハ山林ハ綠々トシテ繁茂ナラサルナク(植樹種苗ノ部分最モ多  
許多ナルヘシ)原野ノ開墾セサルモノナク何レノ山嶺如何ナル傾斜ノ地  
モ植樹ニアラサレハ開墾地ニシテ穀菽又ハ牧草ヲ播種セリ方今ノ現  
況匈牙利國ニ寸地モ空原曠野ナシト評スルモ不當ニアラサルヘシ(歐  
洲各國ノ發ニ至原曠野ナキハ通例ナリトモ匈牙利國ノ發ニ至原曠野ナキハ通例ナリトモ匈牙利國ノ發ニ至原曠野ナキハ通例ナリトモ匈牙利國ノ發ニ至原曠野ナキハ通例ナリトモ)  
道路修築橋梁架設ノ如キハ市街ヲ除クノ外ハ我國ノ現況ニ一步ヲ進

メタルモノ位ニシテ(鐵道ハ別途ニ做シテ)佛瑞等ノ善長ナル道路ヲ以テ目スレハ甚タ道路惡シク橋梁粗ナルカ如シト雖此該國ノ首府グダベスト市街ノ如キハ二十年來市區改正ニ着手シ其已ニ改修ノ部分ハ殆ント佛國ノ巴里ニ彷彿タリト評スルヲ得ヘンゾベスト府ハ多惱河ヲ挾ミ其兩岸ニ市街ヲナシ其東南ニアルヲブクト云ヒ其西北ニアルヲベストト云之ヲ總稱シテゾベストト云宛モ我博多福岡ニ於ケルカ如シ其兩市街ニ通スル大橋ニアリ一ハ鐵ノ鈎橋ナリ一ハ二個ノ石柱ヲ河流ニ建テ、架渡シタル鐵橋ナリ此二大橋ノ如キハ未ダ曾テ歐洲巡回地ニテハ見サルノ盛大壯觀ナリ

匈牙利國ハ牧畜ヲ以テ著名ニシテ名馬多數ヲ產出シ他國ニ販出ス然レトモ牛馬俱ニ固有ノモノハ骨格甚善長トスルコアララス頻年改良ニ力ヲ盡シ其乗用ノ良種牡馬ハ英國又ハ亞列比亞ニ仰キ貨車用ノ良種牡馬ハ佛國ニ仰キ牡牛ハ瑞西國ニ仰キ俱ニ匈牙利國ノ牝牛馬ニ交尾セシメ漸ク今日ニ至ルモ猶種牡牛馬ハ年々幾千頭ヲ英、亞、佛、瑞等ヨリ

購入スルヲ怠ラヌト云

種畜場ハ盛大ナル(五千七百エクタール)官設ノ農業場ニシテ一ケ年ノ經費廿五万「フロラン」(我五十錢ニ當ル)ナリ其設ケ軍用ヲ兼テ陸軍省農商務省ノ兩管タリ種牛馬ハ官ノ牝牛馬ニ交尾セシムルモノト人民所有ノ牝牛馬ニ交尾セシムルトアリ人民ノ牝牛馬ニ交尾セシムルニハ交尾料ニ「フロラン」乃至三「フロラン」ヲ徴収ス而シテ人民持ノ良牛馬出生ノモノハ滿一ケ年ニシテ官ニ購入ス其價值ハ自然ノ相場ニ任スルノミナラス人民若官ニ賣ルコト好マサルモノハ毫モ之ヲ檢束スルコトナシ飼養ハ悉ク舍飼ニシテ日々運動ノ爲メ放牧スルナリ其運動ヲナサシムルニ時間ヲ限リ規律號令ヲ以テ數百頭ノ馬ヲ一齊ニ運動ナサシムルハ實ニ軍令ノ隊伍ニ於ルカ如シ一放牧場毎ニ騎馬ノ番人アリテ之ヲ監守シ之ヲ運動セシムルナリ

匈牙利國ニハ養豚ノ業甚盛ナリ主トシテ獨乙國ニ販出ス其金額一ケ年凡壹億八千万「フロラン」ナリト云(獨乙ニテハ鹽豚トナシ佛國ニ輸

出スルモノ大部ニ居ルヨシ其方法農家各自ニ飼養スル處ノ豚ヲシテ  
 隨時一ヶ所ニ集メテ之ヲ肥シ販出ノ門戸トナル中央養豚所アリ毎ニ  
 十三万乃至十五万頭程ヲ肥スノ豚舎ヲ設ケタリ新陳代謝スルモノ前陳  
 ノ頭數ヨリ減スルヲナシ之ヲ肥スノ食料ハ唐蜀黍及大麥粉ナリ爲メ  
 ニ場内ニハ之ヲ粉ニスル大器械場アリ又豚ノ病毒ヲ試験スル所アリ  
 荷クモ病毒アルモノハ悉ク之ヲ殺シテ石鹼トナス即チ場内ニ石鹼製  
 造所アリ場内ニハ鐵道ノ支線ヲ通シ輸出ノ便ニ供セリ豚ヲ運送スル  
 ノ汽車ハ二層ノ大箱ニシテ粗ニ横棧ヲ打付タルモノナリ一列車ハ一  
 百ノ列車ヲナスト云盛大ナル豚ノ輸出ヲナスヤ  
 匈牙利國ハ牧畜盛大ナルヲ以テ獸醫學校甚ク整頓セリ蓋シ歐洲中ニ  
 テ優等ノ地位ニアルヘシ而シテ蹄鐵業ハ最モ他ニ優レリト云  
 匈牙利國ハ小麥ノ輸出ヲ以テ歐洲中ニ著名ナリ  
 鐵工所ノ文明進歩ニ必用ナル不俟辨ナリ而シテ匈牙利國ノ如キハ中  
 央ニ官設ノ大鐵工場アリテ大砲鐵道鐵橋農用汽罐等凡一個人ノ力ニ

テ成シ能ハサル(歐洲中央部ニテハ一個人ノ若クハ合社ニテ成シ能ハサルノ工業ナリ)ノ大  
 製造場ハ何品ニ限ラズ官民ノ需用ニ隨テ之ヲ製作ス稍小ナル鐵工所  
 ノ如キハ營業者四方ニ普ク需用ニ足レリト聞ク  
 葡萄酒ノ如キモ中央貯藏所アリテ大小各自ノ釀造セルモノヲ隨意ニ  
 送致シテ鑒定ヲ乞ヒ販賣ノ紹介ヲ托スルモノナリ貯藏所ニテハ其送  
 リ來ルモノノ品位ヲ鑒定シ等級ヲ定メ商標ヲ附シテ貯藏シ其金ヲ借  
 ラントスルモノニハ相當ノ金ヲ貸シ本人ノ望ヲ待テ何時ニモ販賣ノ  
 媒介ヲナスモノトス其設ケ半官半民ノ如ク株金ハ人民ノ「コンパニ」  
 ニシテ社長ハ農務局長之ヲ兼ネタリ  
 匈牙利國ハ木材ニ富ムヲ以テ木工所甚盛ナリ皆人民ノ營業ナリ其  
 製作ノ大ナルハ木挽ヨリ小ナルハ室内ノ器具製作ニ至ル迄細大需用  
 ニ應シテ之ヲ製作ス而シテ其器械力ニ依ルヘキモノト人工ニ依ラサ  
 ルヲ得サル部分トノ分界如何ニモ其極所ニ至リテ止マリタリト謂フ  
 ヘシ

匈牙利國ノ高等山林大學校ハ著明ナルモノナリ本校ニハ前年武井山林局長ノ臨視セルヲ以テ愛ニ其景況ノ報道ヲ贊セス  
已上ハ其大要ヲ掲クルニ過キス其詳細ノ如キハ他日ニ讓ル

歐洲巡回特報第十號 (白耳義國比律悉府發)

明治十九年八月五日

埃地利國農學校及貴族ノ所有地

埃國ノ農學校ハ全國ニ五ヶ所アリテ學理及現業ヲ講習セシム然レテ特ニ見ルニ足ルモノナシ只ブリールト云處ノ農學校教科中「ビール」製造ノ一科ハ頗ル現業ヲナサントスルモノ、企望ヲ滿タスニ足ルモノニテ諸器械ヲ備ヘ現場ニ學理ト現業トヲ教授ス學期ハ二ヶ年トス此教科ヤ未ク歐米各國ニ設ケサルモノ、由ニテ適本校ニ設ケアルヲ以テ佛ノ文明國ヨリモ米利堅ノ數千里ヲ隔テタルヨリモ俱ニ來學ノ者アリ要之ニ前途現業百技ノ進歩ヲ望ムニハ何レノ藝術ヲ問ハススル教科ノ備ハランニ實ニ羨望ノ念ヲ發シタリ  
猶蜜蜂飼養方法上最モ見ルヘキモノアリ其方法種々アリト雖モ蜂ノ一度造リタル窩ハ其儘ニ永久保存セシムルノ方ニシテ蜂ノ勞力ヲ集

蜜ノ一方ニ盡サシムル等ハ其一ナリ其他蜂ノ食料ヲ殘スノ分量及器具ノ設ケ等甚注意ノ點アリ

埃國ハ富國ニ非ストハ世評ノ免カレサルカ如シ然レトモ個ハ政府ト普通人民ノ大体ニ就キテノ評ニシテ一人一個ノ上ニハ富メルモノ多クアルヘン殊ニ貴族中ニ著名ノ富チ有スルモノチブレンス、スワヂテソポルト云フ此公家ハ埃國三十分一ノ土地ヲ所有シ且直接農工ノ業ヲ營ムノ家ニシアレハ政府ノ紹介ヲ得テ我大臣及隨行員トモ該所有地ニ至レリ其見聞ノ大要ハ左ノ如シ

- 一 該家ハ從來ノ諸侯ナリシニ千八百四十七年己降事故アリテ政權ヲ失シ爾來大ニ財產ノ點ニ注意シ方今七十萬「モロゲン」(ハ概ネ我ニニ當レリ)ノ土地ヲ所有シ其内五十萬「モロゲン」ハ森林ニシテ二十萬「モロゲン」ハ耕宅地及溜池其他ノ雜地ナリト云フ
- 一 森林ニ嚴重ノ輪伐法アルハ勿論植付監護成長等十ヶ年チ一期トシ三期間即チ三十ヶ年チ通觀シテ利益得失ヲ鑑ミ將來チ改良ス

ルノ方法ニシテ逸々之ヲ詳悉表記シ一目瞭然ノ簿冊ヲ整理セリ且伐株ノ樹木ハ木工所チ設ケテ其用ニ隨ヒ材トナシテ獨乙國等ニ販出スルモノト云

一 耕シハ汽力ニ依リ一器械ノ力ハ凡牛四十頭ノ勞力ニ代用スト器械ハ耕スヘキ土地ノ兩端ニ汽鐘二個チ据付ケ鐵繩ヲ以テ「アラオ」チ運轉スルモノナリ該器械ノ價值ハ一具ニテ凡三萬五千「フロラ」ニナリト云

一 溜池ハ專ラ鯉魚チ主トシ其他ノ養魚チナス處ニシテ小池ハ二ヶ年養魚シテ一ヶ年耕作シ大池ハ六ヶ年養魚シテ一ヶ年乃至二ヶ年耕作ス飼料ハ獸肉又ハ糞土ニ發蟲セシメタルモノヲ以テ之ニ與フ池ノ大ナルハ二三千「モロゲン」小ナルハ五七十「モロゲン」ナルアリ大小數十百ヶ所アリ其結構注意能シ行届ケリ養魚ノ主任者ハ厥ル動物學ニ富ミ殊ニ數年ノ經驗上ヨリシテ一ノ著書チナセリ前古未發ノ發明アリト其著書ハ印刷成ルノ日一本ヲ請ヘ置ケ

リ他日該書ヲ得ハ我國ニ得ル處多カレハ鯉魚ハ維也納伯林又  
 ハ巴里龍動迄モ販出スト云其生鯉ヲ鐵道ニテ運送スルノ桶アリ  
 甚ク工夫ヲ用ヒタルモノナリ  
 一牧畜ニ甚盛ナリ牛馬羊豚ノ四種トス其利益ハ耕作ニ優ルモノニ  
 シテ殊ニ肥料ヲ得ルノ益大ナリ但堆糞法ハ我國ノ法ヲ採用シテ  
 大ニ益ヲ得タリト其法我國ノ堆糞法ニシテ一層之ニ注尿等ノ器  
 械ヲ以テシテ辨理ヲ加ヘタルモノナリ  
 一蒸菜ノ耕作場アリ該地ニハ製糖器械所アリ我カ紋別製糖器械ニ  
 大同小異ナリ但目下ハ歐米各國ノ競争ニ依リ毫モ利益ナキノミ  
 ナラズ損失ヲ免カレサルナリト云  
 已上所有地一ケ年ノ歲入ハ壹千六百萬「フロラン」乃至二千萬「フロラン」  
 ナリト云該家ニハ所有ノ「シヤトウ」七ヶ所アリ皆所有地内ニ散在ス何  
 レモ廣大ナル王宮ノ如シ特ニ當老公經營ノ新「シヤトウ」ハ三十ヶ年ニ  
 シテ落成セ經費七百萬「フロラン」ヲ要セタリト此「シヤトウ」ニハ老公居

住セリ今年八十七歳ナリト云  
 若公アリ五十有餘未タ家督ヲ繼カス別ノ「シヤトウ」ニ居住ス孫公アリ  
 三十前後ト二十前後ノ二人已上ノ四公皆新「シヤトウ」ニ集マリ我大臣  
 ナ應應優待甚盡セリ

歐洲巡回特報第廿號 (佛國巴里府發)

明治十九年十一月廿四日

特報第十九號ニ陳セシ歐洲輸出品ニ關スル管見ヲ開陳シテ御參考ニ  
 供センニハ先ツ生糸、米、煙草、銅、硫黃、陶器、磁器、銅器、漆器、絹織物、醬油、菜種  
 魚油、木蠟、及雜貨等ノ序ヲ逐テ陳スヘキノ所其第一タル生糸ノ事ハ未  
 タ伊太利西班牙ニ到ラスシテ之ヲ陳スルハ事早計ナレハ暫シ之ヲ措  
 キ其第二タル米ノ事ニ及ハントス尤米ノ事モ亦未タ龍動セノソ等ニ  
 到ラサルノ前ニ之ヲ陳スルハ稍早計ニ似タリト雖モ龍動ハ米ノ需用  
 僅少ニシテ伊太利ニ至ルハ其期甚遠シ本年ノ米輸出氣節前ニ事ヲ報  
 シ得ヘカラサルヲ以テ取敢ヘス爰ニ米ノ事ヲ報道シ順次他ニ及サン  
 トス但シ陶、磁、銅、漆器及雜貨ノ如キハ方今販路閉塞ノ事ヲ特報第十六  
 號及第十九號ニ開陳スト雖モ個ハ固ヨリ大体ノ事ニシテ之カ節目ニ  
 涉リ我カ國ノ美術ヲ保護シ及海外ニ名譽ヲ保タシメ又ハ輸出ノ區域

ナ擴張スヘキ方便ノ如キニ至テハ絶念スヘキモノニ非サルハ勿論進  
テ大ニ計畫スル所ナクシハ非サルナリ是等ニ關スル管見ハ他日逐次  
ニ報道又ハ歸期ノ日ニ開陳シ以テ御參考ノ万一ニ供スルコトアラン  
トス

輸出品ニ關スル景況ノ管見 其三米ノ事

米ハ我國人民ノ依テ以テ生命ヲ養フヘキ必需品ナルノミナラス歐洲  
ヘノ輸出品中ニテハ將來甚望アルモノナリ然レトモ其需用ニ超過ス  
ルノ輸出ヲナスカ若クハ需用者ノ望ニ適セサル品ヲ輸出スルカ又ハ  
取引先キノ信據ヲ闕ク等ノ事アルトキハ忽チ其販路ヲ閉塞スヘキヲ  
以テ深ク彼是ノ事ニ注意セシムルハ非サルナリ聞クカ如クシハ日本米  
ノ歐洲輸出ハ二十年來中絶ノ姿ニテアリシモ西曆一千八百八十一年  
己降再ヒ輸出ノ事アリシヨリ其需用ハ年月ト俱ニ擴張スルノ勢アリ  
尤富有者ハロイヤル米ヲ好ムモノ多シト畢竟從來ノ慣習モアルヘシト

雖日本米質ノ最良ナルヲ以テ價值ノ如何ニ係ハラス之ヲ需用スルノ風  
習ナリ然レトモ其需用ノ區域ハ日本米ヲ需用セントスル區域ノ如ク  
廣大ナラス是レ日本米ハ米質良好コシテ價格シヤク米ヨリ遙カニ安  
價ナルヲ以テ一般ノ人民ノ好ニ適スレバナリ  
英領印度各地ノ米ノ如キハ一層安價ナリト雖日本米質ハ遠ク我カ日本  
米ニ及ハサルヘシ若夫レ日本米ノ需用區域擴張ノ順序ヲシテ誤ラザ  
メスハ蓋シ需用區域ノ大部ヲ占メ得ヘケン即チ荷蘭陀ズハインドル  
ヲ精米所ノ價值ハ左ノ如シ

精米五十基ニ就テノ價格

五十基四分ノ三ヲ以テ「ホンドル」エリート  
スニ「ホンドル」エリートヲ以テ一噸トス

瓜哇 英貨二十志

日本 全 拾二志

印度 全 十一志

因之觀之ハ一般人民ノ我カ日本米ヲ好ムヤ故アルナリ各地米商ノ言  
フ所ニ據レハ日本米ノ需用ハ年月ニ隨ヒ比例スヘカラサルノ需用ナ



擴張セリト若將來需用ノ度ニ超過セス猶且需用ヲ限カレス殊ニ輸入ノ氣節ヲ誤ラズ商業上正實ヲ主トセハ將來ノ望甚ク大ナルヘシ目下歐洲ニテ米穀需用ノ額ハ概テ八十萬乃至九十萬噸ノ間ニアルカ如シ今龍動ニテ取調ラル統計ニ依レハ左ノ如シ

年 度	需用即チ輸入額
千八百八十一年	米八十四萬二千〇〇七噸
千八百八十二年	米九十萬六千二百九十三噸
千八百八十三年	米九十二萬二千八百三十五噸
千八百八十四年	米八十七萬三千三百九十五噸
千八百八十五年	米七十九萬八千百〇〇噸

如新多頓ノ需用中我カ日本米ノ輸入ハ甚僅少ニシテ其數額如左

年 度	輸入額
八 十 一 年	米二千二百〇〇噸
八 十 二 年	全三萬三千四百廿八噸

八 十 三 年 米一萬四千六百五十〇噸  
 八 十 四 年 全五萬六千三百四十六噸  
 八 十 五 年 全九千六百〇〇噸

已上ノ數ヲ以テスレハ我カ日本米ノ輸出比例ハ概テ歐洲ノ需用高四百分ノ一ヲ以テ最少ノ輸入年トシ十五分ノ一ヲ以テ最多ノ輸入年トス而シテ前ニ掲グル瓜哇米トノ價格ハ十ト六ノ比例ナリ夫レ歐洲各國甚ク富メリト雖ヒ其富有者ノ部分ヨリ寧ロ富有ナラサルモノノ部分多キニ居ルハ勿論猶且最下等貧窮者ノ部分ニ至テハ蓋シ我カ國ノ比例ニモ優ルヘキト想フ假令貧富ノ區別ハ孰レニアルニモセヨ利ヲ以テ主眼トスル歐洲人果シテ我カ日本米ヲ利トスルニ至ラハ焉ソシテ之ヲ需用スルニ傾カサランヤ尤方今ノ商業ハ世界ノ競争中ニ勝ヲ制セスノハ非サルモノナレハ瓜哇印度トノ競争ハ素ヨリ免カレサルモノト覺悟セサルヘカラス

方今歐洲ニテ日本米ノ需用ハ先ツ五萬噸ヲ以テ目的トスヘシト云上



米ノ價格ハ三月頃迄ニ若ノ分直段宜シ總シテ毎年一月ヨリ順次一ホ  
 ンドルニ一トコ付半志程宛ハ下落スルノ例ナリ  
 日本商人ハ見本ニ劣ル處ノ米ヲ送ル事多シ然レハ賣主ニ在テハ當初  
 見本ニテ約定シタル價格ニテ賣却スルコトヲ得サルノミナラス買受人  
 ニ在テハ假令價值ヲ下クルモ其損毛ヲ償フコ足ラサレハ自然日本商  
 人ト取引スルコトヲ拒絕スルノ媒介トハナルナリ夫然リ然レハ此見本  
 ノ事ニ就テハ一概ニモ論シ難ク何トナレハ小量ノ見本ト大量ノ現米  
 ハ同品同質ノモノニテモ航海中米性ノ保持力ニ差異ヲ生スルト辨ス  
 ル人モアリ併セ掲ケテ參考ニ供ス然レトモ歐商ノ我日本ヨリ送ルモ  
 ノハ見本ニ決シテ差異ナシト一方ヨリハ辨スルアリ  
 因ニ云千八百八十四年蘭國スハソドルヲ精米所ニテ我日本米貳萬  
 袋ヲ三井物産會社ヨリ購入シタリシニ其内七千袋ハ見本ト格外性  
 劣米ヲ送越シタルニ依リ即チ式ノ如ク評價人ヲシテ評價セシメ價  
 格ヲ下ケタリ然レトモ買請人ハ其價格ヲ下ケタル位ニテハ營業上

ノ損毛ヲ償フコ足ラス故ニ右等不正ノモノト取引ヲナスコト好マ  
 ストテ斷然取引ヲ拒絕シ爾來ハ獨乙人コトテ横濱居留ノ甲九十番ヨ  
 リ日本米ヲ買請クルコトナセリト云  
 總テ米ハ見本ヲ以テ賣買スルノ例ナレハ未ダ現米ノ入津己前ボルサ  
 キ一ト若船ノ電報ニテ問屋ハ之カ賣買ヲナシ其買請地即チ龍動ナリ  
 漢堡ナリアームスタルダームナリ其他何レヘコテモ回送スルノ例ナ  
 リ故ニ見本ヨリ劣ルノ現米ヲ輸入スルトキハ評價人ヲ立テ評價ヲ以  
 テ直下ケタナスモノナリ  
 スニスカナール開墾後ハ我カ日本米ノ歐洲輸入ニ於テモ著シキ辨理  
 ナ與ヘタルモノニシテ方今漁船ノ便宜ハ僅々四十日内外ノ航海ニテ  
 遠シ得ルモノナレハ風帆船ニ一艘向キノ米ヲ積ムカ如キ舊法ニ依ラ  
 ス漁船ノ航海毎ニ貳百噸乃至五百噸宛積入ルレハ船中荷物積卸シノ  
 際ニモ風入レトナリ米質ヲ損セス且需用ノ序ヲ逐フテ輸入スルコト  
 得ルノ一舉兩得アレハ必シモ運賃ノ差ニノミ關スヘカラス尤十一月

三月頃迄ハ風帆船ヲ一艘向キ積送ルモ損シ米トハナラサルヘシ  
 日本米ヲ歐洲へ輸入スルモノ數少アルヘシト雖モ重ナルモノハ左ノ  
 如ク在聞シ  
 三井物産會社  
 外ニ大坂商人一二名  
 シンボルトコンパニー  
 オラストコンパニー  
 横濱 四十六番  
 全 三十五番  
 取故其同一物否ヲ保セス  
 米ノ需用地ハ各地ニアリト雖モ方今重ナル輸入港ハ左ノ如ク  
 獨乙國ブレームン港  
 全ノツラルグー港  
 獨乙國ブレームン港  
 全ノツラルグー港

換地地利國ヒヨム港  
 伊太利國セノワ港  
 己上ノ各港ニ輸入シテ之ヲ精米トナシ歐洲大陸ハ勿論南亞米利加各  
 地ニ迄輸出スルモノト云英國ニテモ少シクハ需用アリト云未タ其實  
 地如何ヲ識ラス  
 米ノ品位ハ爪哇及「カルキ」米ヲ上等トシ日本米之ニ次ク印度米ハ最  
 下等ニ至テ精米五十基ニテ六志九位ノモノアリ是等ハ馬鈴  
 薯ニ代用シテ燒酎製ニ用フルト云然レモ印度米ノ賣捌コハ英人尤モ  
 注意シ殊ニ從來ノ得意既ニ成リ需用甚多キ故ニ小賣捌人ハ口錢少ク  
 モ之ヲ賣捌クナ利トス日本米ハ得意未タ少ナク小賣捌人ハ印度米ニ  
 反スルノ狀況ニテ兎角口錢ヲ多ク得ントス故ニ需用者ノ擴張ヲ計ル  
 一ハ是等モ障害ノ一因トハナレ  
 米精米トナスニ碎米ノ割合ハ概テ如左  
 爪哇米 百分ノ二

日本米 百分ノ五

印度米 百分ノ二十

米ヲ精米トナスノ磨減割合ハ概テ如左

爪哇米 百分ノ十

日本米 百分ノ二十

印度米 百分ノ四十

米ノ需用ハ各地ノ豊凶ニ依リ消長アルハ勿論コシテ本年ハ緬甸不作ナレハ日本米ノ需用ヲ増スヘント云然レモ日本豊作故直段ハ下落スヘント聞ク日本米ハ一等二等迄ヲ輸入スヘン下等ノ米ハ方今望人少ト云

日本米ヲ賣捌クハ歐洲中何レノ地ニテモ其重要ノ港ヲ撰ヒ問屋ノ確實正當ナルモノニ委嘱シテ賣買ノ掛引ヲサシメ尤時々差直ヲ附シテ賣買ナサシムルヲ得策トス而シテ現米ノ回送ハ前陳セシ如クホルサキート若港ノ上該問屋ノ指揮ニ依リ回送スヘケレハナリ尤問屋ハ

純粹ノ問屋ニシテ其身米商ヲスルカ如キモノハ決シテ委嘱スル任ニ當ラス

日本米ノ輸入ハ蘭國アームスタルダム并ノツタルダム最モ盛ンナリ是レ器械精米所多ケレハナリ之ニ次クハ獨乙國ブレームン及漢堡港ナルヘン畢竟歐米各地ノ需用先キニハ精米トナシテ送レハナリ米ヲ需用スルハ何等ノ點ニアルカハ緊要ノ件ナリ然レトモ其需用ハ一概ニハ指定シ難シト云但其重ナル需用ハ「ソツプ」用「ラキスカレ」用「肉米混炊用」アミト（濃粉トナモ薄スヘキカ米ノ細胞中ニアラフアミドント云制微ノモ）「用トス」（濃粉トナモ薄スヘキカ米ノ細胞中ニアラフアミドント云制微ノモ）

本年ノ玄米直段ヲ議ルハ緊要ナリト雖モ個々實業家直接引合ニ非サレハ商業ノ掛引ヲ誤ルノミナラス未タ本年ノ相場ハ確定セサルモノ、如ケレハ略之  
己上ハ其大概ナリトス其詳細ハ歸期ノ日ヲ待ツテ開陳スヘン  
附言米ノ賣捌方略ニ就テハ各地ノ米商言フ所一ナラスト雖モ之ヲ

政府ノ直賣捌キトナシ問屋モ確實ナルモノ一人ニ托スルヲ尤モ長策ト辨スルモノアリ是レ畢竟從來輸入上ノ弊害等ニ感シテナルヘシト雖モ其事爰ニ陳スルニ忍ヒス各國米ノ見本ハ在獨乙公使館及在佛蘭西公使館ニ相托シ送致シ猶其已前農務局長ニモ送致セリ併セ御參觀アラソトナシ

歐洲巡回特報第二十四號 (佛國巴里府發)

明治十九年十二月廿四日

輸出品ニ關スル景況ノ管見 其四

煙草ノ事

歐洲人ノ煙草ヲ嗜好スルヤ實ニ推想ノ外ニ出テタリ我國人モ煙草ヲ嗜ムノ風俗ナリト雖モ歐洲人ノ嗜好ハ遠ク超越スルモノニシテ煙草ハ日用ノ一大需用品ノ位置ヲ占メタルモノト云ヘン今其一二ノ例ヲ舉ケハ歐洲人ハ幼年者(十二三歲以上者)ト雖モ之ヲ口ニシテ坊間ヲ徜徉スルモノ多シ就中蘭人ヲ甚トス我國人ノ卷煙草ヲ用フルノ區域ハ狹少ナリト雖モ歐洲人中等以上ノモノハ外出ニハ卷煙草ニ限レルカ如シ(自宅ハシカレツト又ハ刻)如斯景況ナレハ卷煙草需用ノ夥シキヤ可識ナリ而シテ斯ク需用ノ多キニモ係ハラヌ我國產出煙草ノ歐洲輸入額ハ頗ル僅少ナリト謂フヘシ尤歐人ノ嗜好スル上等煙草ハ南米諸國ノ產出ニ係

ル(印度ノマコラ産ハ上等ノ聞ヘアルモ市上ニ其賣荷チ多ク見スト雖  
 モンガノ外卷ニ至ツテハ印度ノスマタラ産又ハ我國産出ノモノチ  
 以テ一般ノ需用トセリ其一例蘭國ノアームステルダム港ニ輸入セ  
 テ賣捌クモノ、ミコテモ七十基乃至百基入ノモノ三拾萬俵ノ多キコ  
 及フト云何ソ外卷煙草需用大ナルヤ  
 夫レ煙草耕作ノ我國ニ適スルヤ世ノ許ス處タリ漸次耕種培養及ヒ製  
 法ニ改良ヲ加ヘハ必シモ歐洲人ノ嗜好ニ適セサルニアラサルヘシ然  
 レトモ俄カニ歐洲人嗜好ノ地位迄ニ達スルハ容易ノ業ニアラサレハ  
 漸々改良ノ目的ヲ立テ先以テ目下シガノ外卷タルノ需用ニ適セシ  
 ムルヲ以テ急務トナスヘシ若シ此外卷用ニ適スルコ至ラハ其需用ノ  
 額チ増加スルノミナラス大ニ價格ヲ昇騰シ得ルモノト謂ヘシ何トナ  
 レハ均シク外卷用トナシテ歐洲ノ需用チ占メタルモノハ蘭領印度ノ  
 スマタラ産出ノ煙草ナリトス其價格チ我國産出ノ煙草ニ比例セハ如  
 左

産地名 上等一基ノ價格 下等一基ノ價格

印度 マコラ 蘭貨五フロラン 全 三フロラン

日本 全 一フロラン 廿仙 全 一フロラン

但蘭貨一「フロラン」ハ凡我カ通貨ニ直シ目下「五拾錢」ニ當ル  
 如斯價格ニ差異チ生スルハ何等ニ原因シテ然ルヤチ探求スレハ其重  
 ナル原因ハ第一葉ノ製シ方及荷造ノ如何ニ因ルモノト謂ヘシ葉ノ製  
 シ方及荷造ノ事タルスマタラ産ノモノハ一葉毎ニ引絞リテ四拾枚チ  
 一束トシ七十基チ一個トナシ之チ付桶又ハ袋ニ入レタル荷造ナリ  
 尤モ葉ノ大小チ類別シ殊ニ破レ葉チ少シモ交ヘサルナリ  
 我國ヨリノ輸入煙草ノ製シ方ハ之ニ異ナリテ大小ノ葉チ類別セス隨  
 テ破レ葉チ撰リ除ク「モ」疎ナリ且一束チトナスニハ重チ葉トナシ之  
 チ付ケ箱詰又ハ袋入トナシタルモノナレハ之チ一葉毎ニ引離スニ  
 ハ大ニ人力チ要スルノミナラス之レニ漏氣チ加ヘサレハ引離レ惡シ  
 ク破レ葉チ多ク出スナリ爲メニ漏氣チ加フルホハ當時引離レハ能ク

猶且外卷トナスニモ便チ覺フト雖モ製シ上ケノ後日チ經テ悉ク小龜  
 甲ニ破レボロトニ破レ落テテ需用ニハ適セサルナリ若之チ改良セ  
 ノニハ第一スマクラ製ノ如ク引離ニ便理ノ製方荷造トナサ、ルチ  
 得ス元來日本煙草ハ葉ノ廣キヲ遠クスマクラ産ニ超越スルノミナラ  
 ス其葉薄クシテ外卷ニハ甚適當ナリト云故ニスマクラ煙草ハ一基ニ  
 テ千本ノ外卷ヲナスヘキモ日本煙草ハ一基ニテ千五百本ヲ製  
 シ得ヘント如此日本煙草ニハ外卷用ニ就キ望テ屬スルモノナレハ其  
 製シ方及荷造ノ改良ヲナサハ蓋シ販路ヲ擴張シ價格ヲ騰貴セシムル  
 ハ不容疑ナリト聞ク

第二必用ノ點ハ葉色ヲ黒クシ味ヲ強クスルニアリ日本人ハ強キチ好  
 マサルハ通例ナレトモ歐人ハ強キ上ニモ強キチ好ムナリ此二點モ亦  
 宜シキチ得ハ無論スマクラ産ヨリ需用多キニ至ルヘシ其無臭ニシテ  
 匂ヒナキカ如キハ敢テ拘ハルニ非ラス畢竟外卷ノ需用ニ止マレハナ  
 リ

第三注意スヘキハ日本煙草ノ燒灰ハ鼠色トナリススマクラ産ハ白灰ト  
 ナル白灰ニ非サレハ需用ニ適セサルナリ何トナレハブラジール産アル  
 バンヌ産(南米ニテ四)等ハ最モ上品ノ煙草ニシテ燒灰白ケレハ之レカ外  
 卷ニハ白色ニ非サレハ用ヒラレサルナリ故ニ方今專ラスマクラ産ヲ  
 以テ是等上品ノ外卷ニ用ヒ魯國產荷蘭陀產等中己下ノ品ノ外卷ニ日  
 本産ヲ用フト云フ

歐洲ニ煙草需用ノ擴張セル一例ヲ掲クレハ抑スマクラ産ノ蘭國輸入  
 ハ距今十五年前ニ始レリ當初ノ輸入ハ僅カ五十俵タリシモ方今ハ一  
 ケ年凡七百五十万斤ノ多キニ及ヒ現ニ微生アイムスタルダームニ滯  
 在ノ日ニ在テ一日ニ貳百五拾万圓程ノ取引出來タリ猶且スマクラ産  
 ノ煙草ハ單ニ歐洲ノ需用ニ止マラス亞米利加諸州ヘモ多クノ販路ヲ  
 得タリト聞ク

爰ニ日本輸出煙草ニ就キ注意スヘキ要點ヲ再ヒ摘要スレハ如左  
 一葉ノ大小ヲ類別スルコト



一異色ノモノヲ同荷造トナスヘカラサルコト  
 一色合ヲ聞向キ獨向キト各其望ニ依リ選分クルコト  
 一葉ヲ一枚毎ニ引絞リテ四十枚ヲ一束ネトシ七十基ヲ一個トナスコト  
 一培養法ヲ研究シテ燒灰ノ色ヲ白クスルコト  
 一味ヲ強クシ及葉色ヲ黒クスル事  
 因ニ云英人ハ黃色ノ煙草ヲ好ムカ故ニ日本ノ煙草ヲ刻煙草トナシ  
 之レニ「コンニヤク」其他ノ匂ヲ加ヘ用フト云然レトモ英國ニテハ一  
 基ニ付英貨二「レルリ」程ノ課税ナレハ賣捌キ多カテメ蘭國ハ五  
 十基ニ付僅々蘭貨六十仙ノ課税ナレハ輸入額ノ多キ蘭國ニ及フモ  
 ノナシト聞ク但英國ノ事ハ該國ニ至リ尙取調ノ上開申セントス  
 煙草ノ價格ニ等級ノ著シキ一例ヲ左ニ掲ク  
 上等「シガル」一本ニ付代價二「フロラン」五十仙  
 此外卷ニスマクラ產ヲ用フ尤モ最上等ニハ外卷ヲ用ヒスト云其  
 價格モ亦高價際限ナレト雖此種ニ掲クルノ要用ナキヲ以テ省ク

下等「シガル」千本ニ付代價六「フロラン」乃至七「フロラン」此外卷ニノミ  
 日本產ヲ用フト云フ宜ナリ價格ノ下卑ナルヤ  
 スマクラ產ノ煙草ハ「コンパニ」スマクラ「一手ノ事業ニシテ賣上高方  
 今概テ壹千萬弗ナリト聞ク爲メニ多クノ利潤ヲ得該會社ノ株券利子  
 ハ連年九割強ノ配當ナリト聞ク反之一ノ煙草會社ハ失敗打續キ殆ソ  
 ト身代限リトナレリ是レ無他栽培地ノ地理ヲ得スシテ潮風ノ害ヲ請  
 クルニ因ルト云  
 煙草ハ品質サヘ宜シケレハ價格ハ何時ニテモ能ク賣レルモノナリト  
 其故ハ賣荷十俵毎ニ一俵宛見本ヲ引出シ之レニ番號ノミヲ附シ無名  
 ノ投票ニテ賣買價格ヲ定ムレハナリ故ニ其品ノ惡敷モノハ格外安價  
 トナリ損失ヲ免カレサルモノナリ  
 己上ノ開陳ニ關シスマクラ產及我國產ノ煙草見本別封ヲ以テ送致シ  
 御參考ニ供ス

Blank page with faint bleed-through text from the reverse side.

歐洲巡回特報第三十四號 (佛國巴里府發)

明治二十年四月一日

輸出品ニ關スル景況管見 其二

生糸

生糸ノ歐洲需用ハ各國流行ノ如何ニ依リテ増減シ且民業景氣ノ好否  
與リテ力アルモノナレハ時々變遷アリテ一概ニ辨スヘカラスト雖也  
近年日本支那西班牙其他ノ國々ニテ産額ノ著シク増加セシ事實ハ顯  
然ニシテ其増額ニ伴フ程ノ需用擴張セルヲ聞カス加之即今ノ流行ハ  
毛織物ニ傾クノ景況ニシテ猶且絹類ヲ用フルニ甚ク注意ヲ勉ムルモ  
ノ、如シ何ソヤ儘少ノ絹類ヲ用ヒテ見場ヨシ飾トナスノ工風ヲナス  
ト是ナリ今其一班ヲ言ヘハ歐洲ノ婦女子ハ屢々衣服ヲ更メテ着用ス  
ルヲ嗜トスルハ一般ノ風習ナリト聞キシニ其風習ハ依然トシテ今日  
ニ存スルモ従前衣ト裝トナ一様ノ絹ニテ裁シタルモノモ方今ノ流行

上流者ノ夜  
會見申モ  
ハ其見申モ  
實況ニシテ  
能ハサレハ  
本度外ハ之  
シテ陳述セ

ハ衣裳ヲ各別ノ品ニテ仕立テ時々衣ヲ取替ヘテ新装トナシ又裳ヲ取替ヘテ再ヒ新装ヲラシムト云是ヨリ降ツテハ絹ヲ用フルモ多ク用ヒス儘ニ衣裳ノ一部即チ衣ノ胸ヤツノ形チ或ハ背ノ割増ニ用ヒ或ハ裳ノ一片ニ用ヒ他ハ悉ク毛織物ヲ用フ猶降ツテハ小片ノ絹ヲ襟ニ用ヒ或ハ裳ノ綴合ノ形ニ結ヒ附ケ以テ飾トナシ此飾ヲ折々取替ヘテ新衣ノ裝ヲナス其已下ハ絹ヲ用フルヲ殆ント稀ナリ尤絹織物ノ需用單ニ婦女子衣裳ノ需用ニ止マラス室内若クハ寢床ノ裝飾物其他男女トモ帽子用ニ絹織物ヲ需用スルモ甚多ク涼車馬車内ノ裝飾等ニ至ル迄其需用甚廣トス然レトモ室内又ハ汽車馬車ノ裝飾ノ如キ嘗テ聞居リシ「ラミ」草ヲ製シテ代用スルモ亦少カラスト云要之ニ絹織物ハ美ハ即チ美ニシテ好尚ナリト雖モ價貴クシテ之ヲ毛織物ニ比較スレハ其保チ方甚弱ケレハ經濟上ニ適セサルヲ以テ前陳ノ如ク一般ノ流行ハ毛織物ニ傾キタリト云况ンヤ近年頻リニ交織物ヲ織リ立廉價ニテ見場ヨキモノ市上ニ勝チ占メ猶況ンヤ方今歐洲ノ不景氣ハ未ダ著シク恢

本時ハ本年  
一ノ實物  
上ニ就キテ  
ラスルニテ

復セヌ爲メニ生糸ノ需用擴張ナラス現ニ各國ノ生糸賣捌殘リノ品多キヲヤ

因之想之ハ我國生糸ノ輸出ニ於ルモ需用ノ度ニ超過セサル様注意セサルヘカラス斯ク評シ來レハ生糸ニハ進取ノ望ナキカト疑ハシムルカ如シト雖モ決シテ然ラズ生糸ハ申迄モ無之我國最一ノ特有物産ニシテ輸出品ノ尤モナルモノナレハ大ニ進取力ヲ用ヒサルヘカラス其進取力トハ何ソヤ生糸ヲ精良ニスルノ一點是ナリ(特報第六)抑世ノ文明ニ進ムヤ百般ノ工藝進歩シ絹織物ノ如キモ年月ニ精巧ヲ究ムルノ一點ニ傾クモノ、如シ尤モ歐洲絹織物ノ事情ニ二様アリ一ハ精巧ニ日ニ益々進ムノ最良ナル織物ヲ製シ一ハ工ミニ安價ニシテ交織物見場ヨキモノヲ製シ時々ノ好尚ニ投スルニアリ(因ニ云我國ノ田舎ニテ絹織物ヲ重シカ如キ風習トハ全ク反對ノ意思ニシテ廉價ニテ見場ヨキモノヲ製シテ表地ヨリ抑テ其望チ充タシ表面ノ美麗ヲ裝ヒ裏面ノ費ヲ省クモノニシテ我國ニテ衣服ノ表地ヨリ抑テ其望チ充タシ又ハ木綿織ヲ用ヒ其表ニ顯ハルノ部分ノミヲ上等ノ女衣裳ニテモ人目ニ顯レサル處ハ悉ク麻用ノト雖モ之ハ僅)此ニツノモノハ皆生糸ノ細良ニシテ量少ク糸數ノ多

キヲ要スルモノトス故ニ細長ノ生糸ヲ經糸トシ東洋系ヲ緯糸トス尤  
 日本ノ器械系ハ經糸ニ用ヒラル、モノ掛カラスト雖モ是迪モ再ヒ手  
 ナ入レテ用フルモノニ外ナラス而シテ其經糸緯糸ニ價額ノ差異アル  
 ヤ甚シ因之觀之ハ我國今日ノ策ハ漫ニ生糸ノ輸出額ヲ増加セント勉  
 ムルヨリハ寧ロ生糸ヲ精良ニスルハ利ヲ収ムルノ實ヲ得ヘキモノト  
 信ス若シ反之強テ産額ヲ増スニ汲々セハ或ハ意外ノ結果ヲ生ゼン  
 トテ恐ル、ナリ  
 過般伊太利ニ至リシニ同國蠶種ノ精選及生糸ノ精良精査至レリ尽セ  
 ルモノニシテ一點ノ加フヘキモノナキカ如キノ實況ヲ見聞シテ甚シ  
 感アリ然レト同國モ前年ノ蠶病ヨリ引續キ各國生糸ノ産額増加販路  
 競争ノ爲メ營業者ハ頗ル困厄ニ陥リ破産ニ至ルモノ頻々ナリト云般  
 鑑遠カラス深シ鑑ムヘキ事ニコソ伊國蠶種及養蠶製糸ニ關スル機々  
 ハ別ニ開申セント期ス

歐洲巡回特報第三十五號 (佛國巴里府發)

明治二十年四月八日

陸參堡國幼馬放育所

幼馬放育所ハ年々五月十五日ニ開場シ十月十五日ニ閉場スルモノト  
 ス

本場ノ作用ハ左ノ如シ

- 第一 成長ニ最モ必用ノ時期ニ當ル幼馬ヲ本場ニ集ル事
- 第二 飼養方法ヲ度ニ適ハシムル事
- 第三 時間ヲ定メ一齊ニ號令ヲ以テ指揮シ運動セシムル事

已上ノ作用ニ依リ其骨格ヲ好シシ他馬ニ接スルニ穩カナラシメ及鐵  
 道其他物音ニ驚カサラシムヘキヲ以テ目的トス  
 飼養ノ牧草ハ幼馬持主ヨリ現品ヲ持集ラシム  
 飼養夫ハ陸軍々屬中適當ノモノ一名ヲ撰ヒテ之ニ充ツ

放育所ノ費用ハ共同ニ成リ立テ政府若干ノ補助金ヲ給與ス  
農務局長又ハ農區委員及幼馬持主ハ隨時本場ヲ見回リ其得失ヲ講究  
ス

備考 本場ノ設ケハ單簡ニシテ功ヲ收ムルヲ甚ク著シク馬ノ改良  
ヲ圖ルニハ最モ有用ナリト云

歐洲巡回特報第三十六號 (佛國巴里府發)

明治二十年四月十五日

輸出品ニ關スル景況管見 其五銅ノ事

英銅ハ百中百ノ銅分ナリト雖此之ニ次クハ日本古川銅及住友銅トス  
其銅分ハ百中九十九乃至九十九半ノ銅分ナリトス(住友銅ハ稍々名ヲ  
識ラレタレトモ古川銅ノ良質ニ如カスト云)然レトモ不幸ナルハ未ダ古  
川銅ノ其良質タル名ヲ博セサルカ爲メ販路甚ク弘マラス  
若此古川銅チ一回ニ貳百噸乃至五百噸宛送ルイトモハ漢堡港ノミニ  
テモ年々貳千五百噸迄ハ引受クヘシト云  
英銅其他ノ銅價格ハ概ネ左ノ如シ

英銅	英貨五十磅
日本古川銅	全 四十九磅
南米ナリク銅	全 四十磅

己上ノ現相場ナリト雖モ若歐洲市上ニ一ノ賣買品トナサシニハ究竟ナリウ銅ト競争セサルヲ得ス其場合ナリウ銅ヨリ三磅乃至四磅上リト覺悟セハ蓋シ競争ニ勝ヲ制シ得ケンナリウ銅ハ百中九十六ノ銅分ナリトス

然ルニ日本ノ銅ハ支那印度ニ輸出ナシテ殘餘ヲ歐洲ニ捨輸出スルモノニシテ輸入上出沒一定ノ事ナク爲メニ歐洲ノ需用中ニ餘セラレヌ今日本銅ノ販路ヲ計畫セシコ古川銅若クハ其他銅分一定不變ノ品ヲ年々幾干宛概額ヲ定メ輸入スヘシ而シテ當初ハ二噸乃至五噸宛船便毎ニ銅商人ニ送リテ評價セシメナハ五六回ニシテ平均價ヲ識ルヲ得ヘシ尤評價定マルトモ毎ニ價格ハ變動アルヘキモノナリ然トモナリウ銅ヲ標準トシテ價格ヲ見込ニ確實ノ取扱人ニ委託シテ販賣スルコトトセハ日本銅ハ獨立商業トナルヲ得ヘシ

足尾銅ハ百中九十七半ノ銅分アリ然レトモ價格ナリウト同位ニ居ルハ畢竟日本銅ハ平均若干ノ銅分ヲ有スルコトヲ保ツヤ否ヤヲ保證スヘ

カラサレハナリ

荒川銅モ良品ナリ然レトモ評價安シ其ノ事情ハ足尾ニ同シ要之ニ日本銅ハ左ノ各項ヲ保ツルヘキヲ得ハ歐洲需要肝要ノ地位ヲ占ルコトヲ得ヘシ

- 一 博ク品質及銅分確定ノ信據ヲ得ヘキ
- 二 輸入ノ數量ヲ概定シ毎歲之ヲ繼續シテ甚シキ不同ナカラシムル

三 前二項ノ事ヲナスヘキ爲メ當初船便毎ニ二噸乃至五噸ヲ輸入シ之カ平均價ノ見込ヲ豫定スル

四 確實ノ取扱人ヲ定メ之ニ委託スル

五 ナリウ銅ト競争ノ覺悟アルヘキ

歐洲銅ノ需用實ニ夥多ナリ尤銅鑛ハ獨乙又ハ西班牙ニモアリト雖モ到底歐洲ノ產銅ハ歐洲ノ需用ニ足ラス殊ニ各種ノ銅質各需用ノ向キヲ異ニス即チ古川銅ノ如キハ專ラ船ノ用ニ適スルト云

確實ナル取引治定ノ上ハ評價一割引位迄ハ前金ヲ請取ルコトモ出來ス  
ヘント云  
問屋口錢、船積、仲買、銀行手数料等ノ諸費ハ原價百分ノ五ナラハ問合  
フヘント云

歐洲巡回特報追加第七號

陸參堡國農業有形組合

農業組合ヲ起サシムヘキニ就テハ政府ヨリ演舌者ヲ派出シテ其旨趣  
ヲ懇篤ニ演舌セシムルナリ但之カ爲メ要スル所ノ經費ハ四千五百法  
ノ定額ナリ  
組合規則ハ演舌家ニテ起按シ農務局ヘ協議ノ上之ヲ農業組合ヲ起サ  
シムヘキ人々ニ示スナリ  
演舌中組合ヲ起ス己上ハ若干ノ補助金ヲ給スヘキ事ヲモ示ス即チ其  
金額ハ百法乃至千五百法ヲ組合人數及區域ニ依リ給與スル事トス  
此組合法ハ小農ヲシテ協力セシムルノ旨趣ニ外ナラズ故ニ組合員ヲ  
ルニモ僅々一ケ年一法乃至二法ノ組合費ヲ拂ハシムルノ外他ニ費用  
ヲ徴セス  
農業組合ノ目的ハ如左

- 一 共同力ニ依リ農具ヲ購入スルコト
  - 二 肥料ヲ共同シテ購入スルコト
  - 三 農産物ヲ共同シテ製造スルコト
  - 四 農産物ヲ共同シテ賣捌クコト
  - 五 智識ヲ交通スヘキ爲メ共同シテ農業雜誌等ヲ購入スルコト
- 農具購入ノ爲メ資金ノ仕法ハ如左
- 農具購入金若干

内

若干 組合員加入金

若干 農具使用損料収入

若干 政府ヨリ補助

計

残若干 不足

但組合中ノ負債トナシ年若干ノ利子ニテ十五ケ年乃至二十ケ年

割元利支消ノ約束ニテ年季中借り居

右計算ヲ以テ永年ニ割合支消ノ計算ヲ立ル事

政府ハ補助金トシテ一ケ年三万五千法ヲ定額トシ農業組合ヲ起スノ村ヘハ初年若干ヲ給シ爾后年々若干ヲ給(例初年千五百法ヲ給スレハ爾後八年々三百法宛ヲ給スルカ如キヲ云フ)

農具ヲ使用スルモノハ定額表ニ據リ之ヲ使用セシ日數ニ應シテ使用料ヲ拂フ

農業組合ニハ委員三名ヲ推撰シテ會計諸世話農具ノ貸付取扱ノコトヲ掌ラシム但名譽役員ニシテ總テ給料手當等ノ事ナシ



特報追加第八號

陸參堡國土地改良ノ概況

當國ニ農業進步ノ基礎トシテ耕地ノ區畫、耕作路、排水、灌溉ヲ併セテ改良スル法アリ

此法ヲ施スニハ當初農務局ニテ獨乙聯邦ノバーデンニミミ國ニ就キ實況ノ取調ヲナサシメ而シテ法接ヲ起草シ農業組合ニ諮問シ以テ内閣ニ呈出シ遂ニ國會ノ議接トナルニ至レリ其間多少ノ意見ヲ異ニスルモノアリシト雖モ大体上ヲ不可トスルモノナカリキ國會ノ議接トナルヤ之ヲ議決スル迄三ヶ月ヲ要シタリ但國會ニテモ大体ヲ不可トスルモノナク其施行方接ニ就キ再三再四ノ更正ヲナシ最終ニ卅八人ニ對スル一人ノ反對論ニテ可決セリト云法律發布ノ後農務局長兼農業監督官ハ地圖ヲ製シ法接ヲ示シ各地ニ就キ其得失ヲ反覆演說スルニ勉メタリ

而シテ初年ハ國中ニテ尤モ改良ヲ要スヘキ地ニ就キ三ヶ所ニ施設セ  
 リ然レハ爾後容易ニ其事行ハレザリキ但其行ハレサルハ事理ヲ辨セ  
 スシテ不同意ノモノアリ或ハ自己ノ意氣張ニテ同意セサルアリテ要  
 スルニ地主三分ノ二以上ノ同意ヲ得シテ法律ノ許スヘキ施設ニ至  
 ラサルモノ多ケレハナリ  
 然ルニ第三ヶ年目ヨリ漸次施設ヲ企望スルノ地方多ク第四ヶ年目ニ  
 ハ二十ヶ所ノ施設申込アルニ至レリ畢竟本施行ノ實利實益アリテ争  
 フヘカラサルノ實際ヲ示セハナリ  
 此施設ニ關シ政府ノ補助スヘキ定額金ハ五萬五千法ニシテ其内貳萬  
 法ヲ大工事ノ定額トシ三萬五千法ヲ小工事ノ定額トス  
 工事費ハ政府補助金ノ外ハ興業銀行其他ニテ借入レルモ妨ケナシ但  
 政府ノ補助ヲナスハ該村ノ貧福及工事ノ難易ニ依リ之ヲ定ム  
 該工事費ニ貸附タルモノハ興業銀行ト普通金貸トニ拘ハラヌ總テ國  
 稅ヲ拂フタル後ハ先取ノ權ヲ與ヘテ特別ノ保護ヲナス

此工事ヲナスニモ租稅局ニ通議スルヲ要セス若減稅ヲ要スヘキ即チ  
 耕地ノ減シタル場合ニハ成功ノ上農務局ヨリ通議スルヲ以テ例トナ  
 ス  
 曲折ノ溝渠ヲ更正シテ増反別トナリタルモノハ之ニ相當スルノ稅ヲ  
 増ス但成功チ三四ヶ年ノ後ニ期シ其期ニ至リテ增稅ヲ拂フヘキモノ  
 トス  
 地味改良ノ爲メニ増収種アルモ增稅スルヲナシ但地租改正ニ際シテ  
 ハ此限ニアラス  
 溝渠更正ノ爲メ増反別ヲ得ルハ各其持主ノ所得トナルナリ  
 耕作路更正ノ爲メノ減反別トナルハ各持主ノ總反別ニ割合減チ負  
 担スルナリ  
 工事ハ地主三分ノ二以上ノ同意ナルトキハ法律面ニ依リ他ノ不同意  
 者モ服從セサルヲ得サルナリ工事ニ三分ノ一ノ不同意者アルキ其不  
 同意者ヨリ入費ヲ徴収スル場合不納アルキハ政府ハ租稅不納ト同一

ニ依リテ處分ナス  
 農務局中ニ測量及製圖掛アリテ工事施設ノ需メニ應ヰテ之ヲ處辨ス  
 更正ノ耕作路ハ五メートルナ大路トシ三メートルナ小路トス  
 此工事ニ先チ或ハ之レト伴フテ土地交換ノ事ヲナス土地交換ヲナシ  
 タル上ハ交換地ニ就キ當然權利義務ヲ移スモノトス  
 交換地ニ多少ノ地味違アルモノナレハ當初ニ素地ヲ評價シ置キ成功  
 ノ上更正地ノ地價ヲ評價シ應當ノ比例ニテ割渡スヘキモノトス  
 工事ハ着手前測量ヲナシ精細ナル素地圖及改良スヘキ地圖トシ製ス  
 ヘキモノトス素地圖及改正地圖并工事ノ目論見帳ハ請願ニ依リ農務  
 局ニ於テ負担仕渡スモノナリ  
 素地ノ代價ハ七級ニ評價ス其評價ハ委員ノ投票又ハ協議ニテ鑒定ス  
 委員ハ地主中ヨリ公撰ス  
 改良ノ爲メ増反別ヲ生スルキハ概テ賣却セテ工事費ノ補ニ充テ減反  
 別トナルキハ割減反別ヲ以テ割渡スヘキモノトス

追加特報第九號

伊太利國蠶卵製造家ノ概況

頻年微粒子病ノ害毒ハ伊太利國ノ養蠶ヲシテ不可謂ノ慘狀ニ陥レタ  
 ルヲ以テ其恢復ヲ計ルニ官民ノ力ヲ尽シタルヤ實ニ勉メタリト謂フ  
 ヘシ(其詳細ハ取調書第二號ニ詳ナリ)而シテ其恢復ノ基ハ蠶卵ノ精製  
 ニアリ現今伊國製卵ノ進歩ハ單ニ恢復ニ止マラス實ニ驚クヘキ進歩  
 ナ呈セリ其蠶卵検査ノ要項及順序ノ概略ハ左ノ如シ  
 一 種繭ヲ精密ニ撰分ル  
 二 雌雄一番宛ノ蝶ヲ少キ木綿袋ニ入ル事  
 三 一袋毎ノ蝶産卵セハ直チニ摺潰シ顯微鏡コテ検査スル事  
 (一番毎ヲ摺潰スヘキ爲メ乳母乳鉢ノ附キタル箱ヲ備フ)  
 四 無病ノミノ卵及蝶ヲ十袋宛合同シテ一組トシ再ヒ摺潰シ検査ナ  
 ナス事

五病兆アル(毫釐ト雖<sup>レ</sup>蠶卵及蝶ハ他ノ検査所へ移ス事  
 六無病ノ卵并蝶ヲ五組宛合同シテ三度目ノ検査ヲナス事  
 七病卵ノ検査ヲ遂ケ病卵ニ決シタルモノハ廢棄スル事  
 八無病ノ卵ハ袋ノ儘ニ袋ヲ括リ合セテ柵ニ架シタル針金ニ懸ル事  
 九万一ノ爲メ無病卵中ニ就キ歩一廻シノ摺潰ヲナシ四回目ノ検査  
 ナ施ス事  
 十十月ノ候卵ヲ袋ノ儘清水ニ浸シ三度洗フ事  
 十一洗フタル卵ヲ水ニテ沙汰シ其浮クモノヲ流シ沈ムモノ而已ナ  
 種子卵トナス事  
 十二卵ヲ水分離器ニ移シ乾シタル上量目ヲ定メ袋ニ入レ商標ヲ  
 粘附スル事  
 十三煉瓦室圍藏ノ中ニ柵ヲ架シ前項ノ袋ヲ針金網張ノ箱ニ並ヘタ  
 ル儘重子置シ事  
 十四圍藏ノ中ニ翌年三月頃迄ハ攝氏ノ寒暖計零點ノ冷氣ニ止ムル

事

十五平素ハ空氣ヲ通ハセス但室外ノ温度室内ト同一ナルキハ空氣  
 ナ通ハスル事  
 十六冷氣ヲ送ル爲メ圍藏ノ傍ヲニ氷室ヲ建設シテ毎ニ人造氷ヲ造  
 リ氣管ヲ以テ冷氣ヲ圍藏内ニ通ハス事  
 十七販賣ノ季節ニ至リテハ漸々一度宛ノ温度ヲ進メ遂ニ五度ヲ進  
 メタルキ取リ出シ運搬スル事但一旦進メタル温度ハ退カシムヘ  
 カラス

追加特報第十號

伊太利生糸検査所

未蘭府ニ三ヶ所ノ生糸検査所アリ(但三ヶ所ハ過當ナルヲ以テ方今一ヶ所ニ合併セントス然レトモ社員各々好悪スル處アリテ容易ニ目的ヲ遂クルヲ能ハスト云)

生糸検査所ハ組合員ノ出金ヲ以テ成リ立其維持費ハ生糸改料ヲ徴収シテ之ニ充ツ(検査料ハ維持費ニ充テ、餘分ヲ生セシムル程ヲ課ス畢竟時々検査上進改良ヲ要スルノ費ニモ充ツルヲ以テナリ)

生糸検査所ハ民立ニシテ検査受否ノ上ニ就キ檢束アルヲナシ(検査ヲ必用トスルハ一般ノ風習ナリ尤小取引ノモノハ必シモ本文ノ限アラズ)

検査ヲナスノ事項ハ左ノ如シ

一水分ヲ量ル爲メ乾燥ヲ施ス事

- 二 彈力延力ヲ量ル事
  - 三 切レ口ノ度ヲ量ル事
  - 四 綜ノ度ヲ量ル事
  - 五 糸口ノ數ヲ調フル事
  - 六 「デコール」ヲ量ル事
  - 七 毎「デコール」ノ量目同不同ヲ量ル事
- 已上試験ノ結果ハ小片ノ野紙ニ登記シテ検査請求者ニ渡ス是即チ生糸賣買ニ係リ品質精粗ヲ證明スルノ必用具トナレハナリ
- 検査料ノ収入ハ當初ノ約束ニ依リ検査請求者ヨリ徴収ス但検査ハ賣主ヨリ請求スルアリ買方ヨリ請求スルアリ或ハ賣買双方ノ合体ニテ請求スルアリテ一ナラス

附陳

乾燥器械二個即チ一組ニ付代價凡三千法  
 連棒「デコール」一組ニ付 全 凡一千法

外ニ彈力延力量器械

撚リ器械

大中小ノ斤量

已上ハ重要ノ器械トス而シテ粹其他ヲ運轉スヘキ「ガス」運轉ノ汽罐ヲ用ユ是レ大ニ經濟上ニ適スト云何トナレハ此汽罐ハ「ガス」管ノ開閉ニテ休運自在ナレハ其間ニ石炭ヲ用フルカ如キ費ナケレハナリ

追加特報第十一號

伊太利製糸所

伊國ノ製糸業多キ地方ハ未蘭府及烏能府近接ノ地ヲ以テ最トス就中未蘭府商法會議所副長ドベキ氏ハ製糸業ヲ盛ニシ營ニ數ヶ所ニ製糸場ヲ設置セリ其場ニ就キ稍我カ參考トスヘキ感覺ノ要點ヲ掲クレハ左ノ如シ

- 一 上ケ梓ニ外箱ヲ備ヘ箱ノ中ニ鐵管ニテ溫度ヲ送ル事(故ニ上ケ返シヲ要セス且乾燥ニ村ナク梓ノ當リタル處ニ糸ノ堅マリヲ生セス)
- 二 糸曳釜二個毎ノ向フニ煮釜ヲ備ヘ且糸口ヲ取出スニハ器械ヲ以テ回轉セシムル事
- 三 煮釜ノ湯氣ヲ室外ニ送ルヤウ管ヲ通スル事
- 四 糸撚リ器ニ端車ヲ附ケタル事

五工女ノ賃金ハ一日三十參乃至一法十參迄ト云  
 六執業時間ハ十二時間(食事時間ヲ除キ)ト云  
 七水車ニ二回ノ端車ヲ附ケ一回即三轉ノ運轉ヲナス事  
 八工事ノ獎勵ハ糸目十三ヲ平準トシ已上ニ登ルモノヲ褒シ平準ニ  
 降ルモノヲ貶スル事  
 九又一ノ獎勵法アリ製糸ニ關シ暗々裏ニ注意宜シキモノコ一月  
 一法乃至一法五十參ヲ目途ニ本人ヘ不告テ塲主ノ方ニテ貯蓄  
 シ置キ本人ノ退場シテ婚姻ヲナス等ノ際本人ニ示シテ是レ即チ  
 足下ノ丹誠セル貯蓄ナリトシテ遣スモノトス此法ハ著シキ獎勵  
 ニ効アリト云  
 右ノ外生糸検査所ニ於ルカ如キ検査ハ自家ニテモ毎ニ検査ヲナセリ  
 而シテ製糸業家ハ概チ自家製糸ノ外ニ東洋糸ノ線直ヲナシテ他ニ  
 賣出スヲ業トス其方法ハ生糸精粗大小ヲ區別シ綜ノ度合ヲ合格セシ  
 メ上ケ枠寸尺チ一ニシテ攪リ方荷造ヲ正クスル等ニアリ

伊太利國養蠶與復舊

在モンツア農會議長カバリエーンウボルデイデカベイ閣下ニ呈ス  
 尊會ノ指揮部ヨリ余ガナシタル實驗ノ結果ヲ報告スルコトヲ依託シ  
 タル尊會ノ高名ナル議員マルケイセクサアニコソフアロニエーン氏  
 ハ去ル八日附チ以テ第二百三十六號ノ書面ヲ余ニ投與セラレタリ  
 右書面ノ趣意ハ今回氏カ右一件ノ依託ヲ受ケシニヨリ嘗テパスナ  
 ル法ヲ盛大ニ行ハントスルニ當テ遭遇セシ抗論ニ答辨センカ爲メ既  
 ニ嘗テ氏ヨリ尊會ノ指揮部ニ提出セシ報告ニ付説明ヲ與ヘンコトヲ  
 余ニ望ムニアリテ又此抗論ニ付テハ指揮部ハ大ニ困難セシトテ告ケ  
 ラレタリ  
 氏ハ叮嚀ニ拙者カ目的ニ關スル事件ニ付キ殊ニ厚意ヲ盡サレタルカ  
 故ニ余モ亦直チニ是ノ厚意ヲ謝シ以テ吾國ニ於テ最大ノ急務タル事  
 業ニ對シテ大ニ裨益セサルヘカラサルヲ覺リ十分ニ余ノ意見ト説明  
 トチ述フルニ敢テ忘タル可ラスト思慮シタリ余ノ氏カ余ニ與ヘラレ



シ厚意ニ服從セサルヘカラスト推考セラルハ明カナリトス請フ功勞  
 多キ指揮部ハ余カ心意ト義務トヲ盡シテ以テ説明スル論意ヲ正實ニ  
 採用アラフコトナリ  
 余カ約諾シタル經驗ノ結果ノ報告ハ(未ダ呈出モセス且又認メモセス  
 ト雖也)余カ意見ニ違フテ人身上ノ論議ナル外見ヲ取ルヘカラスト然リ  
 而シテ最大關係ノ利益ヲ論據トシテ起ルヘキ各種ノ問題ハ皆之ヲ各  
 別ニ論スルテ極メテ適當ナリトス余ハマルクーゼクザーニ氏ニ請フ  
 ニ余カ意見ヲ述ヘ予ノ説明ニ關スル決定及集會ノ後ニ至テ其報告ヲ  
 通達アラフコトヲ以テセントス又別ニ閣下ニモ亦請フ一事アリ委員  
 會ニ於テ與ヘラレタル判定ト意見トヲ知ルノ幸福ヲ余ニ得セシムル  
 ノ好機會ヲ余ニ與ヘラレンコト是レナリ  
 以上申シ述ヘタル後余ハ余カ已ニ六月十七日附ノ書面ヲ以テ實驗ノ  
 結果ヲ農會ニ報知センコトヲ締約シタルニ因リ今是レヲ精々簡單  
 ニ説明セントス然レモ名譽ナル農會議員諸君ノ是レヲ容易ニ了解セ

ラレンコトヲ欲シテ余ノ説明書ヲ印刷ニ附シタリ

抑モコトナリヤ、バスキュール、ベリヨツチ、ハメルラント、シリラベルリ諸氏  
 及其他關係アル諸君等ヨリ出セル種々ノ報告及様々ノ研究ヲナシタ  
 ルヨリ以後ハ蠶兒ノ諸病ヲ豫防スルカ爲メニ微粒子病ナキ純粹ノ蠶  
 ヨリ産シタル卵子ヲ養育セハバスキュール氏ノ明言スル所ノ微粒子病  
 及ヒ黒死病等ノ体内ニ存セサル眞蠶兒ヲ得ルニ至ルノ確實ナルコトヲ  
 研究ト學術トニ依テ知覺シタルナリ  
 此ノ事情ニ十分満足シ黄色蠶ノ良種ヲ養ヘハ必シモバスキュール氏  
 ノ確言セルガ如ク被害ノ二十年ヲ經過スルノ後タル今日ニ當リ尙ホ  
 吾人ノ記憶スル被害前ノ最幸ナル日ニ較フレハ養蠶ノ業ハ尙ホ一層  
 ノ繁榮ヲ呈スヘキナリ  
 茲ニ於テ余ハ其經驗ヲ盛大ニ行ヒ好結果ヲ得テ工業ニ裨益セント欲  
 シ且又伊太利國中ニ於テ營ム所ノ若大ナル養蠶ノ事業ニ付テハ前ノ  
 事情ヲ以テ足レリトスヘキ利益ヲシテ如何ナル點マテ達セシムヘキ

カチ試験セシテ企テタルナリ因テ余ハ無病良質ノ蠶卵ヲ殆ト三  
 十六「グラム」ヲ三種ノ産所ヨリ採集シ以テ是レヲ飼養ニ供シタリ然レ  
 他爰ニ殆ト三十六「グラム」ト記載セルハ是レ三種ノ内ニ種ハ卵子ノミ  
 ナ量リタルモノナレバ他ノ一種ハ紙ニ附着セル卵子ヲ概量シタル故  
 ニ其確定セル量數ヲ得ルニ至ラザリシカ故ナリ  
 右三種ノ卵子ノ内多量ニ獲タルモノヲ(第一號ト稱ス)此卵子ハ雌蝶百  
 疋ノ内病性ノモノ一疋以上アラサルモノヨリ産出シタルモノナリ  
 但シベルロッチ及ロデツ兩氏ノ説ニ依レハ雄蝶ハ其病ニ感染ナキモノ  
 トアレハ雄蝶ハ暫ク措キ唯々普通ノ習慣ニ倣ヒ雌蝶ヲシテ羅紗上ニ  
 産セシメタルモノトス此第一號ハ二十七「グラム」ノ目方ナリ  
 第二號ノモノハ目方六「グラム」第三號ノモノハ目方凡ソ三「グラム」ナリ  
 此卵子ハ雄雌ノ両蝶トモ微粒子病アラザルモノニシテ粹製ノ方法ニ  
 因テ製シタルモノナリ  
 卵ノ孵化シタル後ハ最初ヨリ皆住居ニ附接シタル室内ニ飼養セリ

又々養蠶ニ供スルノ室ハ其數尙ホ足ラザリシヲ以テ別ニ住居外ニ卵  
 種ヲ産出スヘキ蠶ノ飼養ノ爲メ好位地ニ養蠶室ヲ建築セシメ之ヲ早  
 蠶ト各別ニ飼養シタルナリ  
 第一ノ卵ハ四月二十八日ヲ以テ孵化シ其遅キモノハ三十日ヲ以テ解  
 化セリ余ハ養蠶注意ノ周到ヲ期シ又諸事皆余自ラ之ヲ指揮シ養蠶者  
 ト豫メ約束ヲ定メ他人ト交通セサルカ爲メ之ヲ余ノ家ニ寄宿セシメ  
 タリ蠶ハ五月廿五日ヨリ繭ヲ作り初メ廿八日ヲ以テ其事ヲ終レリ  
 (註)尋常ノ養蠶ハ此時既ニ繭ヲ作レリト雖モ余ノ養ヘル蠶ハ僅ニ第  
 三眠ヨリ出テタルノ時ナリ  
 余ノ蠶ハ第四眠ヨリ起キタル二日目ニ尋常ノ籠三十六箇分アリシ其  
 籠ノ長サハ六「フ」ヲナシ(我「フ」ヲ三「フ」ニ寸五分)ナリキ  
 第二眠ノ後ハ二十四時間ニ一回蠶ノ床ヲ易ヘ其下ニ敷ク紙モ亦々注  
 意シテ取換ヘタリ  
 諸道具ハ皆ナ新タナルモノヲ用ヒタリ十分「ク」ロトルヲ以テ消毒シタ

レハ養蠶者ニ害ヲ與ヘサヨソ爲メニ其瓦斯ノ量ヲ加減シタリ(百一メートル)我三尺三寸余(立方ノ場所ニ二千「サン」メートル立方)

第一號ノ蠶ハ第四眠ニ就クノ前ニ少シク病ミタリ因テ顯微鏡ヲ以テ検査セシニ微粒子病ニ罹リタルナリ然レハ第四眠ヨリ出テ、二日ノ後ハ其蠶ハ二十五箇ノ籠ニ滿ルニ至レリ

第二號ノ蠶ハ此時七箇ノ籠ニ滿テ第三號ノ蠶ハ僅ニ四箇ノ籠ニ滿チシノミ

飼養中病ニ罹リタル蠶ハ甚タ少ク顯微鏡ヲ以テ之ヲ検査セシニ其微粒子病ニ罹レルハ唯々二疋アリシノミ第一號ニハ一疋モ其病ニ罹レルモノナシトス

第一號ノ部分ニアル蠶ノ繭ヲ作ル前ニ少シク死セタルモノアリ上簇ノ初メヨリ其終マテ其死數ハ著シク増加シタリ第一號ノ蠶ノ作り繭ノ目方ハ死セルモノナカリセハ六十「キログラム」ヲ得ルノ考ナリシニ僅ニ四十四「キログラム」三百「グラム」ニナリキ

第二號ノ蠶ハ繭ノ目方十四「キログラム」百五十「グラム」ヲ生シ第三號ハ六「キログラム」五百「グラム」ヲ生セタリ

第一號ノ蠶ノ作レル繭ノ一「キログラム」ノ數ハ四百八十箇アリテ第二號ハ同シ目方ニテ三百九十箇第三號ハ三百八十五箇ナリキ

右ノ經驗ニ因レハ一「キログラム」ノ生糸ヲ作ルニハ繭十「キログラム」ヲ要スルナリ其蠶ノ最良ナル品質ハ我國ノ古昔ノ上等ノ蠶種ヨリモ上ニハ出テサリキ

此割合ヲ以テスレハ悉皆ノ良法ヲ尽クシテ蠶ヲ養育スレハ微粒子病ナキ雌雄ノ蝶ヨリ收メタル蠶種ヲ以テシタル養蠶ノ結果ハ微粒子病ノアラサリシ以前ヨリモ好結果ナリトス是レ當地ノ上等ナル蠶種トシテ貴ハル、所以ナリ其事ハ暫シ措キ微粒子病ノ遺傳アル雄蝶ノ影響アルコトハヘルセツ氏及ロラツ氏ノ主張セシ所ナリ余思フニ雌雄ノ蝶共ニ微粒子病ナキモノ、産ミタル卵種ハ雌蝶ニ病アリテ雄蝶ニ病ナキモノヨリ生シタルモノヨリハ善ナルヘシト若シ予ノ言ニシテ誤

リナク再度ノ進化法ヲ行ヒ注意シテ漸次ノ産出ヲ爲シタラシムニハ養  
 蠶者ハ微粒子病ノ發生アラザリシ前ノ種子ヲ得ルニ至リ其他今日既  
 ニ盛ナル他ノ傳染死病モ消滅シ黒死病モ亦然ラシテハ唯タ之ヲ爰ニ  
 畧言スルノミ其事ニ係ル予ノ説ハ機會ヲ待テ再ヒ吐露スルアラント  
 ス

今ヤ此問題ヲ講究スルノ時ニアラス工業トシテ養蠶ヲ盛大ニスル實  
 業ヲ論スルヲ急務トスルノ時ナリトス微粒子病ナキ蠶ヨリ収メタル  
 種ヲ以テセハ希望スヘキ収穫高ヨリハ越エサレハ其高ニ同シキ糸ノ  
 數量及品質ノモノヲ得タルヲ証明シタル後今日ニ至ルマテ未ダ別  
 ニ新ナル事モ生セス又非常ノ困難モ生セサルナリ然レハ養蠶業ノ  
 情況如何ト云フニ至テハ大ニ宜シカラサルモアリフリヤンツアノ如  
 キ大ニ養蠶ヲ爲ス地方ニ在テハ特ニ然リトス

孤立飼養法ヲ以テシテ早蠶ヲ養フニ於テハルイジョー、シラウエリー氏ノ  
 考案ニ因テ輒近世ニ公ニセシ説ニ新説ヲ加フルルハ難カルヘシ

(註)一千八百七十年未蘭ガエタノブリゴラ書肆出版ルイジョークリウ

エリ氏著養蠶復興ノ研究

故ニ予ハ唯タ尙ホ不完全ノ方法ヲ以テ養蠶ヲ爲シ予ノ固シ執テ雄蝶  
 雌蝶共ニナキヲ良シトスル所ノ微粒子病ノ在ラサルヲ以テ未ダ足レ  
 リトセサル蠶種(全ク何等ノ微候ナキモノ)即チ微粒病子ノ痕跡ヲモナ  
 キモノ)ヲ以テセシメテ言フニ止メントス其結果ニ在テハ不愉快ト云  
 フニアラスシテ予カ同ク約セシ點ヨリハ上ニ出テタリ第二號及第三  
 號ニ於テハ微粒子病ニ罹リシモノハ平均百二十ヲ出テサリシト雌モ  
 第一號ハ平均百ニ付二十五アリシ

第二號及第三號ニ於テ見タル感染ノ大部ハ第一號ヨリ近キ所ニ置キ  
 シモノトスレハ第二號及第三號ヲ以テシテ工業上ノ養蠶ニ良キ種ヲ  
 生スルニ於テハ蓋シ尋常飼養法ヲ以テスルヲ得ヘキナラン

(註)顯微鏡ノ検査ヲ以テシテ微粒子病アリトスル蠶ノ數ハ増セシ「ダ  
 ルメスト」蠶病ニ罹ルモノモ其内ニアリトス「テルメスタス」タル

ユス「予ノ此甲蟲ノ大數ヲ各別ニ検査セシキハ非常ノ微粒子病即チ  
 蝶ニ於テ見ル所ノ「コルナリヤ」ノ微粒子病ト同質ナルモノハ一疋モ  
 アラサリキ  
 予ハ微少ノ量ヲ以テ事ニ從フタリ而シテ養蠶ノ數週日間ニ顯微鏡ヲ  
 以テ検査セシニ病ニ罹レルモノアラサリシ結果チ後段ニ説カントス  
 是レ又農産上ノ大工業ニ關スル部分ニ於テ余ノ經驗チ攻撃スル能ハ  
 サルノ証ナリ  
 然リ而シテ余ノ速ニ証明セント欲スルハ粹製ノ方法ニ因リ顯微鏡ヲ  
 以テシテ進化法ヲ擴張シ得ルコト是レナリ果シテ然ラハ其要スル所ハ  
 幾何ノ價ヲ以テ微粒子病ニ罹ラサリシ蝶ヨリ産セシコトノ確然ナル卵  
 種子ヲ供給スルヲ得ルカコトアリ蓋シ其供給ニハ粹製ノモノ一万二千  
 余ヲ要スヘシトス  
 是ノ故ニ最モ便宜ノ方法ニ因リ最モ大ナル産額ヲ收ムルニ如何スヘ  
 キカチ定ムルハ當業者ニアレナリ

余ハ先ツ第一ニ他人ノ用ヒタル方法又ハ他人ノ説ケル方法ノ各種ヲ  
 大ニ集ムルニ從事セリバヌトニ著書ニ在ル方法ノ如キ是レナ  
 リ余ハ余ノ適宜ト信スル所ニ從ヒ金屬製ノ圓長筒又ハ管ブリツキ圓  
 錐形器布又ハ紗或ハ紗ヲ以テ覆ヒタル厚紙ノ小箱ヲ以テ種子ノ裝置  
 ナ爲シタリ  
 (註)紗ナル語ハ予輩ノ間ニテハ俗ニ下衣等ニ最多ク用マル薄布ヲ云  
 フ此方法ハ一モ大ナル産出ノ必要ニ應スヘシトハ思ハレサルニ因リ  
 紗ノ小袋ヲ製シ諸種ノ方法ヲ以テ蝶ヲ入レ之ヲ種子ノ方法ニ因テ貯  
 蓄スルコトヲ思考セリ其種子ノ方法ハ尋常指揮部ノ派出員ノ養蠶季節  
 中余ノ家ニ就テ検査シ報告シタル所ナリトス經驗ニ因ルニ便利ナル  
 粹製ノ籠ノ中ニ袋ヲ下ケ其袋ハ紐ヲ以テ開閉シ粹ノ中ニモ亦下ケ得  
 カラシムレハ他ノ方法ヨリ最モ必要ニ應スルコトヲ發見セリ明年余ハ  
 他ノ粹製法ヲ用ヒサルニシ余ハ此方法ヲ以テセハ他ノ方法ニ因ラ  
 サルモ不可ナト信スルナリ

既ニ本年「ロクトル」ビエルソン氏ハゴリツヤノ養蠶學校ニ雇ハレ高名ナル教師トシテラシト共ニ四月ノ初メヨ子カ家ニ就キ其袋ヲ見テ大ニ其工夫ヲ賞賛シゴリツヤニ歸テ後八万個ノ袋ヲ製セシメテリ余ニ其學校ヲ巡覽セシハ七月ノ末ナリキ余ハ其裝置ヲ悉ク見タル後甚ク不満足ニ感ゼタリ余ノ考ニ因レハ袋ヲ一ツ宛分ツテ以テ必要ト爲スナリ然レハ空氣ハ充分ニ流通スルヲ得ヘシ抑余ノ他ノ方法ヨリ好ミトシテ想像セル裝置ノ試驗ハ不良ナリシカ故ニ來季節ニハ他ノ方法ヲ措テ金網ノ線ヲ附ケタル籠ヲ以テセントスルナリ此方法ハ以テ梓製ノ裝置ヲ爲セハ熟練ナル職工ハ容易ニ他ノ方法ニ比シテ容易ナリト云フ義ハ勿論ナリトス最モ大ナル數量ヲ收穫シ得ルコトヲ確言スルニ余ハ躊躇セサルナリ例ヘハ余ハ來春ニ於テハ室ヲ各別ニ少クモ千「キログラム」ノ繭ヨリ發生スヘキ蠶ヲシテ苛酷ノ苦大受クルコトヲカクシメントスルナリ又其翌年ニ至レハ業ニ熟スル者多キヲ得ルキカ故ニ其以上ニ多量ノ養蠶ヲ爲スヲ得ヘシ

蠶ノ各其室ニ於テ産卵シタル上ハ其蠶ヲ顯微鏡ニテ試檢スルノ一事アルノミ而シテ微粒子病ノ有無ヲ檢査シ又小袋ニモ類別ヲ爲ス大要ナルナリ僅少ノ量ヲ以テセル經驗ニ因レハ諸般ノ方法皆宜シカラサルハ然レモ余ハ小數ナラスシテ少クモ千番ノ蠶ヲ檢査スルヨリシテ生スル所ノ困難ヲ遭遇セリ亦以テ煩ナリト言フヘシ然レモ又之ヲ以テ大ニ困難トシ思ハサルナリ善長ノ蠶種ヲ撰ヘハ此主要ナル事業ヲ簡易ニ行フニ至ラン又他ニ方法アリテ他人ノ之ヲ用フルアラハ尙ホ考説ヲ増加スヘシ凡ソ此事ニ係ル方法ノ中必然之ニ限レリト云フモノハアツサレホリ今ノ時ニ在テハ自ラ其責ニ當リ一見シテ直ニ完備ナルヲ知ルヘキ觀察經驗ヲ以テシテ利益ヲ得ルヲ主要トス抑他人ノ説ハ自己ノ説ヲ以テ漠然之ヲ論破ス可ラサルナリ故ニ余ハ尊會ノ指揮會議ノ派出員ニ余ノ見セシメタル如ク事業ヲ組織シタルモノトス因テ余ノ事業ニ對スル難問ハ決シテ起ラサルヘシト余ハ事業ヲ大ニス

ルモ確實ニシテ失敗ナキヲ保証スルモノナリ  
 最モ良ク行フヨル梓製ノ卵種數百「オメス」又ハ二三千「オメス」ヲ以テ人  
 ノ望ムカカ如ク養蠶ノ業ヲ盛大ニ行フヲ得ヘシ蠶病ノ有無視察員及其  
 助員ヲ増加スヘキハ余ノ知ル所ナリト雖モ各種ノ視察業ヲ行ヒ得ヘ  
 キオ余ノ保証スル「ハ」貨幣照檢員ノ金屬混合ハ正確ナルヨリ保証ス  
 ルカ如シトス  
 是人故コ可成養蠶ノ業ヲ大ニスルヲ要スヘシ十分之ヲ大コスルノ計  
 畫ヲ爲シ我國人ノ習慣ニ於ケル如クシテ余ノ製作ニ於テ梓製ノ無病  
 ナル蠶種ハ六十「オメス」トシ「オメス」病ハ大ナル被害ヲサレ  
 ハ十分ノ收穫アルヘキモノトス其害タル今ヨリ後注意シテ防遏スル  
 ヲ要スルモノナリト因テ無病ノ蠶ヲ發生セシメ卵種ハ前ニ言ヘル如ク  
 袋ニ入レ籠ノ中ニ釣ルシタリ彼ノ紙箱ノ中ニアルモノニシテ害ヲ被  
 リタルモノハ八月マテ百中僅ニ三分アリシノヨリ其他ハ蠶卵共ニ大  
 害虫ノ侵ス所トナレリ

此時マテハ不良ノ事ナカリシト雖モ之ヨリ事宜シカラス今之ヲ記載  
 スヘシ抑十月八日附ノ御懇書ヲ披見スルニ農會ノ委員會ハ經驗者ナ  
 ル余ニ褒詞ヲ與フル「オメス」客マシテ(褒詞ハ余ノ敢テ當ラサル所ナリ)  
 余ノ當ラサル過分ノ褒詞ヲ與ヘ事業ニアルカ人ノ身ニ在ルカハ知ラ  
 サレド大ニ其褒詞ヲ與ヘタリ蓋シ其褒詞ハ之ヲ一般ヨリ言ヘハ學術  
 之ヲ特別トシテ言ヘハ「オメス」氏ノ事ニ係レリ最後ノ結局ヲ言  
 ハシニ當地カンカーデニ於テ完全ナル經驗及每會指揮部派出員ノ目  
 撃シタル景况ハ亦非議スヘキモノアラサルナリ  
 委員會ニ於テハ「オメス」方法ヲ大ニ行フ「オメス」付キ起リタル反對  
 説ニ對シ困難セシ「ハ」左ニ記スルカ如シト云フ  
 第一顯微鏡ヲ以テスル進化法ニ因リ梓製ヲ以テスル卵種ノ數量ハ  
 世ノ需用ニ應スルニ足ラサル  
 第二賣價ハ養蠶者ノ利益トナラズシテ得失相償ハサル  
 第一ノ説ニ答ヘシ「ハ」余來春ノ製種ニ於テ盡力スヘシ此時ニ當テ爾

ノ收穫不良ナラサレハ最良ナル蠶種ノ各二十五「グラム」ヨリ少クモ一  
 千「トン」ニ至ルニ至ルヘキコト勿論ナリト思考ス  
 今後何等ノ故障ヲ生スルカ余之ヲ先見スル能ハサレハ其故障ニヨリ  
 一千八百七十一年ニ於テ要スル繭ヲ悉ク供備シ能ハサルハ其翌一  
 千八百七十二年ニハ必入用ナル繭數ヨリモ一層多數ヲ收穫スルヲ得  
 ヘキコト疑ナキトス名譽ナル議長閣下ニ請フ事業ノ進歩ハ一步毎ニ  
 スチニユール氏ノ明解ヲカカ如ク幸甚ト云フヘキ善長ノ途ヘ趣キ且  
 又事業ハ容易トナリ自然疑或ヲ輕減スルノ幸運ニ達セザルハキヲ推  
 慮アラゾコトヲ又他ノ諸氏モ余ノ此言ヲ忘レサランコトヲ  
 今若シ養蠶者ニシテ翌年ニ於テ自ラ飼養セシト欲シテ良種ヲ購入セ  
 シトスル者ノ入用ニ從ヒ一千「トン」ニ分配シ已ニ解明セル所ノ善長  
 ナル方法ニ據リ此蠶種ヲ注意ヲ以テシテ養ヘハ必ス少ク計ルモ四万  
 「キログラム」ノ繭ヲ收穫シ是ヨリ一「トン」ニ二十五「グラム」ナル八万「トン」  
 ニシテ蠶卵ヲ獲ルコト明瞭ナリトス而シテ此八万「トン」ニシテ種紙ニ比較

スルハ八万枚ノ量數ヨリモ遙カニ多量ニ至ルヘシ

〔註〕新シ二十五「グラム」ヲ以テ一「トン」トスルハ他ノ養蠶國ニ於テ用  
 ヲル量目ノモトト一様ナラシメシカ故ナリ但此一「トン」ハ日本國  
 ヲヨリ輸入スル種紙一枚ノ量ヨリモ僅カニ多量ナルモノト雖モ甚  
 價少ナルヲ以テ種々アル「トン」ノ代用トシテ伊太利國ニ於テハ之  
 レヲ一般ノ目方トシテ用フル一「トン」ナリトス尤モ二十「グラム」ヲ  
 越エサル微粒子病ノアラサル蠶卵ヲ長ク養フキハ未開製ノ良種一  
 「トン」ノモノヨリモ多分ノ收穫アルヘシ  
 是ノ故ニ余ノ會テ試ミルコトヲ憚カラザリシ方法ヲ唯々十人ヲ以テシ  
 テロソバルヂヤニ於テ嚴ニ行ヒタランニハ現今伊太利北方全体ニ日  
 本ヨリ輸入セシ所ノ卵種ヨリモ最良ニシテ且數多ナルモノヲ製スル  
 ヲ得ヘシ二三年ノ間漸次ニ微粒子病ヲ免カルハ爲ニ黒死病ヲ防遏ス  
 レハ善長ノ産卵ハ容易タルヘク農業者ノ其善長ナルコトヲ知テ其方法  
 ヲ採用スヘキコトハ疑ナシ入レサルナリ而シテ後諸人ニ其己レノ利益ヲ



昔々知ラシムルヲ要スヘシ然ラハ則チ僅カ十年ナラサルコ各人チ  
 ンテ種子ノ實際ノ需要ニ供給セシムルコ至リ終コハフヲヤラソヨリ  
 シテ伊太利及佛蘭西ニ其種ヲ供スルコ至ラントス然ラハ則チ少ク見  
 積ルモ二千万「リ」ラ「チ」日本ニ拂ハサルヲ得テ而シテ伊太利ノ産額ヲ  
 増スヲ得ヘシ  
 今ヤ第二ノ論難ニ移ルヘシ是レ外觀ニ於テハ最モ恐ルヘキモ實際ハ  
 容易ニ敗フルヲ得ヘキノ説ナリ唯々經驗ニ因リ余ノ放着シタル好結  
 果ヲ知ラシムヘキノミ故ニ數語ヲ以テ之ヲ畧言シ証左ヲ示セハ容易  
 ナルノミ  
 此故ニ予ハ大量ノ製作法ヲ適用スルニ當テ失敗ナカラントシテ爲コ完  
 全ノ卵種即チ微粒子病ナキ蝶ヨリ産種二十五「グラム」ヲ以テ試ミレ  
 トハナセリ此蠶種十分ナル多量ニ製シ國ノ需用ニ容易ニ足ラシメ  
 シニハ年々日本ノ部分ニ拂フ價ヨリモ廉ナル價ヲ以テ供給セサル可  
 ラサルナリ

其代價ノ蠶種ヲ産出スル者ニ十分ノ利益ヲ與フルコハ現今ノ情況ニ  
 於テハ疑フ可ラサルナリ  
 此事ヲ理會セシメシモノハ少ク言テ費ヤサハル可ラス  
 實際昨年(一千八百六十九年)ニ於テ綠色ナル日本ノ種紙ノ價ハ三十「リ  
 ヲ」乃至三十五「リ」ナリシコハ少カラストス因テ余ハ蠶種ノ二十  
 五「グラム」ヲ金貨三十二「リ」ヲ以テ製作シ賣出セハ其産出者ニ應分ノ  
 利益アルヘキコヲ確見セリ(紙幣ハ相場ノ高低アルニ因リ金貨ヲ以テ  
 價ヲ示セリ)  
 余ハ余ノ確言ヲ疑フ者ニ明瞭ニ断定シタル証左ヲ唯々一種示サント  
 ス  
 余ハ速ニ揚言セントス曰ク來春善長ノ狀況ヲ以テ産出スヘキ黃色種  
 蠶ノ量ヲ適度ニ定メ我國ニ必要ナル分ヲ得ヘキ種ヲ前言ノ價ヲ以テ  
 余ニ之ヲ注文スル者ニ供給スルノ勞ヲ自ラ取ルヘシト貴下ノ其供給  
 ニ因ラントナラハ一事ノ定ムヘキモノアリ即チ必要ノ時ニ於テ蠶種

ナ余ニ注文スルハ是レナリ何シトナレハ春ノ來ル二三月前ニ必要  
 準備ヲ爲サハル可クサレハナリ余ニシテ約束ヲ違ヘサラント欲セハ  
 其準備ニハ時ト金トヲ要スルコト認ラレハ此一事ノ止ム可クサ  
 ルコト知ラレハ我ニ要スル分ヨリモ多ク産出スヘキ蠶種ノ賣口ア  
 ルヘキヲ確乎タルニ非レハ其金ハ費ヤス可クナルナリ然レモ買主  
 欺カサラシコト欲セハ其危険ハ余ノ利益ニ非レナリ若シ其危険ノ發  
 生スルアラハ危険ニ割合テ價ノ昇ルヘキハ元ヨリ當ニ然ルヘキナリ  
 是レ自然ノ勢ナルハ明瞭ニシテ凡ソ工業ノ世界ニ在テ此規則ニ洩ル  
 ハモノハ非レナリ其他私人ノ産出者ニ注文スル時種ノ注文ヲ前拂ス  
 ルノ慣習ハ我々ノ間ニ行ハル、所ナリトス  
 今ヤ其價ハ養蠶者ニ利益スヘキヲ証明スルハ一事アルノミニ  
 短畧ニ要テ接シテ養蠶者ニ最モ便宜ナル方法ヲ言ヘハ蠶種ハ産生ノ  
 爲メ養蠶者ノ製スヘキモノナリ又製糸工ニ繭ヲ産出スル者ノ爲メニ  
 注意シ日本ノ種紙ニ注意スルヨリハ常ニ需用ヲ高ク度トシ梓製蠶種

一箇二十五グラムノモノヲ製スルヲ要スルナリ  
 繭ノ最モ上等ナルモノニ在テハ日本原産ノ種紙ヨリ生シタル繭ニ拂  
 フヨリ三分ノ一余高ク拂フモ敢テ不快ニハアラサルナリ  
 今年ヤシヨリヤリ市場ニ於テ賣買ノ尙ホ盛況ヲ呈セザリシ時ニ在  
 テハ一「キログラム」ニ付キ六「リ」ヲ以テ並繭ノ大量ヲ購フヲ得  
 リ黃繭ノ二三「キログラム」ハ八「リ」ヲ賣買アリキ買主ハ之ヲ  
 糸ニ製シタル後ニ曰ク日本蠶種ノ繭ヲ購入スルヨリハ利益アリト  
 前ノ繭ハ二種共ニ同地ニテ收穫セルモノアリ余ハ即チ此土地ヨリ本  
 書ヲ呈スルノ榮ヲ有スルナリ之ニ因テ之ヲ見ルニ日本製ノモノ一「キ  
 ログラム」ニ付キ四「リ」ヲナレハ余カ梓製ノ蠶種(検査シタル蠶種ヨ  
 リ生シタル余ノ梓製法ヲ以テ收穫セルモノ)ヨリ生シタル黃繭ハ必ス  
 一「リ」ヲ二十五乃至一「リ」ヲ三十五又ハ其上ニ賣レルナルヘシ其價  
 一「リ」ヲ三十トスレハ一「キログラム」ニ付キ五「リ」ヲ三十ノ余分ナ  
 リトスプロウシヤノ産額ヲ平均スルニ此地方ノ一商人ノ言フ所ニ

因レハ普通ノ産額ナリ各二十五グラムニ付キ繭三十キログラムナ  
 (註)少ク注意ヲ以スル養蠶法ニ因レハフリヤンツヤニ於テハ大ナル  
 収獲ヲ得ルナリ愛ニ示セル産額ハ最モ少キモソトス同シ性質ノ蠶  
 種二十五グラムアルヲ以テ一般トシテ種紙ノ産額ヲ視ルキハ此産  
 額ハ通常ヨリモ多シ  
 種紙ヲ以テシタル前ノ平均額ハ十分トナスモノナリ  
 然レハ前ニ云フ目方ニテ四リ「ナレハ三十キログラムハ百二十  
 「ナレニシテ之ヨリ種紙ノ價三十リ「ナレ減スレハ其價ハ九十リ「ナ  
 ニ減スレハ  
 余ノ粹製ノモノ三十キログラムハ前ノ目方ニ付キ五リ「ナ三十二賣  
 ルレハ百五十九リ「ナナリトス之ヨリ二十五グラムニ價三十二リ「ナ  
 ナ減スレハ其金高ハ百二十七リ「ナニシテ其利益ハ各種紙ニ付キ三  
 十七リ「ナトス

粹製ノ蠶種ハ著大ノ平均産額ヲ生シ又繭ノ價ハ尙ホ久シク貴カルヘ  
 キ「ナ思ヘハ余ノ證明ハ理會スルナルヘシ  
 (註)其平均ハ此二種ノ場合ニ於テ三十二キログラムニシテ日本繭ノ  
 價一「キログラムニ付キ五リ「ナナルトハ蓋シ此價ハ一時ナレハ不  
 時ナル政治上ノ變動ニ遇フアレハ尙ホ低落スヘシ黃繭ハ一「キログ  
 ラムニ付キ六リ「ナ六十三ニ賣レルヘキハ確乎ナリ此場合ニ於テ  
 ハ養蠶者ノ利益ハ各二十五グラムニ或ハ種紙ニ付キ三十七リ「ナニ  
 シテ或ハ五十リ「ナ八十ニモ上ルコトアラン  
 以上ニ以テ閣下ニ對スル余ノ陳述ノ終リトス願クハ余ノ經驗ノ本間  
 題ニ係ル工業ニ裨益セシコトヲ  
 余ハ學會委員會ノ報告ヲ知ラシメテ待ツニ堪ヘサルナリ然レハ粹製  
 ナリテ蠶種ヲ製作シ顯微鏡ヲ以テスル進化ノ爲メハステナール方法ヲ  
 盛大便宜ニ施用スルノ問題ヲ研究シタル後ノ斷言ハ余ノ來春ノ季節  
 ニ養蠶ヲ爲セタル後ニ及シテ爲スヘシ何レノ反對説モ皆ナ余ノ左

如主張其証左ニ遇フテ破ルヘキハ確然ナリトス曰ク我國ノ需用  
 多ク以テ從テ規模ヲ大ニシ工業上ノ便宜ニ因テ前ニ言ヘル方法ヲ適  
 用シ得ヘク又適用セサル可ラストブリヤンツナリニ於テ佛蘭西ヨリ  
 釐種ヲ買スル方利害ヲ人々ノ心ニ解スルヲ選カラサレハ亦テ國家ノ  
 大慶ナリ謹言

（ト）ヨシヨノ邑ニ千八百七十年十月二十六日

海農會議長閣下

（以下は非常に小さい文字で書かれた文書の内容が続く）

（二千八百八十一年十二月廿七日ノ中央委員ノ會議ニ於テ認可シタル）  
 未開貯金銀行ノ管理者ナル中央救惠委員ノ評議ヲ以テ請求シタル事  
 項ニ關スルニ千八百八十年三月四日付ノ勅令第四條ヲ適用スル爲メ  
 左ノ條ニ係ル評議ハ中央救惠委員ニ屬スルモノトス

第一條 貯金銀行及ビ救惠局ノ組織定款及ビ其規則

第二條 施行委員ノ撰舉

第三條 各年ノ費消金ノ計算及ビ損益勘定

（イ）救惠資本金ノ損益勘定及ビ翌年下四半期（三ヶ月）ノ末毎ニ差出ス  
 ニキビトリヨニマニニウエレ第二世資本金ノ損益勘定  
 （ロ）翌年上半期ニ差出スベキ救惠資本金ノ費消勘定  
 ニニウエレ第二世ノ資本金費消勘定 貯金銀行ノ損益勘定 土  
 地抵當貸金損益勘定

第四條 事務整理規則及ビ一般ノ利益并ニ特別ノ利益ニ係ル最大ノ

事項

- (イ) 新設支店ノ開業ニ從來設立アル支店及ヒ新設支店ノ規則及ヒ銀行支店ノ廢業
  - (ロ) 中央ノ理事部及ヒ其管轄スル支店人員ノ規則
  - (ハ) 中央理事部現今ノ業務範圍ヲ包括スル事務長ノ撰任但後來不時ニ其業務範圍ヲ改革スルヲ妨ケサルモノトス
  - (ニ) 休業及ヒ中央理事部ノ人名簿ニ在ル人員ノ轉任
  - (ホ) 從來ノ事業ノ廢止新事業ノ開始
  - (ヘ) 貯金支拂利子ノ改定并ニ預ケ入拂出規則
  - (ト) 銀行資本金ノ使用法
- 第五條 公益及ヒ救惠ニ供スル金額ノ分配各會社ニ一ケ年間交付スル補助金ノ四千「リ」ヲニ越エサル限ハ委員ヨリ交付スベシ但シ其會社ハ從來補助金ヲ交付シタル會社タルヘク又補助金ノ全額ハ二ケ年五萬「リ」ヲ越エ可ラズ

第六條 抽籤法又ハ新陳交代法ニ因リ退職スル施行委員及中央救惠委員ノ指名

第七條 中央委員タル者ニシテ會社ノ事業ヲ益々盛隆ナシムルニ必要ナリト認ムル意見アルキハ是ヲ施行スル權理アリト雖モ中央委員會議ノ時ニ於テ議案ニ記入スル爲メ前以テ議長ニ通知スベキモノトス

第八條 施行委員タル者ハ特別ノ場合ニ於テ必要ト認ムル諸事ヲ總テ施行スルノ權ヲ有ス但シ中央救惠委員ノ第一回ノ集會ニ於テ之ヲ報告スベキモノトス

第九條 施行委員會ノ議長ハ二ケ月毎ニ會社一般ノ事業ニ係ル景況ヲ中央委員ニ報告スルモノトス

皇帝陛下ノ中將サウボーヤカリニヤノ公エウゼニヨハ委任セラレタル權限ニ依リ

内務大臣ノ申告ニ因リ

一千八百六十年五月廿五日附第二千五百八十七號ロソバルヂヤ州貯金銀行ノ管理者ナル在米蘭府中央救惠委員ヨリ提出シタル請願書ヲ閱按シ

一千八百五十九年十一月二十日附第三千七百七十九號ノ救惠ニ係ル法令ヲ以テ認可シタル救惠ノ會計法及ヒ經濟事務ノ規則ヲ閱按シ參事院ノ意見ヲ聽取シテ爰ニ布告ス

第一條 米蘭府中央貯金銀行及ビ在ロソバルヂヤ銀行支店ノ組織規則ハ予ノ命令ニ因リ内務大臣ノ署名ヲ以テ認可スルモノトス

第二條 銀行ヨリ救惠事業ニ給與スル金額及ヒ救惠資本金ニ付テハ米蘭府ノ中央救惠委員ハ一千八百六十年八月十八日附ノ敕令ヲ以テ認可シタル救惠ニ係ル規則及ヒ一千八百五十九年十一月二十日

ノ法令ヲ遵奉スベキモノトス  
前記ノ大臣ハ此ノ勅令ノ施行ニ任スルモノナリ  
トリノ千八百六十年十二月廿二日

エウゼニヨ  
デイサウチヤ裁可  
ミンゲツナ  
署名

注意

前ノ勅令ノ第二條ニ示ス處ノ救済資本金ハ一千八百十七年ニ於テロ  
ンバルヂヤ州ノ凶作ニ備フル爲メ貯蓄シタル金額ノ百分ノ一ヲ以テ  
資本ヲ増額シ其殘金ヲ以テ備フルモノナリ  
此資本ハ貯金銀行ヲ管理スル委員ニ囑托スルモノナリト雖モ特別ノ  
用途ヲ定メ貯金銀行ニ於テ處分スルモノナリ

ロンバルヂヤ貯金銀行

組織定款

第一章 中央銀行及び其支店并ニ理事

第一條 ロンバルヂヤ貯金銀行ト稱スルハ唯クニ中央銀行ノミナラ  
ズ銀行支店モ亦ク此名稱アルモノトス又其銀行支店ハ一千八百二  
十三年六月十二日ノ布告ヲ以テ高等官衙ノ裁定ヲ經タル規則ニ因  
リ同年ヨリ開始シタル業務ヲ繼續スルモノトス

第二條 未關府ニ設置スル中央銀行ハ貯金會社或ハ貯金銀行支店ノ  
名稱ヲ以テ已ニ開業シタルモノ及ビ本府ノ貯金銀行ヲ總括スベシ  
理事部ノ意見ニ因リ銀行ノ支店ヲ設立スルノ必要アリト認ムル地  
方ニ支店ヲ設クルヲ得

第三條 ロンバルヂヤノ貯金銀行ハ其組織規則及ビ目的ニ因リ銀行  
ノ名義ヲ以テ約定シ或ハ購入シ得ベキ特別ノ規定ヲ設クルヲ得ベ

シ但シ救惠事業トハ明ニ類別スヘキモノトス故ニ經濟上及ビ會計事務等ニ於テハ第三千七百七十九號ノ一千八百五十九年十一月二十日附法令及ビ第四千二百四十九號ノ一千八百六十年八月十八日附ノ敕令ヲ以テ認可シタル規則ニ因ラサルヲ得

第四條 中央貯金銀行及ヒ其管轄ナル支店ノ管理ハ在未開府ノ中央救惠委員ニ屬スルモノトス委員ハ政府ノ撰擧スル議長一名及ビ能力アリ廉直ニシテ名望アル者六名ヲ以テ組織シ無給料ニテ管理ヲ爲スモノニシテ其撰任ハ委員ノ申告ニ因リ内務大臣ノ認可ヲ受クベキモノトス

委員ハ集會シテ評議スベシ

第五條 理事委員ハ其任免スル指揮長一名ヲ以テ其事務ヲ助ケシム  
指揮長ハ事務所ノ監督及ビ内規ヲ以テ定メタル普通事務ノ取扱ヲ負擔シ此事務ニ付テハ指揮長ハ私ノ關係或ハ政府或ハ他ノ事務所

ニ對シテ委員ヲ代理スルモノトス猶ホ指揮長ニ屬托スルハ委員ノ命令ヲ施行シ或ハ施行セシムルコトス

委員ハ其取扱フヘキ事務ヲ指揮長ニ委任シ或ハ結約ケイゲンバウコノ上貸金ヲ爲サシム但シ此特別囑托ハ其度毎ニ指揮長ニ爲スモノトス指揮長ハ貸金ノ請求アル毎ニ委員ノ評議ヲ經テ自カラ之レヲ裁斷スベキモノトス

指揮長不在ナル時或ハ事故アルキハ書記或ハ指揮長ノ代理人ヲシテ之ヲ代理セシム

第六條 最も大切ナル事件ハ委員ノ評議ニ附スルモノトス但シ普通ノ經濟理事部ニ屬スルモノハ此限ニ非ス其他委員ノ評議ニ附スル事項ハ左ノ如シ

- 第一 貯金銀行ノ支店ヲ維持スル規則及ビ最大ノ事項
- 第二 新設支店ノ開業在來ノ支店及新支店ノ規則及其廢止
- 第三 第四十五條ニ因リ附屬銀行并ニ中央理事部ノ役員



第四 資本金ノ収支諸種元金ノ使用、變災在來貸金ノ償還延期其訴訟

第五 銀行ノ計算及損益勘定其他特ニ豫算セサル費用支出ノ認可

第七條 指揮長或ハ其代理人及ビ前條ノ第一二三五條ノ事務ニ關係アル四名ノ委員ノ出席アルニアラサレハ委員ノ議決ハ効ナキモノトス

第八條 正金、信用貸証券及其他ノ株券類ハ理事部ノ内規ニ定メタル規則及ビ特別ノ監護ヲ以テ之レヲ保管スルモノトス

第九條 貯金銀行支店ハ中央銀行ニ隸シ收入スル金圓ヲ中央銀行ニ拂ヒ込ミ第五條及第六條ニ因リ指揮長或ハ委員ノ命令ニ從フヘキモノトス

第十條 支店ノ原告人タルト又ハ被告人タルト裁判所ニ於テ其代理ヲ爲ス者ハ理事委員タルヘシ

支店ハ其委員ノ履行スル裁判ノ法式ニ從フヘキモノトス  
委員ハ必要ト認ムルニ於テハ委任狀ヲ指揮長ニ交付シ裁判所ニ其權利ヲ行フヲ得

第二章 預ケ入及拂渡

第十一條 貯金銀行ニ預ケ入ル、金額ハ一回ノ最少額ヲ伊太利ノ一「リ」ラトシ最多額ヲ二百五十「リ」ラト定ム但シ「リ」ラ以下ノ端數ヲ除ク

右ノ定限ヲ改メントスルハ普通報告書ヲ以テ廣告シ且内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條 貯金ノ利子ハ一ケ年ニ付貯金總額ノ百分ノ三半トス利子拂渡ノ期限ハ第十五第十六ノ兩條ヲ以テ定ムル所ニ因ル此定限モ亦前條ニ示ス如クシテ改定スルヲ得ヘシ但改定ノ實施ハ是レニ關スル報告ヲ出ダセル後三ケ月ヲ經ザレハ爲ス能ハサルモノトス  
第十三條 最初ノ金圓拂込ノ時ニ於テ預ケ主ニ小形ノ帳面一部ヲ渡

シ是レニ記スルニ金子預ケ主ノ預ケ入金高及拂戻勘定、利金拂渡シ  
高及ビ預ケ入レ毎ノ金高並ニ其時々ノ日附等ヲ以テスベシ

第十四條 拂渡シ金ハ多少ニ拘ハラズ預ケ主ノ請求ニ因ルモノトス  
預ケ金ノ伊國百二十五「リ」ヲ超過セサルキハ金圓拂渡ハ直チニ  
實行スベシ又定限ノ金高ヲ超過スルキハ其多寡ノ如何ヲ問ハス帳  
簿上ニ記載セル日ヨリ十五日前ニ告知スルヲ要スルモノトス毎年  
十二月三十一日ヲ以テ利金ヲ計算シ元金ニ組入ル、ニハ告知ヲ要  
セズ利金ノ拂渡ヲ請求スルキハ翌年ノ一月中ニ精密ニ計算シテ渡  
スベシ

第十五條 貯金銀行ニ預ケタル金圓ノ利子ハ貯金ヲ爲シタル月ノ十  
日二十日及ビ三十日ニ分テ利子ヲ附スルモノトス  
支店ニ預ケ入レタル貯金ノ利子ハ其翌日以後ノ十日二十日及三十  
日ニ分テ利子ヲ附スルモノトス  
第十六條 預ケ金ヲ拂渡スコハ全額ナルト分額ナルトヲ問ハス是レ

ヲ拂渡ス前日ヨリ利子ヲ止ムルモノトス但其時直チニ拂ヒ渡シタ  
ル金高ノ利子ニ限ル

第十四條ノ告知ニ因リ拂戻ヲ請求スル時ハ利子ハ其告知アリシ日  
ノ前ノ十日二十日及ビ三十日ノ末日ヨリ附セサルモノトス此期日  
ニ於テ拂渡金ヲ請取ラサレハ貯金銀行ノ規則ニ因リ無利足貯金ト  
見做スベシ

第十七條 貯金銀行ノ會計ハ千八百五十九年十一月二十日ノ勅令ヲ  
以テ定メタル伊國ノ「リ」ヲ以テ計算スベシ貯金銀行ニ於テ收入  
シ及ビ支拂フベキ金圓ハ半「リ」以下ヲ除ク外ハ内國法律ノ通用  
ニ因リ金銀ノ貨幣ヲ以テスベキモノトス

第十八條 支店ニ於テハ預ケ金ノ帳簿毎ニ特別ノ會計帳ヲ備ヘ是レ  
ニ各貯金人ノ姓名ト金高ヲ明瞭ニ記載スルモノトス又此帳簿ニハ  
支拂金ノ外預ケ金ノ收支及ビ利子金額等ヲ日附ト番號ヲ以テ記載  
スベシ

第十九條 未開府貯金銀行其他支店ニ於テ貯金受取ノ定日及ビ支拂金ノ期日ヲ定メ又改良ヲ必要ト認ムル事故アルキハ廣告ヲ爲シテ之ヲ施行スルハ委員ノ權限内ニアリトス

第二十條 委員ハ支店ヲ保護スル爲メニ必要ト認ムル處分ヲ爲シ又非常ナル場合ニ於テハ之レヲ内務大臣ニ通知シテ其處分ヲ爲スノ權ヲ有スルモノトス此處分ハ慣例ニ因リ普ク廣告ニ關係アル者ニ告クルノ義務アルモノトス

第二十一條 第十一條第十九條及ビ第二十條ニ關スル改正ノ廣告及其他委員ニ於テ貯金者ニ報告スヘキモノハ其廣告ヲ未開ノ官報ニ出スノ外支店所在區ノ報告場及ヒ貯金銀行内等ニ張紙ヲ以テ同一ノ廣告ヲナスヘシ其事ヲ終結シタルキハ國王ノ布告<sup>プロムナツト</sup>ヲ以テ前條ニ因リ處分シタル事ノ有効ナルコトヲ公布スルモノトス

第三章 預ケ金帳

第二十二條 貯金銀行ヨリ交付スル帳面ニハ銀行ノ長或ハ其代理者

委員二名及書記等ノ書印ヲ要ス又預ケ金帳ニハ支店ノ印及ビ規約ノ拔萃書一部ヲ添フヘシ貯金者ノ初メテ貯金ヲ請求スル時ハ預ケ金帳ノ代價トシテ伊太利國ノ二十<sup>「チエント」</sup>「シモ」<sup>「チエント」</sup>「モ」ハ凡我ニ<sup>「シ」</sup>「チ」拂フモノトス

第二十三條 貯金銀行ヨリ交付スル帳面ニハ貯金者ノ姓名ヲ記シ又其他貯金者ヨリ指名スル表ヲ記入スルモノトス支店ノ帳簿ニモ其姓名及金高等ヲ記載スベシ其他帳面ニ記入スルハ銀行ノ帳簿ニ記スルト同シ番號タルベシ

第二十四條 帳面ニハ預ケ入金及ヒ拂渡金ヲ其日附ヲ以テ支店ノ日記ノ之ニ關スル部分ニ相對シテ記載スルモノトス預ケ入金拂渡金アル毎ニ會計員或ハ是レガ代理員帳面ニ署名ヲ爲スモノトス

第二十五條 貯金銀行ノ帳面ハ無記名手形ト同シ見做スヘシ此帳面ノ讓與ハ口頭ヲ以テ爲ステ得又貯金ノ拂渡ハ請求規則ニ據リ請

求者ヲ確ニ帳面ノ所有者ト認メサレハ爲サバモトス  
第二十六條 貯金ノ拂渡ヲ請求スル者ハ一度ニ數帳ヲ以テ貯金局ニ  
請求スルヲ許サズ又一日内ニハ各帳面ニ附キ貯金ノミカ又ハ拂渡  
ノミノ外請求スルヲ得ス

第三十七條 帳面ノ不規則ナルモノ或ハ毀傷シタルモノ或ハ第四章  
ニ依リ消滅ノ判定ニ屬スル部類ノモノナルモハ拂渡金又ハ其以後  
ノ貯金ヲ爲スヲ得ザルモノトス

第二十八條 現今流通ノ帳面ハ此規約ノ施行ヲ止メタル後ト雖モ慣  
例ニ因リ自然ニ消滅スル時ニ至ルマデ保存スベキモノトス  
但レ規約ノ抜萃書ヲ添ヘタル新キ帳面ハ所有者之レヲ受ケス  
テ額面ノ金圓ヲ以テ交換スルヲ得貯金者ノ其交換ヲ爲スヲ欲セザ  
ル者ニハ請求ニ因リ前ノ抜萃書ヲ印刷シタル雛形ヲ一部ヲ無代ニ  
テ配付スベシ

第四章 帳面消滅ノ事

第二十九條 貯金銀行ノ帳面ヲ紛失シタル場合ニ於テハ私書ニ係ル  
法律ヲ以テ定メタル方法及ビ法式ニ因リ消滅ノ判定ヲナスモノト  
ス帳面ヲ紛失シタル者ハ其旨ヲ貯金銀行ニ届出ツベシ貯金銀行ハ  
記名番號預リ金高或ハ次回ヨリノ拂入レ受戻シタル毎ノ日附及ビ  
總テ元帳ト一様ナル證據トナルモヤ明細書等ヲ舊帳面ニ同シキ新  
帳面ニ記載シテ本人ニ渡スベシ  
其記載ヲ爲スモハ必帳面ノ所有及其紛失ノ證據タル判定書ヲ添フ  
ヘキモノトス

第三十條 明細書ハ貯金銀行ニ於テ今後貯金ノ預ケ入レ又ハ拂戻ヲ  
承諾スルヲ得サルノ効ヲ生スヘシ其明細書ハ一ヶ月間効アルモノ  
トス本人ハ一ヶ月以内ニ主管ノ官衙ニ於テ必要ノ手續ヲ爲シ或ハ  
委員ニ證據ヲ示シテ消滅ノ判定ヲ爲スベキモノトス但シ其證據ヲ  
示サバモルモハ明細書ハ判定ノ終ルマデ効アルヘシ然ラザレバ一ケ  
月ノ後消滅スベシ

第三十一條 消滅事件ノ判定ニ付テハ委員ハ本人ヲシテ其請求ヲ爲  
サシメ第二十九條ノ手續及貯金銀行ノ帳面ノ中紛失帳面ノ記録ア  
ル部分ノ抜萃ヲ記入シタル證書ヲ請求セシムルモノトス但シ證書  
ニ貼用スル印紙料ハ請求者ノ負擔タルヘシ

第三十二條 貯金銀行帳面ノ消滅ヲ判定スル裁判ハ未蘭府ノ地方裁  
判所ニ於テ爲スモノトス

第三十三條 消滅裁判ノ終結スヘキ法律上ノ期限ハ六ヶ月トス  
但シ法令ヲ以テ右期限ヲ短縮スル時マデハ永久右ノ定期ニ因ルモ  
ノトス

第三十四條 消滅ノ裁判ヲ終リ之ニ係ル布告及裁判ニ提出シタル証  
據物ヲ差出シタル後消滅シタル帳面ノ計算ヲ完結シ別ノ番號ヲ附  
シ前ト同シ姓名ヲ以テ新規ノ帳簿ニ因リ計算ヲ開始スルヲ得此場  
合ニ於テハ已ニ消滅裁判ヲ終リ貯金ノ返付ヲ受ケタル本人ヨリ受  
取書ヲ出タカシメ帳面ノ代價ヲ拂ハシメテ新クニ帳面ヲ交付スル

モノトス

又交付スベキ帳面及ヒ貯金銀行ノ帳簿ニハ消滅シタル帳面ニ必要  
ノ關係アレハ之ヲ書入ルモノトス

本人ノ請求ニ因テハ新帳面ヲ交付スルノ消滅シタル帳面ニ記  
入アル預ケ金ヲ拂ヒ渡スヲ得ベシ但シ其預ケ金ヲ拂ヒ戻ササル  
ハ本人ヨリ通知スベキヲ請求スベシ又此通知ハ慣例法ノ期限内  
ニ於テシテ判定ヲ經タル消滅ノ布告ニハ其事ヲ記載セザルモノトス

第五章 貯金銀行ノ精算及計算報告ノ事

第三十五條 毎年十二月三十一日ヲ以精算ヲナシ月々ノ利子ヲ貯金  
者ニ支拂フヘシ此ノ利子ヲ元金ニ組ミ入レハ翌年ノ一月一日ヨリ  
利子ヲ附スベキモノトス

前項ニ示ス期日ノ外ハ利子ノ支拂ハ一切爲ササルモノトス但貯金  
者ノ元金總額ヲ請求スル場合ニ於テハ悉皆之レヲ拂渡スヲ妨ゲサ  
ルモノトス

第三十六條 貯金者ノ一ケ年分ノ精算ヲ終レバ貯金銀行ノ會計員ハ一年間ノ總勘定ノ抜萃書ヲ編製シテ内務省ニ提出シ次ニ未蘭ノ官報及ヒ貯金銀行ノ支店所在地ノ府邑ニ報告ノ張札ヲナスモノトス各年十二月三十一日ヲ以テ事業ノ景況ヲ見ルベキ一般ノ收支勘定ヲ決算シ是レヲ本トシ年々ノ損益勘定ヲ印刷シテ廣告スルモノトス

第六章 豫備金ノ事

第三十七條 貯金銀行ニ收入スル利益金ノ中ヨリ毎年業務入費及ヒ貯金利子等ヲ除去シタル殘額ヲ第四十七條ニ定ムル給與金額ニ加算スベキモノトス但シ内務大臣ノ許可ヲ以テ理事委員ハ其殘額ノ五分ノ一以下ヲ公益及ビ救惠ノ使用ニ交附スルヲ得ベシ其殘額ヲ以テシテ實際ノ収益ヲ増加シタルキハ之ヲ豫備金トシテ銀行ノ不時ノ損失ニ備ヘ貯金銀行創立以來政府ノ貯金者ニ契約シタル利益金伊國三十万「リ」ヲト共ニ貯金者ニ預ケ金ノ支拂ヲ鞏固安全ナラ

シムベシ

第七章 貯金銀行ニ記由シタル元金ノ期滿免除ニ關スル事

第三十八條 理事委員ハ貯金銀行ノ帳面ヲ以テ預ケ入レタル元金ハ帳面ニ記入シタル最終ノ日ヨリ起算シテ四十年ヲ經ザレハ期滿免除トスルヲ得ス

第三十九條 期滿免除トナレル預ケ金ハ豫備金ニ繰リ込ムモノトス

第八章 貯金銀行ニ拂込ミタル金圓使用ノ方法

第四十條 貯金銀行ニ預ケ入レタル金額及ビ銀行ニ備ヘ置クベキ一般ノ金額ヲ使用スルハ理事委員ノ權内ニ在ルモノトス但シ其使用ハ尤モ安全ニシテ收入多キ場合ヲ判定シテ爲スベキモノトス特ニ左ノ方法ノ一ニ因ルヘシ

甲 中央救惠委員ノ所管ナル貯金銀行ノ事業ヲ擴張スベキ地方ニアル不動産蓄入質貸附委員ハ家屋ナレハ其價格ノ半額耕作地ナレハ其價額ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ抵當ニ取ルベカラス

都府ニ在ルト村落ニ在ルト間ハズ委員ニ於テ必要ト認ムル場  
 合ニ於テハ家屋ニ火災保險ヲ附スベシ  
 同固着建築物ニシテ書入質トナスベキモノハ其善悪ヲ問ハズ委  
 員ノ必要ト判定スル場合ニ於テ火災保險ヲ付シ證書ニ其約條ヲ  
 記入シ又約條書ハ最モ貯金銀行ノ利益タル方法ヲ以テ編纂スル  
 モノトス  
 保險ハ委員ノ許可シタル會社ニ於テ附スベシ  
 又前ノ方法ニ因リ動産質物ヲ書入質トシテ貸附金ヲ爲スコトヲ  
 得  
 未聞府下ニ住所ナキ借主ト契約ノ期限ニ利子ヲ正シク拂込ム爲  
 メニ相當ノ保證人ヲ立ツベキモノトス  
 乙 未聞相場所ノ帳簿ニ記入シタル手形ヲ以テ貸金ヲ爲スヲ得又  
 公債証券國立銀行株券及邑ノ証券ヲ以テ質物ト爲スヲ得  
 右ノ方法ヲ以テ貸附ル金額ハ貸附ノ日ノ手形ノ相場價額ノ三分

ノニテ越ユ可カラズ

期限ニ至テ利子ト共ニ貸金ヲ返却セザル時又ハ委員ヨリ請求ス  
 ル期限内ニ於テ借主ヨリ他ノ保證物ヲ出タサバハ貯金銀行  
 ハ裁判ニ因ラス官許兩替社ノ代理人ヲ以テ保證物トシタル公債  
 証券等ヲ他ニ讓與スルノ權アルモノトス  
 賣却ヲ實行シタル後元金ノ利子及ビ費用トシテ銀行ニ拂ヒ入ル  
 へキ金額ヲ除キ其餘ノ金高ハ貯金銀行ニ在テ利子ヲ生セサルモ  
 ノトス借主ハ自由ニ之ヲ處分スルヲ得但賣却シテ得タル金額ノ  
 銀行ニ拂ヒ入ルベキ高ニ足ラザル場合ニハ借主ハ之ヲ補足スル  
 ノ義務アルモノトス  
 丙 未聞府下ニ於テ支拂フベキ爲換手形ハ適當ト認ムル人員少ナ  
 シモ三名ノ捺印ヲ要スベシ其内一人ノ姓名ハ未聞商業裁判所及  
 ビ會議所ノ帳簿ニ記名アルモノニ限ル  
 丁 官許兩替店ノ手ヲ經テ國立銀行ノ株券及ビ未聞相場所ノ帳面

ニ記入シアル公債證書ヲ購求スヘキモノトス  
戊 貯金銀行ノ利益ノ爲メ購求シ得ベキ場合ニ於テ不動産ヲ購入  
スルコト但内務大臣ニ請求スベキ無形人ニ命シタル許可ヲ受クル  
ヲ要セザルモノトス

第四十一條 例外ニ據リ特別ノ注意ヲ要スル場合ニ於テハ委員ハ保  
証物ヲ出スノ義務ヲ盡サスレテ其管理スル救済資本ヲ補助シ並ニ  
豫メ許可シタル無形人及ビ會社等ニ扶助ヲナスヲ得  
但シ其扶助ハ如何ナル場合ニ於テモ救済資本ニ在テハ百萬「リ」ラ  
ヨリ超過スルヲ得ヌ又無形人及ビ會社ニ在テモ此定額ヲ目途トス  
ベキモノトス

第四十二條 貯金銀行ノ利益ノ爲メ所管ノ官衙ニ請求スル書入質權  
ノ記入取消及讓與ハ議長或ハ其代理人ヲ代理トシ理事委員ノ請求  
ヲ以テ爲スヲ得  
但シ書入質事務局ニ其事ニ係ル委員ノ議決證書ヲ提出スヘキモノ

トス

第四十三條 エルモンテロンバルドウベチトノ會社ノ發行手形及ビ  
記名証券類ヲ購求スルニ當リテ委員ノ請求ヲ以テ所有者ノ讓渡ヲ  
貯金銀行ノ理事部ニ宛テ爲スベキモノトス其手形及ビ記名証券ヲ  
委員ヨリ讓與スルコトハ購求者三人ノ名宛トシ委員長或ハ代理人其  
他書記及ビ委員一名之ニ証印スヘシ

第四十四條 理事委員タル者及ビ是レニ屬スル職員ハ私ニ貯金銀行  
ヨリ貸金ヲ借ルヲ得ズ

第九章 中央貯金銀行及銀行支店ノ職員ノ事

第四十五條 中央理事部ノ職員タルト銀行支店ノ職員タルトヲ問ハ  
ス總テ其ノ撰任ハ委員ニ於テ爲スモノトス職員ニハ給料ヲ與フベ  
シ  
銀行ノ都合ニ據リ職員ヲ増シ或ハ減スルノ權モ亦同ク委員ニアリ  
トス



第四十六條 中央理事部ノ役員及ビ雇員其ノ寡婦及ビ孤兒ニハ恩給料並ニ政府ノ役員ノ爲メニ制定シタル限内及ビ場合ニ於テ扶助金等ヲ給與スベシ

第四十七條 前條ノ恩給及ビ扶助金ノ計算ニ付テハ差引勘定ヲ爲シタル後利益ノ百分ノ六ヲ現在ノ資本ニ毎年加ヘ必此目的ニ使用スルモノトス

第四十八條 不時ノ事變ニ因リ貯金銀行ノ閉店スルキハ前條ニ掲グル資本ハ同シ目的ニ使用シ貯金銀行ノ義務及特權ヲ分有スル人員ニ其元金及利子ヲ配當スルモノトス

第四十九條 銀行支店ノ職員ハ規則ニ因リ支配人會計長及會計員ノ三名ヲ以テ組織スルモノトス右ノ職員ハ委員ノ意見ニヨリテ轉免スベキモノニシテ一時雇ト見做スヘシ故ニ給料ヲ受ルノ外特權ヲ有セス前條ニ係ル恩給ヲ受ルヲ得ス

第十章 内部理事ノ規則

第五十條 内務大臣ノ裁可シタル規則ヲ以テ銀行内部ノ經濟法ヲ定メ及ビ理事委員ヲシテ評議ヲ以テ役員ノ等級及ビ職務ヲ定メ又事業執行ノ全体業務ノ整頓及精密ヲ確平ナラシムル爲メニ各種ノ事務ニ相當ノ紀律ヲ設クヘシ

第十一章 現行定款ノ改正及貯金銀行ノ廢業

第五十一條 現行定款ノ改正ヲ要スル時ハ其必要ヲ證明シテ内務大臣ニ申請スルヲ得但シ貯金者ニ關スル事項改正ノ時ハ前ニ示セシ方法ニ因リ其事ヲ廣告スヘキモノトス此特別ナル場合ニ於テ委員ノ決議ノ有効タルニハ第七條ノ如ク議長或ハ其代理人ヲ加ヘ委員五名ノ出席ヲ要スルノ外滿場ノ同意ヲ得ルカ或ハ少ナクモ投票ノ數四箇ノ多數ナルヲ要スベシ

第五十二條 一ヶ所或ハ數ヶ所ノ貯金銀行支店ヲ開鎖スル時ハ如何ナル事情アルモ貯金者ノ預金ヲ精算スルモノトス又委員ハ廣告ノ法方ト期限トニ於テ貯金者ノ隨意ニ據リ其預ケ金ノ拂ヒ戻ヲナス

カ或ハ他ノ銀行ニ之ヲ移スノ準備ヲ爲スベキモノトス  
第五十三條 各所貯金銀行全体ノ停業スル場合ニ於テハ貯金者預ケ  
金ノ總勘定ヲ精算シ所有物件ヲ金圓ニ換ヘ公告シタル順序ニ據リ  
貯金者各自ノ預ケ金ヲ受取ルヘキ時日ヲ定ムヘシ  
期限ヲ經過スルモ受取ラザル金圓ハ理事委員ヨリノ申請ニ據リ上  
等官廳ニ於テ其拂渡ヲ取扱フモノトス

奉勅

内務大臣 書印ス

トリノ府一千八百六十年十二月二十二日

省印

未關府一千八百六十一年三月十六日

右中央救惠委員ヨリ提出ス

正寫

書記「ドットーレ」デボセルリ

議長ア、ボラロー 檢認ス

天祐ニ由リ民意ニ基キ伊太利國王タルウピトリヨニマニユウエレ第  
二世ハロンバルタイー貯金銀行理事委員ノ請求書ヲ閱接シ  
未關中央貯金銀行及ビ銀行支店ノ組織定款ヲ認可シタル一千八百六  
十年十二月二十二日附ノ勅令ヲ閱接シ  
一千八百六十一年六月二十六日附第一千九百一十一號ノ勅令ヲ閱接シ  
農工商務大臣ノ代理文部大臣ノ申告ニ因リ參事院ノ意見ヲ聞キ茲ニ  
布告ス

單條

一千八百六十年十二月二十二日附ノ勅令ヲ以テ認可シタル未關中央  
銀行及ビ銀行支店ノ組織定款第四章ヲ廢シ之レニ代ルニ勅旨ニ因リ  
代理文部大臣ノ檢認シタル第四章帳面消滅ト題スル一章ヲ以テス  
政府ノ証印シタル此勅令ハ伊太利國ノ勅令集書及ビ法令集書ニ掲載  
シ遵奉セシムルヲ命ズ

フイレンツェ府一千八百六十六年六月十日

第四章 帳面消滅ノ事

第二十九條 貯金銀行帳面ヲ紛失シタル場合ニ於テハ紛失セル帳面消滅ノ判定ハ左ニ掲ゲル方法ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ執行スルモノトス

帳面ヲ紛失セシ者ハ直ニ其旨ヲ銀行ニ申出ツベシ銀行ハ記名番號元金預ケ高拂戻或ハ拂込毎ノ日附及ビ總テ元帳ト同一ナル證據タルベキ明細ノ事項ヲ元帳ト同シク新帳ニ記載シテ本人ニ渡スヘシ  
此場合ニ於テハ届ケ出テタル紛失帳ノ所有タル證據ヲ示スベキモノトス銀行理事部ニ於テハ紛失シタル帳面ニ對スル本帳ノ部分ニ假ニ中止ノ二字ヲ書キ入ルヘシ此中止ハ銀行ヲシテ本人ニ金銀ノ拂渡及ビ拂入ヲ一切爲サシムルモノトス

第三十條 此書入ハ四十日間効アルモノトス右期限内ニ於テ本人ノ紛失帳ヲ見出ササル時ハ更ニ本人ノ請求ニ依リ愈々消滅ノ判定ヲ爲スベシ

斯ノ場合ニ於テハ貯金銀行ノ理事部ハ廣告掲載ノ費用ニ要スル金額ヲ豫メ本人ヨリ納メシメ帳面ノ紛失ヲ廣告シテ他ニ其所持人アルカ又ハ本人ノ物ナルカヲ確定スベシ

右廣告ハ帳面ヲ渡セシ銀行ノ所在地ノ公報ヲ以テ三ヶ月間三回續テ爲スモノトス

廣告ヲ以テシテ判定ヲ始メタル時ハ第二十九條ノ末項ニ掲クル書入ハ其判定ノ終ルマデ効アルモノトス

但シ廣告費用ノ支拂ナキ及ビ本人ノ請求ナキニ因テ廣告ヲ爲ササルハ中止ノ書入ハ其日ヨリ四十日ヲ經過セル後其効ヲ失フモノトス貯金銀行ハ帳面ノ紛失ニ因リ中止ト書入タル本人ノ姓名ヲ公ニスベキモノトス

第三十一條 紛失シタルモノト豫定シタル帳面ニ關係アリテ拒ミ証書ヲ出サント欲スル者ハ所持人ノ有無ヲ尋ヌル廣告ヲ以テ定メタル期限内ニ於テ故障ノ訟ヲ爲スヲ得ベシ前項ニ示ス故障ノ訟又ハ紛失ノ帳面ニ付關係者有無ノ廣告ヲ以テ豫定スベキ期限ハ一ケ年トス又其廣告ヲ以テ廣告セシヨリ以來故障ノ訟ナク又ハ關係アルモノ申立ナキハ帳面ノ消滅ヲ執行スヘキヲ告知スベシ

第三十二條 故障ヲ貯金銀行理事部ニ告知スルヲナシ一年ヲ經過シ又ハ故障ヲ爲スモ裁判ヲ經タル証憑ヲ以テ之ヲ棄却シ又ハ故障申立者ニ於テ棄訴ヲ爲シタルハ理事部ハ紛失ト告知アリシ帳面ヲ取消シ新帳面ヲ以テ新タニ帳簿ノ計算ヲ始メ新帳面ノ領收書ヲ取リテ代價ヲ拂ハシメ別ノ番號ヲ附シ消滅裁判ノ終リタル後其姓名ハ人ニ交付スルモノトス

銀行ノ日記及其新帳面ニハ前ニ消滅シタル舊帳面ニ記入シアリシ必要ノ件ヲ記載スヘキモノトス本人ノ請求ニ因リ新タニ帳面ヲ渡

サ、ルキハ領收証ヲ收取シテ消滅ノ帳面ニ記入シアル預ケ金ノ支拂ヲ爲スヲ得但此場合ニ於テハ其金高ヲ通知スヘク其通知ハ故障ノ期限ヲ過ギタル後又故障ヲ爲シタルキハ確定裁判又ハ裁判棄權ノ後慣例法ノ期限ニ於テスベキモノトス

確定裁判ニ因リ故障ノ勝訴タリシキハ貯金銀行ノ理事部ト商議ノ上前條ノ關係ヲ解散スルモノトス

天祐ニ因リ民意ニ基キ

伊太利國王タルウピトリヨエマニユウエレ二世ハロンハルヂヤ中  
央貯金銀行ノ定款ヲ認可スル一千八百六十年十二月二十二日ノ勅令  
ヲ閣接シ

右貯金銀行ノ管理者ナル中央救済委員ノ一千八百七十年七月十六日  
ノ議決ヲ閣案シ

商法第百九十四條ヲ閣案シ

農工商務大臣ノ申告ニ因リ茲ニ布告ス

單條

未聞中央貯金銀行ハ質物トシタル手形ニ關スル組織定款ノ第四十條  
第二項ノ乙部ニ掲ケタル生糸及其他ノ商品ヲ以テ負債ノ償還ヲ爲サ  
シムルノ權アルモノトス生糸及其他ノ商品ノ賣却ハ公許仲買人ヲ以  
テスベシ  
本布告ハ國璽ヲ捺シ伊太利國ノ勅令集書及法令集書ニ掲載シテ遵奉

セシムルヲ命ス

フイレソツエー千八百七十年七月二十二日

ウピトリヨ

エマニウエレ

書印

副署名

カスタノラ

土地抵當銀行條例ヲ認可スル所ノ一千八百八十五年二月二十二日附  
ノ第二千九百二十二號ノ布告

上帝ノ惠ト國民ノ望トニ因リ伊太利國ノ王タル

ウムベルト一世ハ

土地抵當銀行ニ係ル法規ヲ我カ布告ヲ以テ頒布スルニ付キ一千八百  
八十四年十二月二十一日附第二千八百三十四號ノ法律第十六條ニ因  
リ政府ニ委任シタル權限ニ因リ

一千八百六十六年六月十四日附第二千九百八十三號一千八百七十三年  
六月十五日附第一千四百十九號及千八百八十四年十二月二十一日  
附第二千八百三十四號ノ法律ヲ檢査シ

參事院ノ意見ヲ聽キ

我農商工務大臣及我大藏大臣ノ稟告ニ因リ

土地抵當銀行條例ヲ左ノ如ク裁可シタルヲ布告ス  
土地抵當銀行條例

第一條

我王國內ニ於ケル土地抵當貸金ノ業務ハ耶不勒及細々里銀行シエナ  
 ノ「パスキ」質會社トリノ「サンバ」未開「ボロギヤ」及「ガクリー」アリ  
 ノ貯金銀行并ニ羅馬ノ「サントスピリト」銀行ニ於テ取扱ハシム  
 此各所ノ銀行ハ全國諸州ニ於テ其業務ヲ營ムヲ得  
 王國政府ハ國王ノ布告ニ因リ一千萬「リ」ラ（ニ「リ」ラハ凡「我」ニ十錢）ノ拂込資本ヲ  
 有スル所ノ會社又ハ設置物ニ土地抵當貸金ノ營業ヲ許可スルヲ得此  
 會社又ハ設置物ハ拂込ミタル資本ノ金高ニ同シキ金額ニ對スル書入  
 質權アルヲ證明スレハ其拂込資本ノ十倍ノ金高ニ對シテ手形ヲ發行  
 スルヲ得  
 相當ナル手形ヲ發行スルヲナシテ爲シタル貸附金ノ書入質權證書  
 ハ償却アルニ從ヒ既ニ流通スル手形ノ額面金高ヲ以テ他ノ債權又ハ  
 他ノ銀行手形ニ替ヘ流通外ノモノト公示シ其銀行ニ預リ置クノ義務  
 アルモノトス

本律第九條ニ因リ會社又ハ設置物ノ爲メニ記入シタル書入質權ハ先  
 取ノ權ヲ以テ發行セル手形ノ利子及濟崩ヲ保証スルニ充ツルモノト  
 ス但契約ノ手形ハ先取ノ權ヲ以テ流通スル手形ノ利子及濟崩ヲ保証  
 スヘシ

第二條

國王ノ政府ハ國王ノ布告ニ因リ社員ノ不動産ニ五千「リ」ラニ下ラサ  
 ル價格有ルトキハ土地所有主ノ互ニ結フ會社ニ於テ土地抵當貸金ノ  
 業務ヲ營ムヲ許可スルヲ得其會社ノ定款ハ農商工務大臣ノ稟告ニ  
 因リ其布告ヲ以テ認可シ之ニ因テ所有主ノ違奉スヘキ規則ヲ設テ發  
 行手形ノ安全ノ爲メ保証金額及營業金額ヲ定ム可シ發行手形ハ書入  
 質權ニ附スル不動産ノ價額ノ半ニ越ユヘカラス  
 土地所有主ノ會社ハ貸附ノ契約及償還並ニ手形ノ發行及消却ニ付キ  
 本律ノ定ムル所ニ違背スルヲ得ズ

第三條

各設置物ハ貸附ノ請求ヲ容易ナラシメ土地抵當銀行ノ業務ノ擴張ヲ促成スル爲メ國王ノ布告ヲ以テ指定スル都府ニ其出張所ヲ設クヘシ無形体(貯金局質屋(組合タ)ルモノ)及其他ノ設置物ハ政府ノ許可ヲ以テ出張所ノ職務ヲ行フヲ得

第四條

土地抵當銀行ノ業務トスル所左ノ如シ

- 甲 不動産ヲ抵當トシ書入質先取ノ權ヲ以テ其價額ヲ限リトシ濟崩ヲ以テ償還スヘキ金額ヲ貸附クル
- 乙 權理ノ讓渡又ハ代有ニ因リ濟崩ヲ以テ返金スル約束ニ於テ書入質債權及債主ノ特權ヲ得有スル
- 丙 借主ヨリ返還シタル元金ニ均シキ額面ノ手形ヲ發行シテ貸附ノ業務ヲ爲ス
- 丁 貸附ノ契約書ニ因リ書入質權ヲ以テ保證シタル帳簿取引信用貸ヲ爲シ追テ計算ヲ爲ス

戊

伊國公債證券、大藏省證券銀行手形、國庫縣及邑支辨ノ年金及ヒ取立タル金額ヲ取引帳簿ニ記入スルカ或ハ手形ノ辨償ニ充ル爲メ預入ト爲カ或ハ現在取立以後期限ノ來ルヘキ年賦ノ支拂ニ充ツル爲メニ預入ト爲ス所ノ政府ノ保証アル或ハ其補助金アル會社ノ利息及配當金ノ取立ヲ無代ニテ負擔スル

手形ハ五分、四分、五厘及四分ノ利子ヲ以テ發行スルヲ得

請求シタル貸附金ヲ村落所有地購入ノ代價又ハ費用ヲ要スル長期貸貸ノ支辨ニ限リ使用スルキハ會社ハ其價額ノ三分ノ二ヲ限リトシテ貸附ヲ爲スヲ得

書入質ノ價額ヲ貸附ノ金高或ハ權理ノ代有又ハ讓渡ヲ以テスル得有ノ金高或ハ帳簿取引ノ精算高ニ加算シ本律ニ定メタル場合ニ於テ不動産價額ノ半又ハ三分ノ四ニ越ニサルキハ書入質權ノ記入ノ先番ハ土地抵當銀行ノ業務ニ妨害タルヘカラス

第五條



既ニ記入シタル債權ニ係ル金額ヲ償還スヘキニ於テ其償還ノ實行ニ  
因リ會社ノ書入質權ノ先番タルキハ貸附ハ書入質權ノ先番ヲ以テ爲  
シタルモノト見做スヘシ  
會社ハ質物ノ不足ヲ保証スルニ十分ナル金額ヲ保有スル時ハ償還セ  
ル債主ノ特權又ハ書入質權ノ代有ヲ檢査スル前ト雖モ貸附ヲ先番ト  
爲スヲ得

第六條

第四條ノ明文ニ因リ貸附ハ二種ノ方法ヲ以テ爲スヲ得

甲 利子、手数料及事務費（ア）ノ金高納税金及濟崩金高ヲ込メ年賦ヲ以  
テ償還スル濟崩貸附、濟崩金高ハ十年ヨリ少カラズ五十年ヨリ多  
カラサル期限ヲ以テ貸金ヲ償還スルノ方法ヲ以テ計算スヘキモ  
ノトス

乙 規則ニ定メタル制限内ニ於テ書入質權簿取引信用貸ヲ以テス  
ル期限前ノ返金但其返金ハ抵當ニ取タル不動産價格ノ半額ニ越

ユルヲ得ス

各會社ハ貸附ヲ爲スニ手形ヲ以テシ帳簿取引ノ期限前返金ハ通貨ヲ  
以テスルモノトス  
貸附ノ利子ハ發行スル手形ノ利子ト同額タルヘシ帳簿取引期限前返  
金ノ利子ハ不定トシ會社之ヲ定ムルモノトス  
會社ヨリ手形所持人ニ支拂フ金額及利子ノ外會社ヘ拂ヒ入ル、入費  
年賦金及利子等ハ總テ正金ヲ以テ支拂フヘシ

第七條

貸附ヲ爲シタル會社ニ拂フヘキ手数料及事務費ニ付テハ借主ハ利子  
及年賦金ニ貸附元金百「リ」毎ニ四十五「チ」ニシテ「チ」ニシテ「モ」  
ヨリ多ラサル年々ノ費用ヲ加ヘテ會社ニ拂フヘシ契約入費又ハ書入  
質權ノ殺滅或ハ消除ノ入費ハ借主ノ負擔トス  
其他國庫ニ納ムル爲メ現行書入質稅登記稅印稅其他契約ノ方法ニ因  
リ且手形ノ發行及流通ノ爲メニ要スル費用ハ各々其名義ヲ以テ十五

「チエントシモ」チ國庫ニ納ムルモノトス此十五「チエントシモ」ハ國王ノ  
布告ニ因リ十「チエントシモ」ニ減スル「アル」ヘシ  
税金拂込ニ在テハ期限前ノ拂込ハ普通ノ律ニ從フモノトス

第八條

利子、年賦金、入費、國庫税及會社ニ拂フヘキ元金償還ノ支拂ハ如何ナル  
故障アルモ遲延ス可ラズ  
此名義ヲ以テ拂フヘキ金額ハ當然拂込期限ノ日ヨリ利子ヲ生スルモ  
ノトス

期限ノ至リタル返金ニ付キ唯々一部ノ支拂ヲ遲延スル場合ニ於テハ  
會社ハ其支拂ヲ受クヘキ各金額全部ノ支拂ヲ互ニ請求スルヲ得  
負債主ハ會社及國庫ノ爲メ第七條ニ定メタル費用ノ義務ヲ盡セハ其  
負債ノ全部又一部ヲ期限前ニ償還スルノ權アルモノトス  
其費用ノ會社ニ拂フヘキモノハ期限ニ先テ返還スル金額百「リ」毎  
ニ一回ニ付キ四十五「チエントシマ」トス國庫ニ拂フヘキモノハ元金一

部分ノ期限前ナル返還ノ場合ニ於テハ其皆濟マテ最初ノ契約ニ定メ  
タル納税ノ金額ヲ年々ニ支拂フヘク又元金ノ総額ヲ返還スル場合ニ  
於テハ残りノ年々ノ納税金高ノ四分ノ一トシ返還スヘキ元金ト共ニ  
一回ニ拂フヘシ

正金ヲ以テ元金ノ全部又ハ一部ヲ期限前ニ返還スル場合ニ於テハ負  
債主ハ手數料及國庫税ノ外ニ手形ノ金高ヲ償還スル時マテノ計算ヲ  
以テ其利子ヲ拂フヘキモノトス但負債主ノ申出ニ因リ會社ノ許可ス  
ル所ノ金額ヲ一時ノ再使用スルニ因テ領收スヘキ收得ヲ會社ヨリ負  
債主ニ給スルモノハ此限ニ非ス

本條第四項ニ掲グル費用ハ契約ヲ履マサル「アル」又ハ其他ノ原因ニ因リ  
會社ヨリ直チニ其貸金ノ返却ヲ請求スル場合ニ於テモ支拂フヘキモ  
ノトス

會社ハ現負債主舊負債主又ハ其相續人ヨリ支拂フヘキ年賦ノ金額ニ  
充タザルモノ又ハ年賦金半年分ヨリ以下ノ金額ヲ以テ負債ノ返辨ヲ

爲スヲ拒絶スル權理アリトス  
 濟崩トシタル貸附金ノ全部又ハ一部ノ期限前ノ償還ハ額面ニ因リ手  
 形ヲ以テ償還スル貸金ノ利子ト同シ高ナル金額ヲ添フヘシ  
 負債ノ五十萬「リ」ニ越エサル時ハ借主ハ其元金ノ五分ノ一ヲ消却  
 スル「」ニ其割合ヲ以テ記入シタル書入質金高ノ殺滅ヲ爲スノ權理ヲ  
 有スルモノトス負債ノ五十萬「リ」ニ越ユル場合ニ於テハ其金額ノ  
 五分ノ一及其越高ノ十分ノ一ヲ消却セハ一部ノ殺滅ヲ爲スヲ得ヘシ  
 一部ノ殺滅ハ書入質權保存局ニ公証人ノ檢印シタル會社ノ申立書ヲ  
 差出シテ爲スヘキモノトス

第九條

發行スル手形ノ金高ハ書入質權ノ金高ヲ以テ保證シ貸付ニ係ル金額  
 ハ先取ノ權ヲ以テ手形ノ利子及濟崩ノ支拂ニ供スヘシ但手形ハ會社  
 ニ對スルノ外其所持人ニ他ノ權理ヲ與ヘサルモノトス  
 手形ハ臺帳タル帳簿ヨリ分離シ發行シタル番號ヲ以テ公證シタル「」

ヲ示スヘシ其手形ハ記名及無記名トシ所持人ニ支拂フ義務アルモノ  
 トス記名手形ハ讓渡ノ時ニ會社ニ於テ元金ヲ保證スルノ外他ノ保證  
 ナシシテ移傳スヘキモノトス  
 記名手形紛失ノ場合ニ於テハ規則ヲ以テ定ムル所ニ從フヘシ  
 記名手形紛失又ハ毀傷シタル場合ニ於テ定メタル期滿免除ノ期限  
 ヲリ五年ヲ過キテ發見ナキキハ會社ハ請求スル權理者ニ約束手形ヲ  
 交付スヘシ  
 借主ノ前半期ニ於テ爲スヘキ濟崩ノ部分ニ當ル金額ヲ以テ抽籤法ニ  
 因リ本半期ノ流通手形ノ償還ヲ爲スヘキモノトス  
 期限前ニ元金ノ返還ヲ爲スキハ元金及其他支拂ヲ除クノ外同半期內  
 ニ正金ヲ以テ拂込ムヘシ  
 會社又ハ設置物ハ拂期限ヲ定メタル利子ヲ附シタル手形ヲ流通セシ  
 ムルキハ其期限毎ニ前ノ方法ニ因リ利子ヲ生スル書入質貸金ノ減シ  
 タル高ト同シ金高ニ當ル手形ヲ抽籤スヘシ

手形ノ所持人ヨリ濟崩スヘキ部分ノ濟崩ヲ爲サ、ルキハ會社之ヲ爲  
シテ業務ヲ停止スヘシ書入質物ノ不足スル時亦同シ  
手形ノ抽籤ハ公然ト行フヘシ實物ヲ以テ返還スル手形ハ規則ニ定メ  
タル方法ニ因リ會社之ニ消印スヘシ  
當籤ノ手形ハ本年半期以後ハ利子ヲ生セサルモノトス  
抽籤ヲ執行スル毎ニ王國官報ヲ以テ廣告スヘシ

第十條

手形ハ定款ニ定メタル金高ヲ限リトシ各貸金會社ニ於テ立替金ノ質  
物トシテ領收スルヲ得又ハ其手形ハ或方途ニ使用スル資本ノ金高ニ  
達スルマテ其時ノ相場ノ五分ノ四以内ヲ以テ土地抵當銀行ニ於テ之  
ヲ領收スルヲ得  
國立銀行ハ法律ニ因テ與ヘラレタル權理ヲ以テ手形ノ寄托ニ對シテ  
立替ヲ爲シ及ビ二人ノ署名アル證券ノ割引ヲ承諾スルヲ得但其保證  
トシテ貯金ヲ増シ政府ノ下付スル年金ニ付キ其定款ニ定ムル所ニ因

リ手形ヲ發行スヘシ

第十一條

會社ハ土地抵當ノ貸附ヨリ生スル純益金ノ中ヨリ四分ノ一ヨリ少カ  
ラサル金額ヲ引去リ其金高ノ第二十八條ニ掲ル規則ニ定メタル額ニ  
至ルマテ準備金ヲ積立ツヘシ  
残余ハ特設ノ規則又ハ定款ニ因リ預ケ入レト爲スヘシ

第十二條

會社ニ於テ書入質權先番ノ効ヲ得タルキハ借主ハ法律又ハ契約又ハ  
裁判宣告ヲ以テスル一般記入ノ殺滅ヲ請求スルノ權理ヲ有スル者ト  
ス  
記入シタル債主ニ支拂フヘキ金額ヲ償還シタルキハ債主ノ特權又ハ  
書入質權ニ係ル金額ノ滌除ヲ請求スルヲ得債主ハ期限ニ先テ爲ス償  
還ニ故障ヲ陳フルノ權理ナキモノトス支拂ハ如何ナル事故アル場合  
ニ於テモ普通法ノ規則ニ因リ入費負擔ヲ以テ爲スヘキモノトス

第十三條

會社ニ於テ貸附ヲ爲スルハ其債權ノ記入ヲ爲シ此記入ヨリ他ニ記入又ハ賸記ナキコトヲ書入質權保存局ニ於テ證明シタル後効ヲ生スヘキノ契約ヲ借主ト締結スヘシ

此場合ニ於テハ會社ハ確定契約ヲ結ビ豫メ費用ヲ拂ハシメテ貸附金ノ金額ニ當ル手形ヲ借主ニ交付スヘシ

書入質權保存人ハ確定證書ノ差出アレハ既ニ爲セル記入ノ傍白部ニ手形ノ發行ト共ニ次ノ支拂期限ヲ記シ又最初記入ノ部分ニ傍白部ノ記入ヲ爲シタルコトヲ證明スヘシ

納税及公證人保存人ノ報酬ニ付テハ公證及ヒ受取證並ニ前項ニ掲ル記載ハ書入質權ノ帳簿上ニ於テ一種ノ證書ト見做スヘシ

第十四條

會社ノ爲メニ書入質權ノ記入ハ裁判ニ因リ返還ノ停止ヲ宣告スヘキ豫定ノ日ヨリ少ナクモ十日以前ニ廣告ヲ爲シタルハ不都合ノ

事故アルニ拘ハラヌ効アルモノトス

第十五條

會社ニ於テ爲シタル又ハ代權或ハ讓渡ニ因テ爲シタル書入質權ノ記入ハ法律ヲ以テ定メタル期限書入質權ノ保存人ヨリ職權ヲ以テ改メテ記入セシムヘシ

第十六條

負債主ノ全部相續人及ヒ全部又ハ格段ナル名義ヲ以テスル相續人ハ其負債主ノ書入質權アル財産ヲ所有セシキト如ク其財産所在ノ地ニ於テ裁判所ニ其住所ヲ撰フノ義務ヲ尽クシテ會社ニ告知スヘシ會社ハ其告知ニ因リ債負債主ニ對スル如ク之ニ對シテ其手續ヲ爲スヘシ此告知ナキ場合ニ於テハ前ニ言ヘル記入ハ裁判證書ノ効力ヲ有シ會社ニ屬スル物件寄託支拂命令公賣ノ効アルモノトス本人ノ死亡又ハ賣却又ハ他ノ名義ニ因リ或ハ一時ノ所有ニ歸シタル資本ヲ分離シ又ハ分離セズシテ一名又ハ數名ノ相續人又ハ第三ノ者ノ手ニ移リタル

キハ會社ハ記入アル負債主ニ向テ之ヲ要求スルヲ得

第十七條

治産ヲ禁シタル者未定年者嫁賣ノ元金及一般法律規則契約又ハ遺言ニ因ル所ノ資本金ハ書入質權ヲ以テスル貸附又ハ不動産購求ニ使用スベキモノトス然ラサルキハ手形モ亦變更スルヲ得ベシ

第十八條

伊太利公債證券ノ毀損偽造變造ニ係ル刑法ノ諸條ハ手形ニモ亦適用ス

第十九條

手形ノ利子及帳簿取引貸借金等ノ如キハ寄托ス可ラサルモノトス

第二十條

會社ノ規則ニ從テ記入スル會社ノ帳簿及簿冊ハ負債主及第三ノ人ニ對シ裁判ニ於テ効アルモノトス

第二十一條

會社ハ年賦金ノ取立ヲ爲スニ政府ニ於テ動産ヲ公賣シテ直稅ヲ取リ立ツルト全シ効力ヲ以テ拂込遲延ノ負債主ニ對シ訴ヲ爲スヲ得

第二十二條

訴訟法第五百五十七條ニ掲ル所ノ施行證書ノ謄本ヲ得ル爲ニ會社ヨリ爲ス所ノ請求ハ負債主ニ豫告スルヲ要セスト雖モ所管ノ裁判所ハ唯々會社ノ請求ニ因リ謄本ヲ命令スヘキモノトス

第二十三條

訴訟法ニ因テ定メタル所有權取上ノ訴訟ハ次ノ如ク改定ス

甲 支拂ノ命令書ハ貸附契約ノ時撰ヒタル住所ニ向テ負債主又ハ

其相續人ニ通達スヘシ他ノ證書又ハ裁判宣告書通達ノ爲メ委托人ヲ設ケサルキハ此規則ニ因ルヘキモノトス

委托人アルキハ其證書及宣告書ヲ之ニ通達スルモノトス

乙 支拂ノ命令書ヲ負債主ニ通達シタル日ニ於テ會社ハ所有權取上ヲ爲ス地ノ裁判所々長ニ財産ノ寄托人ヲ請求スルヲ得其寄托ハ

故障ヲ陳ヘ又ハ控訴ス可ラサル命令ヲ以テスルモノトス  
 其寄托人ハ收穫及利益ヲ取立テ其金額ハ公税及事務費ヲ引キ去テ  
 會社ニ拂ヒ込ムヘシ  
 他ノ債主ノ請願ニ因テ寄托人ニ撰ハレタル者モ亦同シ義務アルモ  
 ノトス  
 會社ハ寄托人改撰及他人ノ代權ヲ裁判所々長ニ請求スルノ權理ア  
 ルモノトス所長ハ控訴ヲ許サ、ル命令ヲ以テ其處分ヲ爲スヘシ  
 寄托人任命ノ爲メニスル召喚ノ期限ハ民事裁判所々長之ヲ半期以  
 上ニ短縮スルヲ得  
 丙 會社ハ貸附金ノ約定書中ニ定メタル不動産ノ價ヲ賣買ノ定價  
 ト爲シ又ハ訴訟法第六百六十三條ニ掲クル財産評價法ニ因テ算定  
 シタル價ヲ以テ不動産ノ競賣ヲ請求スルヲ得  
 評價ノ方法如何ナルモ會社ハ訴訟法第六百六十三條ニ從フノ義務  
 ハアラザルモノトス又賣却或ハ再賣却ヲ執行セザルモハ同法第六

百七十五條ノ第二項ニ定ムル方法ヲ以テ次回ノ競賣ヲナスヲ得ヘ

丁 他ノ債主ヨリ所有權取上ヲ申立タル場合ニ於テハ會社ハ第六  
 百六十四條ノ代權規定中ノ財産ヲ目的トシテ訴訟スルノ義務ナシ  
 シテ所有權ヲ代有スルヲ得ルモノトス

戊 裁判官ハ訴訟法ニ最長ノ期限及最短ノ期限ヲ定メタル場合ト  
 雖モ土地抵當銀行利益ノ爲メ常ニ最短期限ヲ定ムヘシ

己 不動産ノ購求者ハ負債主財産ノ配當ヲ待ツコトナク會社ノ貸出  
 ニ屬スル資本、手數料及費用ノ金額ヲ賣却ノ時ヨリ二十日以内ニ支  
 拂フヘキモノトス

右ニ違背スルモノハ法律ニ掲クル方法ニ因リ競賣シタル不動産ヲ  
 再賣シ其費用且保險料ヲ拂ハシムヘシ但會社ニ對シ相當ノ利子ヲ  
 附シテ金額ヲ償還スルノ義務ナキモノトス

前項ニ掲クル分ノ支拂ハ競賣ノ日ヨリ二十日以内ニ競買人ヨリ爲

スヘキモノトス他ノ債主ヨリ裁判ヲ願ヒ出タル時ト雖モ賣却ノ規則ニ從フノ義務ナシ

第二十四條

前條ニ定メタル特別訴訟法ハ土地抵當銀行ニ書入質トシタル財産ノ交付ニモ亦適用スヘシ  
土地抵當銀行ニ書入質トシタル不動産ノ購得者ニシテ滌除ノ裁判ヲ請ハント欲スルモノハ購得確定ノ日ヨリ二十日以内ニ土地抵當銀行ニ拂フヘキ代價ノ部分ヲ拂ヒ入ルヘシ

第二十五條

土地抵當貸附業務ノ爲メ本律ニ定メタル債主ノ特權及其他ノ權理ハ財産ヲ州邑又ハ他ノ無形人ニ屬スル書入質權ニ附シタル時ニモ亦効アルモノトス

第二十六條

土地抵當貸附金業務ノ性質及ヒ其他會社ノ設置ニ係ルモノハ公益ト

見做スベシ公益ト認メテ公告スル制規ト方法トハ規則ヲ以テ定ム

第二十七條

土地抵當ノ貸附ヲ爲ス所ノ會社ハ農工商務省ノ監督ヲ受ケ規則ニ定メタル方法ニ因テ其業務ヲ行フヘシ

第二十八條

國王ノ布告ヲ以テ認可スル規則ニ因リ本律施行ノ諸事ヲ定ム可シ  
特ニ定ムヘキモノハ左ノ如シ

手形ノ形狀及額面金額其額ハ百「リ」ラヨリ以下タル可ラス  
手形ノ發行濟崩手形ノ抽籤其償還及記名手形紛失ノ場合ニ於テ新證書ノ交付等ニ關スル規則  
書入質權ニ附スル不動産ノ性質及形狀不動産ノ價格ヲ示定スル規則  
書入質トシタル製造所ニ火災保險ヲ附スルノ義務及特別ノ事項  
價格ノ減却所有物ノ變換又ハ所有權加害ノ爲メ書入質權ニ附シタル財産ニ變更アリシト借主ヨリ會社ニ告知スヘキ方法及期限



帳簿取引貸借ニ係ル規則期限前返金ノ限界及重ナル條件  
準備金使用ノ規則政府ノ監督ヲ行フヘキ限界及形式

本布告ハ國璽ヲ捺シテ伊太利國法律布告全誌ニ掲載スルヲ命ス各  
夫レヲ注意シ又注意セシムル所アレ

一千八百八十五年二月二十二日羅馬ニ於テス  
ウンベルト

奉勅

ベグリマムサー  
アマリヤーニ

規則

一千八百八十五年二月二十二日附第二千九百二十二號土地抵當銀行  
條例施行規則ヲ認可スル一千八百八十五年七月二十四日ノ布告

上帝ノ惠ト國民ノ望トニ因リ伊太利國ノ王タルウンベルト一世

一千八百八十五年二月二十二日附第二千九百二十二號ノ土地抵當銀  
行條例第二十八條ヲ檢査シ

參事院ノ議ヲ證ヒ

宰相會議ノ意見ヲ聽キ

我農工商務大臣及大藏大臣ノ稟告ニ因リ

布告ス

單條

一千八百八十五年二月二十二日附第二千九百二十二號ノ土地抵當銀  
行條例施行規則ヲ木書ニ附録トシタルヲ認可ス

本布告ハ國璽ヲ捺シ伊太利法律布告全誌ニ掲載スルヲ命ス各夫レ注  
意シ又注意セシムル所アレ

一千八百八十五年七月二十四日モンツアニ於テス

ウソベルト

奉勅

ベジリマルヂー  
アマリヤーニ

一千八百八十五年二月二十二日附第二千九百二十二號土地抵當銀  
行條例施行規則

第一章 土地抵當貸借營業許可

第一條

土地抵當貸借營業ノ許可ヲ得ント欲スル會社及設置物ハ農工商務省  
ニ請求書ヲ出スベシ  
其請求書ニハ左ノ各項ヲ記入スベシ

第一 從來ノ尋常商業會社ニ在テハ定款ヲ改正シタル社員會議ノ  
調書ノ謄本及ヒ商法ニ因リ改正シ寄託シ揭示シ及ヒ廣告シタル  
會社定款ノ謄本

第二 無形人ノ性質ナル設置物ニ在テハ其代理者ノ審査シ主管官  
廳ノ認可ヲ受ケタル議決書ノ謄本

第三 特別ノ法律ニ因テ設ケタル貸金會社ニ在テハ會社中ニ於テ  
最上ノ監督ヲ爲ス所ノ集會又ハ會議コンベンツノ調書ノ謄本及其特別法律

ニ因テ定メタル規則ヲ添ヘ其規則ナキハ商法ニ因テ定メタル規則ヲ添ヘ改正セタル定款

第四 新設ノ會社ニ在テハ現行法ノ規程ヲ遵奉シタル證書

農工商務省ハ設置物又ハ會社ノ法律上ノ狀況ヲ明ニスルニ必要ナル書類ヲ悉ク要求スルノ權ヲ有ス

第二條

許可ノ布告ハ法律及本規則ヲ遵奉シタルコトヲ證明シタル後參事院ノ意見ヲ聽キ農工商務省ヨリ上申スヘシ

手形ヲ發行スルノ權ハ會社又ハ設置物ノ拂込資本ノ半額ニ同シキ金高ノ書入質債權ヲ有スルコトヲ證明シタルモ他ノ布告ヲ以テ與フルモノトス

第三條

手形ヲ發行スルノ許可ヲ請求スルモハ會社又ハ設置物ハ各種ノ債權ニ付左ノ各項ヲ示シ其所有スル書入質債權ノ目錄ヲ出タスヘシ

甲 負債主ノ姓名及住所

乙 負債ノ金高

丙 不動産ノ性質面積價格其所在地及書入質權ヲ記入シタル書入質權保存局

丁 證書ノ日附及ヒ性質並ニ其證書ヲ領收シ又ハ公證シタル官廳ノ名

第四條

農工商務省ハ會社又ハ設置物ニ貸附金ニ係ル契約書ノ存在スルモハ之ヲ出ササシムルノ權ヲ有ス其官廳ニ寄托シアルモノハ設置物又ハ會社ノ費用ヲ以テ閱覽ヲ求ムルヲ得

農工商務省ハ書入質權保存人ナシテ申立タル書入質權ノ記入ノ現在スルコトヲ證明セシムルノ權ヲ有ス其費用ハ設置物又ハ會社ノ負擔ナルヘシ

第五條

通貨ヲ以テ資本半額ヲ限トスル書入質權ニ於ケル貸附ハ濟崩又ハ一回ニ償還スルヲ得

貸附ノ金高ハ法律第四條ニ因リ保証トシタル不動産ノ價格ノ半額又ハ四分ノ三ヨリ多カル可カラス  
濟崩ヲ以テ貸附金ヲ償還スルヲ得ルキハ貸主ハ書入質權登記税印稅其他ノ事項ニ係ル法律第七條ニ因ルヲ得  
其他ハ一般ノ法律ニ定ムル所ニ因ル

第二章 業務

甲 不動産上ノ業務

第六條

土地抵當貸附ノ設置物及ヒ會社ハ不動産ヲ以テスルニアラサレハ貸附ヲ爲スヲ得ス其不動産ハ貸附ノ設置物又ハ會社ニ於テ貸附期限ノ間取戻シ得ルヲ確實ト認メタルモノタルヘシ  
民法第一千五百十五條及ヒ第一千五百二十條ノ明文ニ因リ買戻ノ契約ヲ

爲シタル不動産ハ貸附ノ契約中賣主ノ買戻ノ契約ヲ以テ買戻ノ權理ヲ行フ場合ニ於テ書入質權ノ記入ヨリ生スル諸般ノ義務ヲ負フヲ請求セサルヨリハ土地抵當貸附ノ業務ニ附スヘカラス  
工業ノ使用ニ供スル不動産ハ其特別ノ使用ニ因テノ外其ノ有スル價格ニ對シ負債ノ保証物ト爲スヲ得

第七條

書入質權ヲ以テスル貸附ノ保証ニ充テタル製造所ハ借主ノ費用ヲ以テ火災保險ヲ付スヘシ  
貸附ノ證書ニハ土地抵當貸附ノ設置物又ハ會社ノ爲メ保險ニ因テ得ヘキ金額ヲ直ニ領收スル權理ノ讓渡ヲ記入スヘシ  
設置物又ハ會社ハ其設置物又ハ會社ノ名義ヲ以テシ保險ヲ付シ年々ノ保險料拂込ハ其仲介ヲ以テ爲ストヲ請求スルヲ得此場合ニ於テハ保險料ハ年賦ノ金高ニ加ヘテ支拂フヘキモノトス  
燒失又ハ損傷其他公用所有權取リ上ケ又ハ法律ニ因テ命セラル、使

用ノ爲メニ保險者ヨリ拂フヘキ金額ハ債主タル設置物又ハ會社ニ支拂ヒ期限前ノ拂込ノ如ク負債ノ全部又ハ一部ノ消却ト見做ス可シ保險人ヨリ支拂フ受取金ハ債主タル設置物又ハ會社ノ承諾ノ上燒失又ハ損傷ヲ恢復スルノ目的ヲ以テ事宜ニ因リ負債主ニ返還スルヲ得此規則ハ動産ニ係ル他ノ保險ニモ適用スヘシ

第八條

財産價格ノ減却ノ如キ變更又ハ所有物ヲ擾亂シ又ハ所有主ノ權理ヲ害スル第三者ノ所爲ハ其變更所有物ノ擾亂又ハ所有權ノ争ヒ起リシヨリ一ヶ月以内ニ負債主ヨリ設置物又ハ會社ニ告知スヘシ此場合ニ於テ設置物又ハ會社ハ事重大ト認ムレハ負債主ノ費用ヲ以テ書入質トシタル不動産ヲ新クニ評價シ民法第九百八十條ニ從ヒ負債ノ支拂又ハ書入質ノ補足ヲ請求シ民法第一千二百三十四條ニ因テ權理ヲ行ヒ負債主ヲ訴ルヲ得

乙 書入質權ヲ以テスル帳簿取引

第九條

書入質權ヲ以テ保証スル帳簿取引貸借ノ返金ハ法律第四條第四項又ハ商法第十卷ニ定メタル規則ニ因ルベク又ハ商法第十卷第二章ニ定メタル規則ヲ適用シ引出手形ヲ以テスルヲ得

丙 禁止ノ業務

第十條

一千八百八十五年二月二十二日ノ法律ニ因テ許可シタル土地抵當貸附ノ設置物及ヒ會社ハ其定款ヲ以テ事務所ノ設置ニ必要ナル物件及其利益ノ爲メ在來ノ貸附ヲ保證スル爲メニ購得スルモノ、外不動産ヲ得ルノ禁ヲ定ムヘシ  
設置物又ハ會社ハ貸附保證ノ爲メ又ハ支拂要求ノ保證ノ爲メニ不動産ノ讓受人又ハ公賣人タル場合ニ於テハ五ヶ年以内ニ賣却スヘキモノトス

第三章 手形ノ發行

第十一條

貸附ハ手形ヲ以テ土地抵當貸附ノ設置物及ヒ會社ハ法律第四條ノ第一項及第二項ニ因リ貸附金額ニ同シキ額面價格ヲ以テスルニアラザレハ手形ヲ發行スルヲ得ズ  
設置物及會社ハ手數料ヲ取り又ハ取ラスシテ債主ノ爲メニ手形ノ賣却ヲ擔當スルヲ得

第十二條

手形ハ五分四分五厘及ヒ四分ノ利息ヲ以テ發行スルヲ得  
三種ノ内一種ノ利子額ヲ以テ手形ヲ發行シ及ヒ一時ニ三種ノ利子ヲ以テ手形ヲ發行スルハ設置物又ハ會社ノ權内ニアリトス  
一定利子額ノ手形ハ殊別ノ一連トス

第十三條

一時ニ二種或ハ三種ノ利子ナル手形ヲ發行スル場合ニ於テハ借主ハ其内一種ヲ撰フノ權ヲ有ス

借主ノ拂フ可キ利子ハ發行シタル手形ノ利子ニ同シ

負債主ハ舊キ貸附金ヲ消却スルノ目的ヲ以テ低額ナル利子ノ手形ヲ以テ新ニ貸附ヲ請求スルヲ得設置物又ハ會社ハ其利益ノ爲メ此ノ交換ヲナスニ因ル可キ方法ヲ定ムヘシ

第十四條

法律第八條ノ明文ニ因リ支拂遲延ノ爲メニ拂フヘキ利子ハ民法第八百三十一條ニ因リ法律ノ利子ヨリ多カルベカラズ

第十五條

手形ハ臺帳ヨリ分離シ繼續順次ノ番號ヲ附ス番號ハ三種ノ手形ニ格別ニ附スルモノトス  
手形ノ臺帳ニハ手形ヲ發行シタル順序ニ因リ公證シタルヲ示ス可シ分離シタル手形ニハ發行ノ日附ヲ示スモノトス  
手形ハ体裁寸方等ニ付テハ各設置物又ハ會社ノ爲メニ農工商務大臣ノ認可シタル離形ト同一ナルヘシ

第十六條

手形ハ社長又ハ理事員會計員及會計檢査ノ任ニアル者之ニ署名シ其手形ヲ發行スル設置物ノ印ヲ捺スヘシ  
手形ヲ分離シタル査帳ニモ手形ト同シク署名ス可シ

第十七條

手形ノ額面價格ハ各五百「リ」ヲタル可シ設置物又ハ會社ハ手形ノ寄托ニ對シ各百「リ」ヲノ五種又ハ其以下ノ分數ヲ發行スルノ權ヲ有ス其手形ノ各種ニハ番號ト共ニ寄托シタル手形ノ番號及種類ヲ記シ其手形ヲ引キ上クルルハ價還スヘキモノトス

第十八條

手形ハ無記名及記名トス記名ハ所持人ノ姓名ヲ書スルモノトス  
手形ニ添ユル辨濟證書コハ手形ノ番號及種類ヲ記載スルモノトス  
手形ノ辨濟證書ヲ悉皆出シ終リタル時ハ設置物又ハ會社ハ新手形ヲ發行セズシテ舊手形ニ新ニ辨濟證書ヲ附添スルヲ得

第十九條

記名手形ハ他人ノ名ニ換轉スルヲ得記名手形無記名手形共ニ次ノ條ニ定メタル規則ニ因リ他人ニ移轉スルヲ得

第二十條

記名手形ノ移轉ハ左ノ各項ニ因テ爲ス可シ

甲 公證シタル又ハ裁判上ノ契約

乙 権理者又ハ其特別ナル委任者ヨリ手形ヲ發行シタル土地抵當貸附ノ設置物又ハ會社ニ爲ス申立其申立ノ證明者ハ公證人ノ公證ヲ請フヘキモノトス

丙 公證人ノ公證シタル権理者ノ證書ト共ニ讓渡ノ申立書ヲ附シタル手形ノ差出

第一及第二ノ場合ニ於テハ手形ノ寄托ヲ爲スベシ

第二十一條

裁判ノ宣告ニ因テ施行スル記名手形ノ移轉ハ其裁判ヲ以テ命令シ宣

告書ニ手形ヲ添フベシ

第二十二條

相續ノ場合ニ於テ相續人遺物讓受人又ハ權理アル者ニ手形ノ移轉ハ原書又ハ公正ノ賸本ヲ以テ適法ノ所有證書及權理者ノ死去證書ヲ豫メ納附シテ爲スモノトス相續權爭ノ場合ニ於テハ移轉ハ裁判宣告書ヲ示スニ非サレハ爲スヲ得ズ

財産讓渡又ハ分散ノ場合ニ於テハ現行法律ニ因リ移轉ハ所管裁判所ノ宣告ニ因テ爲スヘキモノトス

死去ニ因リ財産ノ讓渡又ハ分散ノ場合ニ於テハ移轉ノ請求書ハ裁判所ニ於テ移轉ヲ手形ノ納附ナク爲スヘキヲ命令シタルキノ外土地抵當貸附手形ヲ添フヘシ此終リノ場合ニ於テハ移轉ハ第二十七條ニ定メタル法式ヲ履行シ其時ニ定メタル期限ノ終リタル後ニ非レハ施行スヘカラス

第二十三條

記名辨濟證書ヲ添ヘタル記名手形ヲ無記名辨濟證書ニ改ムルニハ其手形ヲ發行セル設置物又ハ會社ニ請求書ヲ出タシテ其手形ヲ添フベシ

第二十四條

無記名辨濟證書ヲ添ヘタル記名手形ヲ無記名辨濟證書ノ無記名手形ニ更換スルヲ及記名證書ヲ添ヘタル記名手形ヲ無記名證書ノ記名手形ニ更換スルニ付テハ權理者及其特別ナル委任者ノ署名シタル證書ニハ公證人ノ公證ヲ受クヘシ

其請求書ニハ更換者ノ證書ヲ添フ可シ

本條ニ掲クル更換ハ手形ニ別段ノ契約ナキ時ニ限り爲スヲ得可シ

第二十五條

設置物又ハ會社ハ手形移轉及更換ノ爲メ帳簿ヲ備フヘキモノトス

第二十六條

記名辨濟證書アル記名手形ノ紛失盜難又ハ毀損シタル場合ニ於テハ



其手形ヲ發行シタル設置物又ハ會社及名宛人又ハ其正當ナル代理者ヨリ辨濟證書ノ支拂ヲ爲シタル事務所ニ申立ヲ爲シ利子ノ支拂ヲ停止スルカ又ハ紛失盜難又ハ毀損シタル手形ト同額ノ手形ノ渡シ方ヲ請求スヘシ

第二十七條

設置物又ハ會社ノ周旋ニ因リ請求者ノ費用ヲ以テ過テ異ニシテ三回王國ノ官報設置物又ハ會社所在ノ州ノ一新聞紙及記名者ノ住所アル州ノ一新聞紙ニ公告スルカ又ハ手形ヲ毀損シ或ハ盜マレ或ハ紛失セシト確認スル場合ニ於テ毀損盜難又ハ紛失ノ公告ヲ出シタル日ヨリ六ヶ月ヲ經過スルモ會社及ヒ中央ノ設置物ニ故障ノ申立ナキトテ公告スル時ハ會社ハ代リニ新手形ヲ發行スルヲ得

第二十八條

前條ノ例ニ因リ六ヶ月ヲ過ルモ故障ノ申立ナキトテ設置物又ハ會社

ハ代リノ新手形ヲ發行シ又蓋帳ニ手形ノ番號ノ外舊手形ノ無効タリシト記載スベキモノトテ設置物又ハ會社ハ經過シタル六ヶ月分ノ利札ノ拂渡ヲナスヘシ

第二十九條

六ヶ月ニ紛失盜難又ハ毀損ト申立アリシ手形ノ所有者又所持人ヨリ代リノ新手形ヲ交付スルニ付キ故障ノ申立アル場合ニ於テハ設置物又ハ會社ハ此事ニ係ル議事ヲ中止シ所管裁判所ノ裁判アリシ上ニ非レハ手形ヲ發行ス可カラス但手形ノ名義人又ハ所持人ノ協議ノ上訴訟ヲ止メ決定ノ記載ヲ取消サシムルキハ此限ニアラス

第三十條

無記名辨濟證書ヲ附シタル記名手形ノ紛失盜難又ハ毀損ノ場合ニ於テハ前條ノ如クスヘシト雖モ既ニ發行セル證書ノ支拂ヲ中止スルヲ得ス

紛失盜難又ハ毀損セル手形ノ代ニ發行スル手形ハ紛失盜難又ハ毀損

手形ノ辨濟證書ニ定メタル時ニ非レハ利子支拂ヲ爲ス可カラ  
ス

第三十一條

手形ノ紛失盜難又ハ毀損ノ申立ヲ爲スルハ請求者ハ設置物又ハ會社  
所在ノ地ニ於テ住所ヲ撰フヘシ  
第二十六條及以下ノ條ニ掲ル證書又ハ訴訟ノ入費ハ總ヘテ請求者ノ  
負擔タルヘシ

第三十二條

新手形ヲ渡シ舊手形ヲ無効トシタルキハ故障ヲ陳ルヲ許サス之ヲ關  
スル證書又ハ裁判宣告書ハ設置物又ハ會社ニ對シテ無効タルヘシ

第三十三條

記名手形ノ紛失盜難又ハ毀損ノ申立書ヲ設置物又ハ會社ニ出シタル  
時ハ此時以後手形ノ償還ヲ爲シ或ハ利札ノ支拂ヲナス他ノ會社又ハ  
設置物ニ對シ前ノ會社又ハ設置物ヨリ通知シテ利子ヲ中止セシム

第三十四條

記名手形ノ紛失盜難又ハ毀損ニ付訴訟ノ間ハ設置物又ハ會社ノ本店  
支店出張所ニ於テ公衆ノ縱覽ヲ許スヘキ室内ニ紛失盜難又ハ毀傷ノ  
告知アリシ手形ヲ略記シ其理由ヲ記シタル表ヲ掲シヘキモノトス

第三十五條

無記名手形ノ紛失盜難或ハ毀傷ノ場合ニハ商法第五十六條及第五十  
七條ヲ適用スヘシ

第四章 手形ノ償還

第三十六條

各半期ノ始メニ於テ前半期ニ負債主ノ拂ヘキ(公然ニ支拂ヒタル時ニ  
非スト雖モ)消却金ノ高ニ同シキ手形ノ額面金額ヲ償還スヘシ

第一 所有權取上ニ因リ設置物又ハ會社ノ資本トシテ取立タル金

額ハ期限前ノ償還ト認メ前半期ニ期限前ノ資本返金トシテ正金  
ヲ以テ拂ヒ込ミタル金額會社又ハ設置物ニ於テ確定競賣ニ因リ

所有權取上ノ不動産ノ所有主タル時モ亦同シ

第二 損失ノ金高

第三十七條

設置物又ハ會社ハ半期損益勘定閉鎖ノ日ヨリ八日以内ニ甲號離形ニ因テ表ヲ製シ書入質各種ニ付左ノ諸項ヲ示スヘシ

第一 元金高

第二 契約ノ年數

第三 濟崩ノ年限

第四 濟崩半期分ノ金高

第五 手形辨濟ノ金高

但シ手形辨濟ノアリシキ

第六 通貨辨濟ノ金高

全上

第七 本半期算定損金高

全上

二種又ハ三種ノ利子額ヲ以テ手形ヲ發行スル設置物又ハ會社ハ手形各種及其手形ヲ以テスル貸附各種ニ付特別ノ表ヲ製スヘキモノトス

其表ノ寫ハ社長又ハ理事員及會計員之ニ署名シ農工商務省ヘ傳達スヘシ其寫ニ記入スル貸附ハ一件毎ニ名簿ノ番號ヲ附シ負債主ノ姓名ヲ記スルヲ要セス

第三十八條

農工商務省ハ前條ニ掲ル表中ノ員數ノ正否ヲ點檢スルノ權アルモノトス

第三十九條

合金高(甲號離形第九欄)負債主ヨリ拂ヒ入ルヘキ半期分ノ濟崩金高(第五欄)通貨辨濟ノ金高(第七欄)及本半期算定損金高(第八欄)各種全部ノ償還手形ノ金高ヲ示スモノトス

金高ヲ五百「リ」ラニ分ツ可ラサルキハ五百「リ」ラ以下ノ殘額ハ之ヲ別ニシ次ノ半期ノ末ニ於テ償還スル金高ニ加算スヘシ

第四十條

償還ノ手形ハ抽籤ヲ以テ消却シ各種ニ付特別ノ消却ヲ爲スヘシ消却

ハ毎年二月一日及八月一日ヲ以テ公然執行スヘシ但シ祭日ニ當リタル時ハ通常ノ翌日ニ延期シ政府ノ掛員ノ出席ヲ以テス掛員ハ手形ノ番號ヲモ檢閲スルモノトス

發行セル手形ニシテ未ダ金圓ノ引出ナキモノハ其臺帳ノ番號ニ因リ各別ニ鉢器中ニ藏ムヘシ

政府役員ノ前ニ於テ封印シタル前半期ニ抽籤セザリシ手形ノ番號及發行シタル手形ノ番號ハ設置物又ハ會社ノ鉢器中ニ藏ムベキ者トス又此鉢器中ニハ後ノ半期內ニ發行シタル手形ノ番號ヲ儲藏スルモノトス

政府役員ハ左ノ三條ヲ檢閲スヘシ

第一 封印ヲ切斷シ及ビ鉢器ヲ發開スルコト

第二 増加スル番號ヲ回收スルコト(但鉢器中ニ)

第三 新規ニ封印ヲナスコト

内閣ハ政府役員ニ向テ鉢器中ニ保藏スル手形ノ番號ヲ逐一保證スル

コトヲ命令スルヲ得

抽籤ヲ施行シタル日以後十五日以内ニ王國官報ヲ以テ抽籤シタル番號ヲ布告スルモノトス右ノ公告ハ他ノ紙上ニ於テスルモ妨ケナシ

第四十一條

當籤ノ手形ハ四月及ヒ八月ノ一日ヨリ通貨ヲ以テシテ支拂フベシ但當籤ノ半期ニ利金ヲ附シ後半期ハ利金ヲ附セサルモノトス

第四十二條

償還スベキ手形ニハ辨濟証書ヲ附着シテ保存スベシ紛失シタル其証書ノ金高ハ償還スル金高ヨリ扣除シ漸々ニ回收スル證書支拂ノ義務ハ設置物又ハ會社ニアリトス

第四十三條

抽籤ニ因リ償還シタル無記名手形ハ手形消却ノ印ヲ直チニ捺スベシ此手形ハ抽籤ノ半期ニ於テ政府役員ノ立會ヲ以テ毀消シ記録ニ記載スヘシ

手形ノ償還ヨリ毀消マデニ經過スル期限ハ政府ノ許可ヲ得テ各設置物又ハ會社ノ定ムル所トス

第四十四條

抽籤ニ因リ償還シタル記名手形ニ附着スル辨濟證書ハ直ニ滅却スヘシ但シ期滿免除ノ期限中ハ權理ノ効力ノ爲ニ保存スベシ

第四十五條

借入金ヲ期限前ニ償還シ又ハ他ノ名義ニ因テ支拂ヲナス爲メニ實物ヲ以テ返還シタル手形ハ價格ノナキモノトシテ消却スヘシ場合ニ據リテハ前條ニ定ムル處ニ因リ手形ヲ滅却スルヲ得

第四十六條

手形ノ辨濟證書ハ半期分ノモノトシ其期限ハ各年ノ四月一日及十月一日トス但設置物又ハ會社ハ各年一月一日四月一日七月一日十月一日等ノ期限ノ三ヶ月分ノ辨濟證書ヲ以テスル手形ヲ發行スルヲ得記名證書付キノ記名手形利子ノ支拂ノ時ハ此手形ヲ差出スヘシ差出

人ハ切斷スベキ證書ノ裏ニ書印スベキモノトス

第四十七條

支拂ヒタル證書ハ消却印ヲ捺スヘシ

第四十八條

通貨ヲ以テ貸附金ヲシタル土地抵當貸附ノ設置物又ハ會社ニハ法律第一條ノ第二項ノ明文ニ因リ左ノ箇條ヲ適用スベシ

第三十九條ニ因テ抽籤スベキ手形金高ヲ計算スルヲ但手形發行ニ適當セザル貸附金ハ右ノ計算ニ加ヘズ

此規則ニ附屬スル(乙)雛形ヲ以テ定ムル表式ニ因リ右貸附金ハ金銀ヲ以テスル貸附ノ名義ヲ以テ一般貸附金ヨリ明瞭ニ分別スルヲ要ス又負債主ヨリ辨濟計算ノ法ヲ以テ貸附金返還ヲ辨償シ其貸附金ノ第五條ニ因ルヘキ辨濟第六條ニ因ルヘキ通貨ヲ以テスル償還第七條ニ因ルヘキ精算シタル損毛ヲ差引キ過分アレバ第八條ニ因ル流通外ノモノト公告シテ手形ノ購求又ハ同種貸附金ニ更ニ使用スベキモノトス

本條及ヒ法律第一條ノ例規ニ因リ購求スル手形ハ斜メニ千八百八十五年二月二十二日ノ法例ニ關スル手形ト記載シ設置物又ハ會社ノ長及會計員書印スヘキモノトス

其手形ハ第四十一條ニ因ルノ償還外ノモノトス第四十條ニ因リ右手形ニ記入スル番號ヲ抽籤中ニ入ルヘシ但此抽籤ハ一時ニ行フモノト見做サズシテ第三十六條ニ定ムル償還スヘキ手形ノ高ニ達スルマテ執行スルモノトス

各年六月三十日及十二月三十一日ニ於テ通貨ヲ以テスル貸附金及ヒ關係手形ノ兩金高ヲ拂込ヨタル資本金ノ半額以下タル可カラス

前ニ言ヘル離形ノ股本ハ第三十七條ニ定ムル規則ニ因リ書印シテ是レヲ農商工務省ニ差出スヘシ

第五章 準備金

第四十九條 準備ノ金ヲ積ムニ定メタル年利金四分ノ一ハ發行手形ヲ定限トシ準

備金ノ少クモ資本ノ五分ノ一ニ達スルマテ設置物又ハ會社ヨリ取立ルモノトス是ノ他ノ設置物ヨリ取立ツヘキ金高ハ準備金及保証金ヲ合計シテ流通手形金高ノ十分ノ一以下タルヘシ

前項ノ比例ヲ保持スル爲メニ充分ナル方法ヲ以テ取立ヲ繼續スヘシ

準備金ハ政府ヨリ保証シ又ハ發行シタル手形及ヒ設置物又ハ會社ヨリ發行セルモノニ非ザル手形ヲ以テスヘキモノトス

第六章 政府ノ監督

第五十條

土地抵當貸附ヲ營業トスル設置物又ハ會社ハ農商工務省ノ監督ニ屬ス農商工務省ハ役員ヲ以テ之レヲ理事セシムベシ

第五十一條

役員ハ土地抵當貸附ノ業ニ係ル書類ヲ參考ニ供スル權アルベシ

第五十二條

土地抵當貸附ノ設置物又ハ會社ハ會議ヲ開キ日ヨリ八日間ニ理事會

議ノ議決ヲ農商工務省ニ報告スル義務ヲ有ス農商工務省ハ報告ヲ得  
タルキハ直ニ關係ノ役員ニ通達シ十日以内ニ敕令ヲ以テ右議決ハ規  
則及法例ニ對シテ故障ナキヲ證明スルヲ得

第五十三條

土地抵當貸付ニ係ル監督トハ土地抵當貸付ノ設置物又ハ會社ニ於テ  
法律ニ定メタル事業ノ外ハ他ニ營業セザル事ヲ監督スルヲ云フ役員  
ハ左ノ特別委任ヲ負擔スルモノトス

甲 土地抵當ヲ以テ貸附ケタル金額及法律第一條ニ因ル制限及規  
則ノ條例等ニ因テ拂込ミタル資本ノ半額ニ當ル金額存在ヲ監察  
スルヲ

乙 手形ノ發行ハ書入質貸附ニ相當スルノ目的ニ因ルカ又ハ何々  
ニ向テ發行スルヤヲ監督スルコト

丙 規則ノ第三十七條第四十八條ノ表目ニ掲クル記載書及抽籤ス  
ベキ手形金高等ノ精密ナルヤ否ヲ監察スルヲ

丁 當規則ノ第四十條ニ據ル手形番號ノ抽籤及回收ヲ監査スルヲ  
戊 抽籤シタル手形或ハ期限前ノ貸附金償還ノ爲メ差出シタルモ  
ノカ或ハ全ク償ナキモノト証明シタル手形ノ消却ヲ保証スルヲ

己 本規則ノ第四十三條ニ因ル消却手形ノ毀却ヲ監督スルヲ  
壬 六ヶ月毎ニ調整スル本規則ノ第四十八條及法律第一條等ニ關  
スル手形高及金銀ヲ以テスル貸附金高ニ誤リナキヲ保証スルヲ

癸 業務ノ監査ニ就テハ内閣ハ其命令ヲ以テ郡長ヨリ撰任シタル  
役人一名ニ囑托セシムルヲ得

第五十四條

土地抵當貸付ノ設置物又ハ會社ハ左ノ三條ヲ農商工務省ニ報告スベ

第一項 各二ヶ月ノ末日ニ於テ會社又ハ設置物ノ場所ノ

第二項 年度閉鎖ノ時損益年金差引勘定

第三項 各年度閉鎖ノ時拂込遲延又ハ現ニ訴訟中ニアル貸金ノ特

別ナル証明

第一及第三項ノ日附ハ本規則ニ添ユル(戊)(丁)ノ離形ヲ以テ記スルヲ要ス

第七章 雜則

第五十五條

讓與又ハ代權ニヨリ書入質權ヲ得タル場合ニ於テ他ノ貸主ノ書入質權アリテ委員ノ書入質權ニ妨害アルキハ負債主ハ利金差引勘定ヲ除ク外委員ノ權理ニ屬スル部分ノ金高ヲ拂ヒ期限前ノ支拂ヲ爲スノ權ヲ有スルモノトス

第五十六條

監督費トシテ設置物又ハ會社ヨリ差出ス金額ハ國王ノ勅令ヲ以テ定ム

第五十七條

國王ノ勅令ヲ以テ認可スベキ特別規則ニ因リ法律ノ第三條ヲ施行セ

シム

第五十八條

一千八百六十六年八月二十五日附第三千七百七十七號ノ勅令ヲ以テ認可シタル從來ノ規則及之レニ係ル勅令等ハ都テ廢止トス  
甲乙丙丁戊等ノ離形ヲ添付ス

ウンベルト

奉勅

農商工務大臣 ビグリコルチ

大藏大臣

アマリヤーニ



甲 離形 (設置又ハ會社ノ名) 土地抵當銀行  
 一千八百八十年 月一日ヨリ 至ル半期ニ於ケル借主ノ濟崩金額  
 同半期ニ於ケル精算シタル期限前ノ支拂及損失  
 (規則第十二條第三十七條及第三十九條ヲ施行)  
 手形 利子

金額	一	番名簿ノ	金貸附元
	二	金高元	年契約ノ
	三	年契約ノ	限濟崩期
	四	限濟崩期	金期濟崩ノ半
	五	金期濟崩ノ半	消限手形ノ期
	六	消限手形ノ期	却期ニ因リ正金ノ消
	七	却期ニ因リ正金ノ消	損精
	八	損精	失算
	九	失算	(形引上高) 五七八加算

社長又ハ頭取  
 國王陛下ノ命令ニ因テ檢印ス  
 農商工務大臣 代理大藏大臣  
 會 計 員  
 ベンリマールザー  
 アマリヤニ

乙 離形

(設置又ハ會社ノ名)土地抵當銀行

一千八百八十年一月一日ヨリ

ニ至ル半期ニ於テ債主ノ濟崩金額

同半期消却及精算損失

(規則第四十八條ヲ施行ス)

法律第一條 正金 貸附

金額	番號ノ	一	貸附元	二	契約ノ	三	濟崩ノ	四	半期分	五	正金	六	精算	七	寄託契約ニ因リ 正金又ハ手形ニ シテ再ヒ貸附ニ 用ヒタル金額 八(五六七加)
	日附														

社長又ハ頭取

國王陛下ノ命令ニ因リ捺印

農工商務大臣 大藏大臣

ベソリマルヂー ア、マリヤニ

會計員

丙 離形

(規則第五十四條)

(會社又ハ設置)

土地抵當銀行

何年月日ノ景況

資產										負債										
一	保證資本(一)	リ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	現在金	リ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	正金貸附	リ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四	寄託契約手形(一千八百八十五年二月二十二日ノ法律第二條)	リ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五	元利(百ニ五リラノ貸附)	リ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六	濟崩(百ニ四半ノ貸附)	リ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七	貸附(百ニ四ノ貸附)	リ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八	閉鎖半期計算	リ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九	書入質帳簿取引	リ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	手形支拂期限前償還	リ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	大藏省手形	リ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	保證資本(二)	リ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	名義會社資本金	リ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	指定資本(三)	リ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四	準備金	リ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五	發行手形(四) (百ニ五ノ分)	リ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六	記名 (百ニ四半ノ分)	リ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七	無記名 (百ニ四ノ分)	リ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八	支拂未濟引上手形	リ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九	留置利札	リ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一〇	支拂簿手形ノ利札	リ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一一	帳簿取引信用貸	リ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一二	書入質附保證(爲メ又ハ借)	リ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一三	置トシタル手形ノ寄託	リ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一



